v.19:3

歐人の眼に映じたる東亞の風雲

中央公論

内容

第十九年第三號

本誌は戰時の社會生活を理想化し思想化せんと欲す

THE CENTRAL REVIEW

明治卅一年一月廿九日第三種郵便物認可
毎月一回一日發行　明治卅七年四月一日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京帝國大學文科大學教授 文學博士建部遯吾氏新著

第二卷以下續刊

普通社會學 第一卷 社會學序說

▼(新刊)全壹册 總クロース上製 背皮金文字入 定價金壹圓五拾錢

輓近社會學の講究駸々として隆盛なる豈偶然ならむや社會を經營するは先づ社會を了會するを必要とすればなり本著は東西古今の學說を綜攬し斯學の眞義を闡いて明瞭適切苟くも教育に宗教に政治に經濟に法律に軍事に在來各科の學術が與ふる形式的議論に滿足せずして實質的知識を欲求する者將來文明の眞方途を尋ね社會の根本的革新に意あるの君子は必ず一讀を吝む可からず

◎發兌元 東京市日本橋區本町三丁目十七番地 電話本局三〇二番(特)本局一六一七番

金港堂書籍株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰爭文藝雜誌

新潮

◉壹號四月十五日發行

◉定價 一部拾貳錢○郵税一錢○六冊前金七拾貳錢○毎月一回發行

第壹號內容之一斑

◉戰爭文學とは何ぞ　田口掬汀
◉痛快主義　伊藤銀月
◉戰爭美觀　高須梅溪
◉笹川臨風に與ふ　佐藤紅綠
◉武裝商船　小栗風葉
◉夜營（小說）　田口掬汀
◉軍歌を評す　金子薰園
◉藝術家と婦人　崑崙山客
◉劍を揮へる文人　馬場孤蝶
◉題目未定　西村醉夢
◉同　國府犀東
◉風雲漫語　奥村梅皐
◉戰時新聞論　飯田六彌

詩欄には、蒲原有明、金子薰園、河井醉茗、佐藤紅綠、尾上柴舟、國府犀東諸家の作を掲げ、

雜錄欄には、◉戰時の劇壇◉戰時と新聞◉戰時文壇風聞記◉戰爭の裏面

甘言苦語は、本社諸同人が文學美術演劇の短評にして皆精勁警拔の文字なり

◉和歌……金子薰園選
◉俳句……佐藤紅綠選
◉漢詩……大沼鶴林選

◉**投稿歡迎** 何種のものたるを問はず青年諸君の投稿を歡迎す **奮うて投稿あれ**

東京市麴町區飯田町六丁目廿六番地
新潮社發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

露國の事情を知らむと欲する者は讀よ

羽花仙史 澁江保先生著

露西亞闇黑史

▲四六版三百五十頁餘
▲正價金四十五錢
▲郵稅金六錢
四月一日發行

本書は露國累代の帝王、皇后、皇子、皇女等が多淫多慾にして醜聲外に聞え殘忍苛虐にして恐るべき慘劇を演じ爲めに帝室の紊亂を來たし衆怨の府となれること大小官吏が腐敗の極に達して黃白の爲めに是非を顚倒し良民を苦しむること、並に一般人民が懶惰淫靡にして風俗を壞亂せること等より說き起して同地が寒氣烈しく地味瘠せて動植物の生長に適せず其結果として酒色に沈湎するの惡習を釀したる等のことに及ぼし奇談珍說悉く卷中に網羅せり露國の事情を知らんと欲する者は必ず一讀せざるべからざるの書なり

發行所 東京本郷四丁目五番地 文明堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

英學新報社出版書類

英文書簡
本社編纂

新刊 全壹冊（四六判）洋裝美製本◉紙數三百五十頁◉正價金四拾五錢郵稅八錢

本書は交際用商業用英文書簡の書き方を最も丁寧に說明し約六百の作例を示したれば人事百般のこと悉く其文例を本書に求むることを得へしもし事に臨みて本書の文例を採り之に適用の修補を加ふれば立ろに己の用務を辨ずることを得べし諸君一本を机上に備へて此至大の便を享有すべきなり

英文 英國大家演說集
本社編纂

新刊 全壹冊（四六判）洋裝美製本◉肖像寫眞版七葉挿入◉正價金參拾五錢郵稅六錢

本書はグラッドストン、ヂスレリー、ロズベリー等英國近時の七大政治家が國論を動かし一世を驚かしたる大演說各一編を蒐集せるものにして讀來り讀去りて文字血あり紙上聲あり肖像亦動かんとするの感あり我同盟國の爲政家の高風に接せんと欲するものは本書を執りて之を讀め。

東京高等商業學校教授 高嶋捨太先生著

◉和文英譯集
正價參拾五錢 郵稅六錢

本書今般增訂再版出來せり

東京外國語學校教授 村井知至先生著

英文討論集
新刊 全一冊（袖珍）洋裝美製本 正價貳拾五錢 郵稅貳錢

討論は言論の花にして字々皆金句々悉玉なり一文一章論理の正鵠を失はず條理明晰にして推論機微に入り寸毫の瑕瑾を存ずべからざるなり此活躍せる言論を英文にて讀まば更に一層の妙趣あるべし是を以て本書は東京外國語學校副用教科書に採用せられ又江湖の歡迎を受くること極めて大なり。

◉英文對話編 東京外國語學校教授 村井知至先生著 正價參拾五錢 郵稅六錢

◉アーサー王物語（註釋付） ハーツホーン女史著 正價金四拾錢 郵稅六錢

◉ヱノックアーデン 英學新報社編纂 正價金貳拾錢 郵稅貳錢

◉和漢名家英譯詩歌集 村山敏雄先生著 英人リッテル女史英人コルビー女史米人グリーン女史英人ソントン女史英譯 正價金參拾錢 郵稅四錢

◉和英對譯日本昔噺 壹冊金拾參錢 郵稅四錢

發兌元 東京日本橋區本町 博文館

發兌元 東京神田表神保町 東京堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中央公論

本號目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



「出征」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中央公論



第十九年
第三號

新日本の建設と婦人

茲に新日本と云ふのは、彼の維新開國以來、封建は打破せられて、憲政は成立し、男は帶刀を棄てゝ、洋杖を突き、女は前垂の代りに、海老茶の袴を穿く、この今日の有樣を云ふのではない。

否、余を以て云はしむれば、今日の日本の有樣は、畢竟新日本の準備時代で。眞の新日本なるものは、寧ろ今日以後に來るのである。今日以後とは、取りも直さず、此度の日露の戰爭以後を云ふのだ。

抑もわが國開闢以來、兵を外國に出だした例は、實に三四回に止まらぬが、近く維新以後に徵して見ても、已に前後三回に及んで居る。即ち廿七八年の役、北清の役、及び今度の征露の役。――それが僅に十年以内の出來事たるを思へば、この明治の歴史なるもの、決して太平では無いのである。

さてこの前後三回の外征が、日本の社會に何程の影響を及ぼしたかと云ふに、なか〳〵一言では云へないが、兎に角王政維新に依つて、初めて日本の日本たる事の、世界各國に知られた我が邦は、彼の廿七八年及北清の役に依つて、漸く東洋の日本たる事を認められた。――已に東洋の日本たる事を認められた我が邦は遂に進んで、世界の日本たらねば成らぬ。余の所謂新日本とは、世界の日本たる事で。その世界の日本たるの動機は、取りも直さず今度の戰爭、即ち征露の役である事は、恐らく何人も否み得ぬ所であらう。

所で今度の征露の役。只今までの所では、畢竟序幕が開いたに過ぎないので、是が二幕三幕と進み、遂に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大詰に至るに及んで、めて度く喜劇で打ち出すてあらうか、將た悲劇として局を結ぶかは、未だ容易に測り兼ねるが、余は贔負目を全く棄てゝも、此度の戰爭には、少くとも我に六分の利ある事を、敢へて信じ度いと思ふのである。否、信じてもまた可からうと思ふ。

國の大さと、人の多さとを以て見れば、我の彼に對する事殆んど蟷螂の隆車に向ふが如くだ、それに今度の戰爭で、我が彼を斃したとすれば……よし、斃さずとも、已に六分の利を占めて、彼を窘しめ得たとすれば、今まで我を愛するを知つて、未だ敬するを知らなかつた、世界各國の我に對する態度は、忽ち趣を異にして、只に同情を寄せる計りで無く、更に畏敬の意を表するであらう。これぞ即ち、我が新日本の面目なのである。

近く例を取つて見れば、彼の日韓兩國の間に結ばれた、新議定書なるものを見ても、此間の消息は解るで は無いか。元來この議定書の主旨は、我邦の多年望んで居つた所である。然るにそれが今日まで、容易に出來なかつた所以と云ふものは、今までの日本に、まだそれ丈の信用が無かつた故で。事に依つたら韓國は彼の露國に向つてこそ、此種の約束をしたかつた位であらう、それを難無く翻へして、我と結ぶに至らしめたのは、全く仁川や旅順に於ける、彼の戰勝の賜物ではないか。是れ少くとも韓國に對しては、我が新日本の面目を全うしたものだ。

が、それは韓國なればこそ、早くも我に信賴の念を寄せられ、遠い歐米の諸外國には、我がこれしきの活動に對しては、まだ容易に尊敬を拂ふまい。

されぱこそ我邦は、增々奮つて大々的活動を爲して只に韓淸の信賴に安んぜず、進んで歐米諸外國にも、眞の尊敬の念を起させねばならぬ。

尤もその大々的活動は、今正に歩を進めつゝあるから、歐米諸外國の尊敬を買ふ事も、必しも難くは無いのである。が、只茲に氣遣はしいのは、その折角買ひ得た彼等の尊敬を、永く保持し得るや否、——これが更に大切な所である。

先に廿七八年の役に、その一歩を進めた我邦は、東洋の强國日本として、世界の注意を惹いたには相違無いが、爲めに我々が自惚れた程は、世界で重きを置かなかつた樣だ。

成る程日本は强い國である。日本人は愛心であると彼等は贊辭こそ吝まざれ、それは畢竟比較的の話で、東洋に在ては鐵中の錚々たるものだが、之を西洋各國の間に置けば、まだ／＼雜魚の魚交りに過ぎまいと、これ位にしか思はなかつたのである。

然し今度と云ふ今度こそ、初めて眞に侮る可らずと彼等も我が眞價を認めるであらう。が、眞價を認めると同時に、彼等はまた眼を拭うて、委しく我を觀察するに至る。是は勢の然らしむる所だ。

所で、その委しく觀察される場合に、若し我に缺所あつて、それをも具さに見透かされる樣な事があつては、それこそまた不面目の至り。折角買ひ得た尊敬も此所でまた拂戻さねばならぬ事に成る。

蓋し守成の難いのは、創業の難いよりも難い。戰爭は取りも直さず創業で、戰後の經營、これが即ち守成なのである。創業は海陸の軍人がやつて呉れる。守成は國民一般が引受けねばならぬ。殊に所謂る未來の國民、現今の少年子弟なるもの、やがてその大任を負はねば成らぬのである。

さてその未來の國民、即ち少年子弟なる者に、この大任の來らんとするを知らしめ、またこの大任に堪へ得るの力を與へるのは、抑も誰の任であらう。余を以て云はしむれば、現今の日本婦人即ち是だ。

元來國民敎育なるものと、婦人の手に多く俟たれる事は、今更云ふまでもあるまい。

但しそれは文明國での話。未開國では所詮望まれぬ事だ。

さらばわが日本は如何か。云ふまでも無く已に未開の域を脱して、優に文明國の數に入つて居る。が、現今の日本婦人なるものその文明國の婦人として、果して少しも恥ぢぬであらうか。

余はまた更に云はんとする。元來社會の改良なるも

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のも、元を男子に俟つよりは、寧ろ婦人に求むべきの遙に適當である事を。然るに現今の日本婦人なるもの社會改良の木鐸として、果して活動して居るであらうか。

成る程我邦の女子教育は、近年非常に勃興し、所謂る海老茶式部なるもの丶、至る所に裳を飜へす事、實に盛んなりと云つべしだ。

が、此等の多くは、他日こそ良妻ともなり、賢母とも成つて、文明國の婦人たる本分を、必ず盡し得もすれ、目下の所では、矢張り被育者の地位に在つて、まだ社會の木鐸たるに足らない。

して見ると、玆には暫く之を問はず、直ちに彼等が母たり婦たる者に對して、先に所謂る大任なるものを敢へて負はせざるを得ぬのである。

然るに今の婦人の有樣を見るに、その何萬分の一ほどかは、成る程此任にも堪へ得るであらう。然しその大多數は、その足の內輪なるが如く、氣質も內輪に、その背の猫背なるが如く、根性も卑屈に、活潑な進取の氣象、毅然たる獨立の精神は、生憎之を求むべくも無い。

此故に、人の妻としては、臺所の主宰を以て甘んじ敢へて家庭の女王たらん野心も無く、人の母としては只乳を以て肉體を肥やすを知つて、德を以て心性を養ふの術を知らない、斯くては高等家婦として、種々子孫繁殖器械としてのみ、僅かに重寶がくれるに過ぎないのも、强ち無理ならぬ事である、

夫は外に働き、婦は內に勤める。是は恐らく天の職であらう。然し只衣服の綻びを繕ひ、三度の食事の菜を見立て、乃至小使帳を落無く付けるのみが、所謂る內助とは云はれぬのである。

況んや世は駸々として進み、國は隆々として興りつつある、我が新日本の準備時代に、苟くも人の妻たり母たる者、空しく火鉢の番のみを爲し、將た襁褓の洗濯のみを以て、能事足れりとは云はれまい。では無いか。

されば と云つて、余は今日の日本婦人に向つて、直

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ちに社交的活動を初めよとは、必ずも願ひはせぬ。

また、目下軍國多事の折から、家庭を棄てゝ、看護婦に出でよ、髪結錢を擧げて、恤兵費に出せよ、雑巾を刺す手間て、繃帶を卷き賜へ、などゝも決して勸めぬのである。

只此際の覺悟としては、活潑なる進取の氣象と、毅然たる獨立の精神とを、今日の日本婦人、即ち一種の國民教育者、社會改良者としての諸婦に、切に望むに他は無い。

かくして日本婦人なる者が、よく男子に讓らぬ迄の天晴れ元氣を現はすならば、それこそ帝國萬々歳、わが大日本は、初めて圓滿なる進歩と、完全なる發達を爲し得るのであらう。

嗚呼新日本の建設は、吾人が眼前の大事業である。今や精英なる帝國軍人の手に依つて、「棟上」せられんとするこの新普請は、更に有爲なる日本婦人の手を俟つて、その「造作」を完うせられるのである。知らず親愛なる日本婦人諸婦、已に支度は出來たや否や。(小波)

道學論 一節

綱島梁川

道徳の性質は、或意味に於いて、因襲的也、束縛的也、形式的也。この意味よりすれば、孔子、ソークラテースの如き、亦鞠躬如たる一道學先生のみ。さはれ、吾人をして又道徳の精神其者に對する敬虔の念を持することを學ばしめよ。道徳の精神其者は直ちに詩と連なり、宗教と接す。自由にあくがれ、理想を慕ひ求むる精進の一念を外にして、また道徳の精神あるべくもあらざる也。

因襲的道徳とは流動息まざる道徳的精神の形式化、化石化せるものゝ謂ひにあらずや。道學先生とはこの形式化、化石化せる道徳の繩墨にのみ依つて自他を規せんとするものゝ謂ひにあらずや。道徳的天才とはこの形式的道徳の底にも不斷に燃えて息まざる道徳的精神の偉大に動かされて起つて新たなる理想を叫ぶと共に、又常に此の理想を眼中に置いて現行道徳の意義及び價値を理解し批評するものゝ謂ひにあらずや。想ふ、昔し、ソークラテースが、從容として無法極まる希臘當代の國法に服從して疑はざりし所以は、畢竟彼れが

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯かる無法の法律だに、其の根柢を叩けば、普通なる道德的精神に根據せるものなることを確信したるが故なることを。道德法の精神に對して限りなき敬虔の念を有したる彼れは、不當なる國法に對してさへ、一片の敬意を抱いて逝きたる也。而してこの心、豈道德を因襲的、偶然的のものとのみ觀じ去つて、其の人心不拔の客觀的理想の根據に看到せざりしソフィスト一號の會し得たる所ならんや。

吾人が世の所謂道學先生の形式主義、細點主義を排斥する所以、是れ亦畢竟するに吾人の道德的要求にはあらざる乎。眞に道德の精神に對する理解と尊敬とを有せざるものは、道學先生の淺薄と狹陋とを批評する權利をだに有せざる也。批評家、動もすればカントの嚴肅道德を嘲笑し、批難す。されど眞にカントを難ぜんとするものは、須く先づカントと共に、我儕が道德的意識の深處に沈潛して、所謂義務之聲が如何ほどの莊嚴なる權威を以て我儕に而し來たるかを味ひ學ばざる可らず。少なくともカントが「無上大法」と叫びたる一種無類の道德的意識に參與し、同情し得るものにして、始て能くカントに對して權威ある批評を物し得べし。この理解と同情となき嘲笑批難は、到底カントを傷くるに足らず、況して之れを燭らし、之れを啓くことをや。吾人は彼のシルレルの有名なる批評にさへ、やゝ輕俘なる文人一味の調子あるを惜らしとす。されば吾人はまた、彼の口を極めて仁齋一派の道學先生を罵りたる徂徠等の態度に對しても疑なきこと能はず。徂徠等は道德の精神若しくは理想に對して、果たして如何ほどの理解と尊敬とを有して仁齋等の道學を批評したる乎。徂徠は果たして仁齋を批評し嘲罵するほどの資格を有したりしや否や。道學先生に對する批評決して容易の業にあらざる也。

規々として細點を株守する道學者流や、數々として小理想に固執する形式的完人は、固より吾人の一排せんとする所のもの、されど之れを一排し去つて、殘るものは何ぞ。新たに竪ち得べき新福音は何ぞ。ふ所の本能主義か。然らず。空漠々觀か。非也。吾人の道德的要求は、理想を無限に本能化しゆくことにして、本能 as such を理想とすることにはあらず。吾人の要求は、又彼の心法を雙亡して人生一切の理想を迷執の塵と拂拭し去る禪家一流の空觀三昧にもあらず。理想を拂ひ拂うて、尙ほ拂ひあへぬ窮極の理想に、敬虔の涙とゞめがたきものあるは、實に人生の深きこゝろには

あらざる乎。流れて返らざる曠達には、吾人之を取らず。世に一派の論者又宗教家あり、動もすれば「道德の超越」、若しくは「道德の彼岸」てふことを口にして、一たび宗教の靈光に照らさるゝものは、仁義道德の辯一切無用のやうに斷じ去る。道德の超越とは何ぞ、彼岸とは何ぞ。若し謂ふところ道德の超越又は彼岸の語にして、現實の差別界に於ける一切價値の抽象、拂拭、無視の義を意味するとせば、是くの如きは取りも直さず禪家一流の空蕩々の見に墮したるもののみ。試に吾人が歸依景仰の一念を神に捧げて已む能はざる所以のものは、其の能く差別界に於ける眞善美の一切價値に窮極の統一を與へて、所謂極有るに會し、極あるに歸せしむるが故にはあらざる乎。吾人の神は統一の神、立極の神ならざるべからず。善惡其の他の一切價値の差別を拂ひ去つて之れを空白一色の抽象に墮せしむる神は、惡魔の神のみ、我儕が靈覺と何の交渉かあらんや。我儕が神は、一切を排したる一にあらずして、一切を攝したる一也。價値の萬色を集めたる富贍無限の一色也。是くの如き神にして、始めて能く無限に我儕を超越すると共に、又能く無限に我儕に密邇す。一派論者の「超越」といひ「彼岸」といふもの如是に觀じて、則ち不二の眞諦たり。

吾人は、彼の亂頭酒を被りて、曠達自ら道德を小とせる支那晉代の清談の一流よりも、炎々たる不斷の道德的理想に燃えて、健鬪しばらくも息まざりし古猶太の豫言者の一群を偉大とす。（完）

學者の本領を論ず

高等工業學校教授　田中喜一

It is implied in the very definition of a thinker of supreme quality that he should detect, and be in a certain accord with, the most for-ward and central of the ruling tendencies of his Epoch

John Morley

學者もなほ社會生活の產出にかゝる。されば社會生活の狀態の變化とともに、學者の作用の推移すべきは極めて自然のことであつて、毫しも怪むに足らぬと思ふ。學者に對する舊式の概念は、今日の社會生活を助長せずして、却つて破壞するの傾向があるが、世人は未だ舊式の概念を株守して、全く其の矛盾の性質に氣づかぬやうである。

本篇は現時の社會生活の狀態に鑑みて、少しく學者の作用なるものに對する概念を變更せんと試みたもので

ある。彼の Physics and Politics を書いて有名な Walter Bagehot は近世を目して「討議の時代」といつて居る。これは簡淨にしてしかも明晰に、近世社會の特質を標致したものである。吾人の祖先が拮据した時代を指して「抑壓の時代」「確執の時代」などゝ云ふとが出來るなら、吾人が經營する現代はたしかに「討議の時代」と呼ばるべき相應なる理由がある、これを證明するに多くの資料をもち來たるに及ばず、善かれ惡しかれ、討議の精神を根柢として初めて存立し發達するを得る、代議政體なるものが到る處に見らるゝ一事だけで充分であると信ずる。げに文藝復興時代以後、文運の進潮を見ても、この討議の精神なるものが、非常なる速力を以て、社會各般の活動を點化し來つて、今日に於ては自由討議の精神を總べて事物の根柢とするにあらざれば、殆ど何物をも說明することが出來ぬことになつたやうに見える。この討議の精神が、近世社會に於て至大至剛の勢力たることは、何人と雖も默識せざるを得ざる事實である。しかしその有力なること斯の如きが故に、實際に於て今日社會萬般の活動は、悉く討議の精神、協同の意思で、遺憾なく支配されて居ると速了すると、一大錯誤に陷いる。吾人の社會意識を指揮して居る討議の精神、はPostulate 若しくは Ideal として有力なので、決して未だ Fact としてそうあるのではない。

されば討議の精神、協同の意思が最も多大に醞釀せられ、最も潑活に運用せらるべき學者間にあつて、却つて是等のものゝ極めて闕如たるを見るとも、吾人は今更のやうに非常に愕くには及ぶまい。期待の理想より云はずして現存の事實より云へば、現代はまだ分離の時代、矛盾の時代と呼ばれてもあながち其の苛酷を怨むに及ぶまいと思ふ。

事實をして事實を語らしめやう。本論の主題たる學者と學者との關係、及び學者と社會との關係に就きて吾人はたしかに現代を分離の時代とし、矛盾の時代とする十二分の證據を有するものである。吾人先づ學者と社會との關係より吾人の檢察を進めてゆかう。

今日吾々の生活して居る社會は、過去二三世紀間に於て、頓に其諸機關の豐富と繁蕪とを增し來たものである。隨つて之が批判と整齊とを職とする學說なるものもまた特り其形式を變更し行くによつて、初て其の在來の効力を維持するを得ることは極めて見易きこととてあつて、過去千百年來の傳說を套襲する一派の學者の生命なく、融通すくなき紋切形の見解の如き、毫も生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

命あり血肉あり始終豹變の活力を有する此の現代を支配するの實權なきものてある。しかし彼等の傲岸にして不遜なる、尠しも坦懷虛心這般の矛盾の來る所を知らんとはせず、極めて無造作に過去の社會に築へた死說を用つて、直に今日の活社會を統一せんと企てゝ居る。其自然の結果として彼等の見解て統一出來ぬ多くの residue を經驗中に殘すとになるが、彼等は此の residue が如何にして經驗の中に顯はれ來るかを究めず、また究めるの能力なくして、一見經驗の統一を破壞するの傾向ありとて、之に「物質的」とか「肉慾的」とか云ふ惡名を與て極力之を排斥して居る。一層甚しきに至つては彼等の無能なる學說で解釋できぬものは悉く實在にあらずして幻想であると云ふやうな驚くべき理窟をつけて居る學者も尠くない。しかし總じて人間の經驗を構造するものは、如何なるものでも徹始徹終、觀念的、精神的のものてあつて、或る學者の物質的だの、肉慾的だのと云ふものは、咸な其の粗硬陋隘なる見解が、僅かに人間經驗の小部分のみを總合し得て、其の大部分に對しては、全く毫しも醇化の工夫を施てすを得ぬより來つた結果てある。

世界は實在より出來て居るが、此の古風な學者達は、常に彼等の作つた抽象を世界と思つて、其中に生活しやうとして居るのである。頑冥固陋なる文學者や、哲學者や、宗敎家は此の種に屬する學者である。

しかし近世にいたりて、如上の人生觀に反抗して起つた一種の學者がある。彼等は舊式なる學者が、無限に豐富にして、活ける人生を說明するに、いつでも枯淡無色の不完全なる概念を以てし、其れが爲め人生の中て最も趣味と價値とある部分を無意味として放擲するを見て、不合理極まる錯置となし、經驗の事實を離れずして、其意味を知り、感覺的價値を保存しながら、經驗の統一をはからんとして居るのである。彼等の着眼點が、極めて喫緊のものであつたと云ふことは、過去三四世紀間に於て、人生と宇宙とが彼等の掌裏にあつて、如何に驚くべき新意義を發展し來たかを考へれは分かる。しかし此新福音とて尠しも缺陷のないわけてはない。其の缺陷たる、事實なるものは、一切知覺的のもの固定的のもので、尠しも主觀の構設を俟たずして、或る特定の內容を以て客觀に存在するものと思惟するところにあるのである。それ故或る狹い範圍にあつて、經驗を評價し、統一するには甚だ有効のものであるが之を以て直ちに人生全躰の統一をはからんとする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、倏ち其の不足を感じて來る。即ち人生の意義は道德的社會的意義を失して、極めて抽象的のものと成りするのである。浮誇輕薄なる科學者や、實驗家や、工業者は此の種に屬する學者である。斯く觀じ來ると、舊式の學者も、新式の學者も、其の發足點の非常に異なるに拘はらず、其の到着點には極めて相ひ類似するところがあると云はねばならぬ。一方は存在學的の概念を客觀化して、之を實在とし、他方は分子說的の概念を客觀化して、之を實在とするに終つて居るが、社會生活を說明するに、極めて非社會的の思索に賴て居ると云ふことは、同樣であつて、學者多くして社會統一の事業は益々荒敗に歸するのは、全くかゝる種類が世上に多いからである。

次ぎに、啻に學者の事業と社會の活動との間に牴牾があるのみならず、今こゝに略敍した學者と學者との間にもたしかに確執がある。舊式の學者は修養(Culture)を唱へて科學の與ふる實驗的知識を卑しめ、新式の學者は專攻(Specilization)を重じて古學の敎へる形式的美感を斥けんとして居る。それ故品性(Character)と、効力(Efficicy)とは、健全なる發達を遂げたる人物の必然具足すべき二側面なれども、修養の使徒たる古學者(Humanists)は効力の伴はざる品性を主張せんとし、專攻の信者たる實驗者(Empericists)は品性の副はざる効力を稱揚せんとして居る。

吾人のこゝで問ふべきことは、社會と學者と、及び學者と學者とはしかく永恒仇敵たるべきものであるか。若しくは或は一層高き見地(例へば中正濶大なる社會的根抵の如き)に於て全然調和融合さるべきものではなからうかと云ふことである

吾人にして充分是等の間に答へんとするには。尠しく經驗の根源に遡ぼるの必要がある。吾人は吾人の想像を以て如何に遠く社會の初期に遡ぼるも、其當時既に其の社會を構成する個人が、二つの相對的活動を賦與されて居る以上、社會もまた其の相對的作用を以て存立して居つたことを疑ふことは出來ぬ。是は即ち勢力の發揚と、其の歛抑との二方面である。一方は社會及び個人の知覺的、衝動的方面であつて。他方は其の概念的、理想的方面である。この兩方面の質量は、各人皆な均一に所持するといふことはない。或人は理想的より衝動的方面に一層發達し、或人は概念的より知覺的方面に一層成長して居る。して社會生活の第一義は、有無相ひ交換し、長短相ひ補ふといふことであるから、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會生活に於て、初めて實行家理論家なる二階級の人物が生じて來る。固とより各人をとりて仔細に吟味すれば、誰れても或る程度までは、實行理論の二作用を兼攝せざれば、一日も生息すること能はざるものなれども、其の必要以上は、他人の協同に信頼して、大に自家の特長を啓發することが出來るし、又社會生活は又彼れにそうすることを奬勵して居る。是れ社會に學者なるもの丶出顯し、また其れが永久に繼續する理由である。個人の精神が發達するに隨つて、益々知覺と概念とは作用的に分化し來るが如く、斯の如き個人より成立する社會の活動も、其文化は其程度を高めるに隨つて、益々學者と實行家とは作用的に分離し來るのである。しかしこ丶に注意すべき重要なる事實は、個人に於て知覺と概念との分化は其の兩者の協同をして一層圓滿ならしめんが爲てある如く、社會生活に於ける學者と實行家との分離も、やはり一層完全なる協同の効果を兩者の間に收めんとする爲であると云ふことである。此點より觀れば學者なるものは、決して自づからに獨立の價値を有するものでなく、たゞ社會生活の發達に貢献するとあるこによつて、初めて相應の價値を得來たるのである。學者は社會の意識を清朗にし、其行爲を深奥にするに於て大功あれども、社會生活との關係を離れて勝手に己れの夢想を作り、之を他人に强ひるの權利なきものである。

されば學者の本領とは如何なるものであるか。吾人は之に答へて正意に於ける修養を皷吹することそ學者の本領なれと云はんとするものである。しかし此修養なる文字は、是れまで最も屢々濫用されたものであれば、先づ修養の眞意義を説く必要がある。僕は各人が社會的關係を保ちながら、自家に特長なる機能を發達せんとする努力に修養なる尊貴の名稱を與へたき考である。性情の陶冶といひ人格の修養といふも、其れにして果して何等かの明確なる意義を有するものなら、畢竟するに社交的に己れの天賦の才情を發育すると云ふ一事に歸すると斷言する。

此の定義は正當なる修養には必らず個人的と社會的との二方面若くは二要素が包含さる丶と云ふことを暗示する。

何物でも社會全體の一部として觀らる丶ときは、一つとして高尚で精靈的でないものはないが、何物でも一たび社會生活を離れて其物自づからが一つの目的とせらる丶ときは一つとして倏ち野卑で物質的とならない

ものはない。若し吾人にして社會活動の一機關と觀るとだに忘れずば、貨幣は必らずしも美術より劣るといふことはなく、工業とて詩歌より低いといふことはない。しかし一たび萬事を神化し萬物を淨化する社會大活動を離れて其の宗教たると政治たるとを問はず、はた美術たると工藝たるとを問はず、一物として自から神聖淸淨を裝ひ得るものはないのである。

無關心(disinterested)といふ詞は一事を爲すに當つて、尠しも興味を感ぜぬといふことを意味せぬ。たゞ其れを他の大なる活動より離して、其物だけを獨立の目的とせぬといふことである。さうすると健全なる社會にあつては、總べて個々の活動は無關心に持續されねばならぬのである、すなはち最後の目的たる社會活動の方便として遂行せられねばならぬのである。

現今狹義に於ける修養の主張者と、狹義に於ける專攻の主張者との間の爭鬪は、未だ全く其の終を告げぬやうであるが、兩方とも社會生活に必要なる二側面の一つを取つて、其物自分を直ちに目的と考へた結果であるから、兩方とも等しく誤謬たらざるを得ないと思ふ。雅健中正なる社會の活動は、修養の主とする過去の文明(形式)と、專攻の主とする現時の經驗(內容)との二者を俟つて初めて成立つ以上は、修養と專攻との宣傳者たるものに、互ひに反目するの理由は毫しもないはづである。修養論者たるものは如何に將來の進步は過去の努力に憑ることが必要であるとも、過去の努力は將來の進步を輔佐するだけで初めて其の價値を得來たるの事實を認めねばならぬ。また專攻論者たるものも、吾人の目的は直接經驗を得る一事に止まるも、其の直接經驗をして富贍剛健ならしめんとには、充分に過去の文明によつて、瞬間の經驗を制馭するの必要なることを認めねばならぬ。

されば哲學文藝の如き修養の門戶より社會生活に入るものは、現時の生活より益々內容を採つて之を社會的となすことが急務で、科學工業の如き專攻の門戶より社會生活に入るものは、過去の文明より益々其の形式を受けて、之を歷史的となすことが急務である。さうして行く以上は、其の結果たる、いづれより入るも、つまりは現時の社會生活に最も順應する人物たることを失はぬのである。して僕の見解ではその事を能くする人のみが眞正の意義に於て修養ある人であつて、また學者であるのである。かく正當に修養なるものを理解する個人の行動は、何時でも特定的であると同時に

普遍的であつて、社會に必須の二方面なる自由生長と法則、欽抑とを顯はして居る。

前へに論じた通り、學者なるものは社會活動の分化より自然に顯はれ來つたもので、其の理論的方面を代表するものであるから、どこまでも其の天分に忠實であつて宜しいのである。世には學者が實行に適せぬとか、時務に晦いとかいつて、輕忽に非難の聲を放つものがあるが、かゝる人達は反つて自家の不見識を曝露して居るものである。固より腐儒、活儒の區別はあるべきであるが、それは決して學者にして俗務に通ずるとか、通ぜぬとか云ふやうな淺薄な見解より定まるのではない。固より學者にしても、其の學者たる片手間に當時の俗務にたづさはりたしとならば、それは必らずも惡しきことではない。併し其の人が腐儒であるか活儒であるかを判斷するに至つては、此一事だけでは何の材料を供給せぬのである。

或る人が果して學者たるの面目を傷つけざるや否やの最後の標準は、彼は彼の學問によつて如何程まで彼の生活する社會を理想化しつゝありやの一問にて定まるのである。

一個人の場合にあつても、其の理性の發達するに隨つて、其の知覺と概念とは互に反動し、互に自他の性質を交易し受授する通り、社會生活にあつても、學者と實行家とは、常に其の固有の性質を交易しつゝあるので、學者は益々、理論的なるのみならず。また實行的になつて行き、實行家は益々實行的となるのみならず、また理論的になつて行く。已に今日でさへ或る一段級の人々をして學者と云ふ名稱を專有せしむるは、少しく滑稽に類する感じが生じて來た。今日では色々の便宜によつて、隨分高等な學問や、思索が總べて階級間に分配されて居る。然らば僕は中心社會は遂に皆な理論家であつて、同時に實行家たる一種の人物のみとなることを信ずるものである乎。僕はいつまで經つても社會には性來比較的に思索に長ずるものと、實行に長ずるものとある以上は全然理論家と實行家との區別のなくなる時代は來ないと思ふ。しかし此の二種の人物が永恒 Asymptotical に進むことだけは確信して居る。

最後に如何にせば眞正の學者たり得る乎と云ふ問に對しては、僕に妙案なく、また妙案のあるべき筈はない。本や學校や先生の力で出來ることなら、別に心配は入らぬが、是ればかりはそうは行かぬ、こゝに記憶して居る或る哲人の句があるからそれを以て答として置く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

"Fill your mind and heart, however, large, with the ideas and Sentiments of your age and the work will follow."

戰爭と學藝

文學博士　桑木嚴翼

戰雲東洋の天地を掩うて振古未曾有の大事が起つた、此かる時節となつては、我等の如き平常は平和を好む者も、唯々海には益奇功の奏せられるとを望み、陸にも之に劣らぬ効績の擧がるとを期するのみである。斯くて一切が皆赳々たる武夫の双肩に懸るやうになると共に、軍事以外の事業は殆と何等價値もないもの、少なくとも今日に取つて不急な事のやうに思はれて來たとがないでもない。然し是れ果して常經に適つた判斷であるか、如何か、我等は實に自家日常の安心を得る爲にも此問題を攻究して置かねばならぬ。

軍事外の事業中で最も多く人の注意を惹いて居るのは外交で、是は今日の處軍事の一部と看做しても宜い。之に次いで一般に必要を感ぜられて居るのは實業である。軍資を作る爲、國力を充實する爲、實業を益奬勵しなければならぬと云ふ事は、少し遠慮のある人の悉く唱へる所である。次にやゝ見識ある人から認められて居るのは普通教育の一日も曠廢すべからざる事である。モルトケ將軍やエリントン公の言などを引くまでもなく、今日では少し心ある軍人は悉く教育と兵役との親密なる關係のあるとを承認して居る。斯樣に軍事以外にも陰然軍事に裨益すると云ふ理由で、今日依然として聲價を落さない職業もあるが、此に最も軍事とは縁遠いものがあつて、所謂擧國一致と云ふ中には一寸這入りにくいものがある。それは何ぞと云ふに即ち學術文藝等を云ふのである、然も高尚にして最も實用に遠い學藝を指して云ふのである。

學藝としての學藝は本來戰爭とは一見性質の全く乖離したものである、從つて學者や藝術家は時としては戰爭に對して次の如き態度の何れかを執るやうになるだらうと思ふ。第一は兩者の間には通じ難き障壁があつて全然無關係のものと見て、學藝に從事する士は飽くまで冷靜の態度を執つて專心自家の業に從ふべしとするものである。然るに之に反して第二には學藝と戰爭との間に關係を認め或は其間に優劣を附して學藝を戰爭に隷屬せしめんとするものがある。今假りに第一を出世間的と云へば第二を世間的と云ふとが出來やう又、前者を冷淡派と云へば後者を熱中派と云ふとが出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來やう。然らば我等は之に對して如何にすべきであらうか。

純然たる出世間的冷淡派に屬する者は固より自家の職業と戰爭との關係などに就て考へる必要を認めない、從て別に意見を發表する筈もないが、若し其心中を披いたら次の如き言をなすであらう。曰く、自分は一身を學藝に捧げて居る、我が眼中には眞美あるのみだ、幾多の人々が悲慘な生別離をしやうが、辛苦艱難を經やうが、學藝には何の關係があらう。銃砲の音を耳にしつゝ著述に餘念のなかつた學者もある、一國の安危に關する場合にも軍歌一つ作らうともしなかつた詩人もある。軍陣の事は艨艟貔貅に讓つて置けば別に氣に懸けるにも及ばない、我等の職業は現世以上の意味があるものだと。

此意見には固より眞理があると思ふ。實に戰爭は一時の事、學藝は永世の事であるヿは疑を容れぬ。然し「永世」は「一時」の連續であるから、一時の事と雖永世の發達に大なる影響を及ぼすヿを忘れる事は出來ぬ。故に學藝其自身が到底時勢の感化を受けるヿを拒まない限りは、戰時の學藝が自から血腥いものゝ方面で發達して行くヿを拒ぐヿは出來ぬ、少なくとも絕對的に時代と反對な精神を有するものは繁榮しないと斷言するヿが出來る。自然科學や抽象的學術は平生から時代に觸接するヿが少ない代りに別に硝煙彈雨の勢力を受けるヿがなく、一部同好の人々の間に其人々が自由に研究し得る限り命脈を維持して行くが、文學美術など平生から人心に大影響を與へる者は、自ら時代の風潮に伴れて、例へば脂粉の氣に滿ちたものとか、極端な悲痛憂欝の氣の溢れたものは自然表面上の活動を減縮されるものであると思ふ。斯樣に學藝其自身が社會の勢力で變更するヿがある共に、學藝の士の方でも其影響を脫するヿは出來ぬ。非常な山奧にても佗住居をして居るなら格別、今時世間並の業務を取つたり、隣近所の交際をして居る間は如何して號外の鈴聲にも驚かず、軒頭の國旗をも訝からずに居られうか。既に驚き訝かる以上は、如何して又其が自分の思想を支配せずに居られやう。故に時代に觸れるヿを以て自ら任ずる文學者などは何等かの方法で此情を顯さなければならず、又時勢に緣遠い學藝に從事する身も固より普通の公民としては此問題を意識しない譯には行かぬ。唯此感情がありながら尙其職業に從事し得べきか、否や、是が次々で決して行かうと思ふ問題である。ともかく學藝の

士が苟も此問題に何等か(積極でも消極でも)の解釋を與へたならば、彼は最早所謂冷淡派ではないのである。

然し今日我國一般の狀態ではかゝる冷淡派の議論よりは寧ろ熱中派の方が勢力があるし、又其方に種々の謬見やら弊害やらがあるやうに思はれる。所謂熱中派と云ふ中に實は二種の全く反對な見方があるので、其一によれば戰爭と學藝とは本來全く無關係、沒交涉なものであるから、文學や藝術やなどは戰時には全く無用の長物である、從て文學者や哲學者や美術家などは穀潰し、遊食の徒と目すべきものだと自ら歎息し、是非銃劍を操て戰場を馳驅しなければ男子の面目が立たぬとする樣になるのである。投筆事戎軒、大丈夫の國に盡す方法は此外にないと考へるのである。其二は之に反して、學藝は皆軍事的應用を有つて居るものと看做し、何でも彼でも戰爭の方に自分の專門を附會して一廉の御用を勤めた積になるものである。戰爭文學だとか、戰爭哲學だとか、士氣皷舞だとか、露國研究だとか隨分當て込みの際物が澤山あるが、是等は其正當な結果若しくは濫用の部分に屬するものである。

斯樣に熱中派を二つに分ては見たものゝ、實は第一の熱中派だとて學藝が應用し得るものと知つたら、努めてさうするに違ひないのであるから、第二の熱中派と根本の點に於ては一致して居る。然らば其根本の一致は何ぞと云ふに、何れも皆學藝の威嚴を認めず、學藝を以て單に現在の利害のみに關係するものと考へるか、若しくは現在に關係あるものゝみに重きを置くとである固より學藝を現在に應用すると其自身が決して卑しいとても何でもない、學藝には確かに應用の一面を有つて居るが、然し學藝の學藝たる所以は學藝其自身の中に存して居るので、何も之が日常の道德彝論に如何影響するとか、或は時局を如何解決するとかいふとに存するのではない。學藝の性質上直ちに時事に關するものもあるが、さりとて又一時の利害には多く關係せぬものがあるし、又其の點に於て眞の學藝の發達が認められる。其故に若し熱中派の所說が正當だとすれば、時事に適切ならぬ學藝は暫く中止を命ずるより他に方法がないとゝなる。それとも又冷淡派に從ひて一切かまはず學藝の方面に力を盡さうか。是に於て問題が定まつた、曰く、純粹の學藝が戰爭に對して有する價値如何、或は語を換へて言へば、純粹なる學藝は如何なる意味にて戰時に存在し得るか(若し存在し得るものとせば)と。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然し斯く問題を明にしたと同時に、自ら其解答の緒を得たと思ふ。我々學藝に携はる徒が冷淡派の意見にも幾分の同情を有したい所以は、學藝其自身に價値を認めんとしたことであつた。然るに今又反對の見方を考へた譯は、實に其が學藝を以て徹頭徹尾獨立な事業と看做すことに慊らぬからであつたので、此點から熱中派の意見に取るべき所が出て來ると思ふ。然し學藝が他と無關係の事業でないと云ふことは、他の一切社會的事業の方便たりと云ふこととは決して同一でない。我等は飽く迄も學藝の獨立の價値を認め、而して之が他の獨立的價値を有する一切事業と共に各人生の一部を形成することを斷言して躊躇せぬ。而して其點に於て實に學藝が今日益切要を感ぜられて來たと信ずるのである。

學藝の價値の認められざること久し矣。而して世に冷淡派と熱中派との存する限りは眞價は未だ世人に知られざるものと言はねばなるまい。學藝の實用を說く者は目前の利害に奔つて學藝の永世的價値を顧みぬものである。之に反して學藝の孤立を說く者は遂に人生の組織中から學藝を放逐しやうとするものである。是等の思想は共に學藝の眞相を窺はぬ議論であつて、如何に現在と分離した思想が人生の各方面の基礎となるかを知らざるものに過ぎぬ。我等は是に於て今更ながら世の目前現在に奔る徒が單に皮相の活動を重じて根底に橫はる思想の勢力が如何に偉大であるかを知らざることを慨歎したいのである。國家と云はず、社會と云はず凡て人生の活動の根底には之を支配する一般的思想なるものがあるので、所謂文明なるものは即ち之を指して云ふに外ならぬ。其思想は必しも文學美術にのみ顯れて居らぬ、時としては極めて卑俗な事業中に形を現すことがあるが、然し其の意識されて顯れる所は常に學藝の上に在らなければならぬ。或は學藝の中には極めて特殊のものがあつて到底社會人生に大影響を及ぼすなどといふ性質を有つて居ないものがあると云ふかも知れぬが、如何なる特殊の研究でも何等の點で全體と關係せぬことはなく、又若し全體の組織と悉く分離して居るものであれば、實は永續することが出來ぬのである。是故に如何なる特殊の研究でも、苟くも研究として成立ち得る限りは、我等は之に對して何時かは全體に聯絡が附くであらうと云ふ期望を抱きつゝ、之に相當な價値を認めるべき筈である。而して又此く全體に關係を有つと云ふことが學藝をして人生中に獨立の位置を占めて自から人生に對して切實な意義を有せしむる所以

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

である。學藝を孤立と認むる論者は如何してかゝる價値を認め得やうか。

或者は又非難して云ふには、學藝など云ふは畢竟社會少數の人々の玩弄物に過ぎぬ、一般社會は何でかゝるものに動かされうぞ、著書とか雜誌とか種々の方便て喋立てる者はあつても、畢竟口舌筆端の上の事で眞に社會を動かすことは出來ぬ、社會に大勢力のあるのは到底經世濟民の術に外ならぬと。是等は其昔し上位に居らなければ道を行ふ君子となることが出來ぬと思つて居た支那流の官權的思想や、若しくは大望ある青年は皆能辯修辭の術を學んで他日政界に人心を收攬する樣になるのを大人物と考へて居た希臘羅馬の政治家的思想を脱せぬもので、近世殊に輓近に於て如何に學術文藝等が最も敎育ある從て社會の原動力として最有力なる部分を動かす樣になつたかの事實に通ぜぬもので、固より今更其迂愚を陳述する必要もあるまい。

さて斯樣に學藝が人生に缺くべからざるものなることを認め得たならば、其攻究が今日に於て毫も平日より減縮せらるべきものでない事は論ずるを俟たぬ。然し斯く言ふもなほ次のやうな駁論が出來やう。曰く、學藝の價値は充分認められる事であるが、今國家の大事に際しては寧ろ不急の事とすべきものではないか。是に於て我々の問題の範圍が益狹くなつた。

此疑問に對して我々が先づ反問せねばならぬ點は「國家の大事」、若しくは「不急」と云ふ語の意義である。一國が四方敵に圍まれて所謂累卵の危きに處ると云ふ場合には、人々は何事を措いても兵器を手にし一意戰勝を圖らねばならぬ、例ば少しく異うが先年北淸事件に於ける公使館内の人々の如き文武を問はず、たゞ防禦に餘念はなかつた。然し今日の場合を其に比するのは大なる錯誤と云はねばならぬ、故に如何にも大事たることは疑を容れぬが、然し軍備以外を悉く不急とするやうに差迫つて居るのではない。其故に若しも此處に充分價値があるものがあつたならば、決して不急の名の下に擯斥し去るべきものではないと思ふ。況して我々の見る所では前に述べた學藝の價値が實に今日に於て益其度を增さうとして居るのである。と云ふのは、今日の爭は單に外交上の終末を劒戟で決しやうと云ふこと計りではなく、實に文野の衝突と見るべきもので、言ふ迄もなく此衝突に於て我國が文明の側に屬して、實に彼の野蠻邪惡を膺懲する任務を帶びて居ることが、益文明の基礎たる學藝の重要なることを示して居るからで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある然らば我國の學藝は眞に其任務を果して居るか。此點に於て我國學藝の士が大に努力すべき所があると思ふ。

我國現代の文明に關しては全然悲觀的見解を執る者や、歐米の其に比較して大に劣れりとする者など様々である。實に今日一般の文明に弊害の多いヿは固より事實であるし、又我國の文明がまだ幼稚なヿは疑を容れぬ所であるが、然し之を露國一般の狀態に比すれば文化の度は固より優つて居ると言つてよいのである。かく一般には我國の文明は遙に進歩し、從つて其基礎たる學藝も可成に進歩しては居るが、而し翻て其學藝に就て傑出した者を探り出せば、固より我國にも種々專門の大家も居るヿであるが、又露國にも世界に名を轟した大家名匠に乏しくない。音樂家や、數學者や、化學者や、其他諸科學者若しくは東洋學者等では遙に他國の人々を凌駕した者を輩出して居る。然し此中最指を屈すべき者は文學者殊に小說家の類で、我々が聞たり讀だりして見た者の中にも、レルモントフやツルゲネーフや、ドスドイエフスキーやなどに至つては到底他國の人々の及ばざる所を備へて居る。殊にトルストイは是等の何れよりも更に永久るな價値を有して居るヿは疑ふべからざるヿである。今後戰勝の後我國外部の活動は益目覺しくなるにつけて思想界にも大飛躍を見ねばならぬ時機に際會するは明なヿであるに、學藝が依然として他の下風に立つと云ふ有様であつたならば文野の爭が如何して我國人の傲りとするに足るべきものとならうか。トルストイを有つて居ながら之を理會しない國民若しくは官人を有つて居る露國は眞に憫むべきものであるが、トルストイを理會する能力がありながら之を有つて居ない國民も大に奮勵すべきものではないか。我國學藝の士も多少は世界の學術界にも貢献する所があらうが、まだ〳〵世界をして日本の文明を承認せしむるには到底足りぬであらうと思ふ。學藝の士の責任は自己の領土に於て益大となりつゝあるヿを覺悟せねばならぬ。

斯様に考へて見ると、今は學藝の士が徒らに俗と同じく戰勝に酔うて居るべき時機ではない、然し漫りに高く持して、我不關焉と言ふべき場合でもない。自己の業務が如何に實用に遠くとも、其實人生中に於て大に必要な者であるヿを自覺し、充分なる自信を以て其業に從ふべき者ではないか。我々は實業を奬勵すると同じ意味に於て、或は更に高い深い意味に於て、抽象的な

學問や高妙な藝術の一日も硏鑽を忽にせられず。國家も亦國力の許す限り依然として之が發達に都合よいやうにすることを望むのである

國民の素養 (承前)

島田三郎

全體英吉利人といふものは附合ひ悪い人民で、佛蘭西の人民は極めて御客の對遇が上手だが英吉利人は人附きが悪い方だ。又保守の精神が富んで居るので英吉利人は歐羅巴人以外に同盟を結ぶことは容易にしないのみならず、歐羅巴の中でもナカ〱同盟をしない人民であつたが、意外にも極めて西の方の端に居る英吉利人が東の方の端に居る日本人と同盟を結んだといふのは歴史あつてより以來見ざる所の新たな例でございまするが、此の如き結果を得たのは今御話しました著しく人の耳目に上つて居ることは日本の人民の態度が之を助けたのでございます。併ながら是等を以て唯一の原因とすることは詰り平和の日本の色々な組織を無視した言ひ方でありますから、モッと平和の原因を述べて見ますると元來是まで長く歐羅巴人と交際して居るのは東洋に於ては支那であり暹羅である。又西洋の方に向つて居りますのは土耳其でありますけれども、是等の國よりズッと後に交際を開いた日本は色々なことで歐羅巴の仲間に這入るやうな境遇になつた。日本人が進んで其中に這入るやうになつたのは申さば組織が整つたのでありまして、寧ろ露西亞の如きは未だ專制の態度を免かれない、日本は率先して立憲政體を行つたのが一般の信用を高め、平和の上に又著しき助けと思ひます。法律の結果も實に著しきものでございます。例へば何人も餘り目を附けて居りませぬけれ共土耳其の境に行つて見ると、歐羅巴諸國の人が郵便局を開いて、通信の大機關といふものは土耳其政府の手を經て扱はぬので、各國の出張所がある。日本も開港以後明治十年頃までは左樣な組織がありましたが、明治十年に萬國郵便同盟に這入つた。それから法律改正の結果治外法權を解くことになつた。支那や土耳其で著しく智識を妨げたのは信仰の自由が無い。土耳其では回教を信ずる者と歐羅巴人の基督教を信ずる者との間に互に宗教の喧嘩があり、狹き心を以て我の信ずる所を信ぜざる者は外道であるといふやうな考を土耳其人は持つて居る。之と同時に歐羅巴人が色々な不便を受ける。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夫故に叉回教を憎む念が甚だしいので、是がゴタ〳〵の原因になつて時々人を殺すこともやり兼ね無い。所が日本は憲法發布の結果即ち日本人民の寛大なる考と智識の進歩とに依つて信仰の自由を受容れたが爲に歐羅巴諸國の人は日本に向つて交際の便利を得、茲に其程度は土耳其の如く窮屈ならず、支那の如く低からざる明瞭なる證據と認むべきものであります。

是等の外にまだ何人も餘り思うて居らぬことでございますけれ共、例へば月蝕かあり日蝕があるといふ時に其測量の地點は何處が一番便利であるといふと、歐羅巴人が自分の範圍内ばかりでやることは出來ぬから、萬國へ人を出して天氣の測量をさせます、此時にさて一番先きに日本に人物かあるから之に依つて手傳つてやり、向ふを助けてやる方が土地の上に便利であるのみならず、人の智識の上でも交換してやるが宜いといふことになつた。即ち天文學は人間の交際に關係無きが如く考へることはあるまじきことで、是等も矢張り愉快を感じて、互に親密を現して居るが、此外にモッと明かに歐羅巴諸國の人が日本に向つて對遇を改めるに至つた事蹟は何てあるか、私は赤十字社の仲間に這入つたことは大に賞讃すべきことであると思ひます。之に向つては男子のみならず軍人ばかりで無い、平和の人も働き、婦人もナカ〳〵力を現はして居つて、萬國同愛、敵も味方も區別なく負傷者を療治するといふ、今世紀並に前世紀に現はれた新しき事業、人民の同等人類相愛するといふ制度を日本人が受容れたといふことは大に日本人の信用を增したものである。單に戰爭の時に日本人の態度が好かつたといふ丈けで無く、平生に於ても日本人民各自の心掛と各自の元氣と各自の態度が文明國人民の態度に適つて居れば文明國の仲間を共に組んでやらうといふことになつて、是から親しくなるので、國民の信用は此に在ります。是が積り積つて現はれた時に如何なる現象を呈して來たかといふと、今日英同盟になつて國際上日本は誠に力强い便利を得た。英吉利人も之に依つて便利を得たに相違ない、此事は英吉利の或論者が多年の間考へて居つた策が此に至つた。丁度今から十二三年前チャーレスヂルクは歐羅巴列國の事を書きまして、各國の比較をなした所に英吉利が東洋に事あつた時は陸軍が日本と協同するといふと露西亞に對抗するのに非常に力があるといふことを書いた。是はナインチーンセンチユリー雑誌に出たのを一つの本にして唯今では書物になつて居りますか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら此書物を御覽になりますると、英吉利の東洋に於ける勢力を助けるのに日本の陸軍が必要である、其時代の日本の海軍といふものは今日の如くなつて居りませぬから、海軍は英吉利が手傳ふが、陸軍はこちらから多くの人を送ることが出來ないから日本と組合ふが便利といふことが有力の論者の腦中に發したのが段々積つて來たのであります。詰り戰さをする時に勇武であるといふ事が助けとなる一つの箇條でございまするが、規律嚴正であつて弱を苦めないといふ仁義の心が根柢となつて國の光を發することで詰り彼が我を頼母しく思ふて居るのは又我の彼を頼母しく思ふ所以であります。然るに露西亞は之に反して實に淺薄なる氣を持つて國の區別を立て、人道を無視し、交際を無視しようといふのは甚だ野蠻な考であるが、文學の淵藪と稱える獨逸の皇帝などが之が尻押にならんとは實に驚き入つたことである。併ながら此の如きことは詰り政治家の經略で一時自分の味方を取るが爲に反對者に加ふる罵詈に近いと思ふから、我々も又反對に罵詈を以て答える外正しき道理は無いと思ひます。それから今日に至つて是等の形勢の變じたことを明かに證據立てる爲に近日諸君の御承知のことを御話したいと思ひます。

亞米利加の看護婦會長が其會を代表して、亞米利加に行つて居る日本公使に若し日露の間に事のあつた時には日本の兵士の爲、病兵の爲に看護婦として働かうといふことの請求書を呈して、是が世の中に公けになつて居りますが、這が亞米利加人は人種の區別などは唱へず、何れの國でも道理のある方の味方となり、何れの國でも文明の外に肩を持たぬといふことは感服すべきことで、基督教の所謂「人は神の子なり」といふこと、又孔子の所謂「四海の内皆兄弟なり」といふ格言を實にすることが出來る。而して又英吉利の壯丁即ち達者なる勇壯なる人が若し日露事ある場合に義勇兵となつて日本の軍に加へて呉れといふことを倫敦に駐つて居る日本の公使に申出てたのは是亦人種の區別を忘れ國籍の區別を忘れて道理の方の味方をしやうといふ精神を現はしたのであります。多分看護婦の手傳といふものは萬一不幸にして事があつたならば亞米利加から至るでありませう。英吉利の義勇兵には特に日本の武器の足らない場合には借ることの時代もあらうと思ひますが、併ながら此好意といふものは我々大に感謝して之に對遇しなければならぬ。且又最も注目すべきことは、是がモーラルサッポルトにどれ程渇いて居るかといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

算用を日本人はしなければならぬ。日本の如き立憲政治を施して未だ日の淺い所て人民の論は聊かも當局者に向つて反射しない、政治の上に反射しないといふことは我々國民として諸君の前に此事を言つてモッと反射するやうにしたいといふ希望を言顯はすことは忌まないが英吉利竝に亞米利加國民の好意は事實上義勇兵を出したと同し結果を現はすことを日本人は認めなければならぬ。英吉利の時局といふものは國民の輿論の爲にどれ程奮發しなければならぬといふ所の熱を增して來るのであるか、即ち此の如く自由な責任の無い人民が自ら銃砲を執つて義勇兵となるといふことから考えて見て、英吉利の內閣の同情がどれ程かといふことは認められる。大統領の選擧に投票する亞米利加國民は婦人すら看護の勞を執らうといふ是も亞米利加の大統領竝に亞米利加の政務局は此問題に付てどれ程熱を加へるかといふことを思うて見たら單に看護婦の申出義勇兵の申出ばかりでも亞米利加の政治の上に大なる熱が增して來るてあらう。英吉利の政治に向つても大なる力を增すてあらうと推測したならば、道德上の援助がどれ程價値があらうかといふことを考えなければならぬ。是等道德上の援助を得たのは他の故にあらず、若し日本の兵力如何に危しと雖も一般人民の品性が低くして文明の利器を受容れることが出來ない、信仰の自由も成立して居らぬ。郵便條約を結ぶことも出來ない赤十字社の仲間入を拒絕するやうな日本人民の有樣てあつたならば、日本人民が全く軍隊丈けの力で孤立する日本帝國の有樣であつたならば道德上の援助を外國から得るといふことは到底出來ぬことであらうと考えます、即ち國民の素養此に在るので、事ある時に國民として其國の位地を非常に高めることが出來るのは事なき時に己が品性を高めし道德上の素養がなければ孤立となつて到底他國民の同情を表せしむるの勢力を得ることは出來ぬと思ひます。先づ日本の事に付て考えて見ますると、過去のことにも色々不滿足なことがあり、是から後に向つても矯正しなければならぬ、鞭撻しなければならぬ事がありますが、其善き所を擧げて見ますれば是等のことは決して事實に過ぎたことにあらずして正當なる働きの上に正當なる結果を得たものてあると思ひます。

是に於て露西亞が今日損をして居ることを私は申して見たい。先づ露西亞が土耳其に對してどう云ふ言葉を以て屢々兵を加へたが又支那の領分にどう云ふ言葉を

以て進んで來て居るかと申しますと、英吉利人の或者も認め我々も其一部を認めますシビライジングパワー(世を文明に導く力)といふことを唱えた。露西亞は西歐羅巴諸國の文明に較べて非常に劣て居るけれ共、其間に這入つて居る土耳其、又中央亞細亞の印度から露西亞領の間に在り又支那と境を接して居る是等の人民は實に亂暴で、白晝盜賊が横行して商人は隊を組んで自ら鐵砲を擔いで歩かなければ商賣が出來ぬといふやうな有樣であるから、是等に較べて是等の土地を開く所の人は何れであるかと言へば、一方に宗教の迫害を加へて婦人小兒を虐殺する土耳其の慘酷な有樣を改良するのには露西亞の力を須たなければならぬといふのが、露西亞が屢々バルカン半島へ出掛けて行く理由で、英吉利は勿論我々も甞て其事に付ては一分の同情を表した、餘り土耳其の政治が亂暴であつて土耳其に支配せられる基督敎の人民、即ち同胞の遺民が餘り氣の毒だから英吉利のグラッドストーン始め、露西亞の這入て來ることは畢竟是等人民の救ひであると公認した所以であります。又中央亞細亞の亂暴な有樣も外の者が直接に人の國を蹂えて手を入れることは出來ない支那が文明に導くことが出來ぬ、支那自身直さなければならぬから露西亞が此道を開くのは行路の安全を與へるものである、文明を撒布するものだと言つて露西亞の働きを認めた次第であります。之れにも一分の道理があります。此の如く露西亞がバルカン半島に入ることを歡迎したのは此理由であり、露西亞が總ての事に亂暴な分子が無くて文明國の態度を取つて支那の領地へ鐵道を敷き、此鐵道を守るに付ても露西亞が金を入れた。併ながら此天與の廣き土地に對し商賣が繁昌し、製造が成立ち、農業が盛んになるのは萬國の福利だから、支那の主權の下に亞米利加人も商賣をやりませう、英吉利人も來てやりませう、日本人もやりませう、露西亞も獨逸もやりませうといふ風に支那の共同關係若くは保護者の關係を以て露西亞がやつて來たならば今日の如き境遇には立たぬのであらうと思ひますけれ共憐む可し、露西亞の文明の低くして此觀念に乏しく基督敎の所謂人は神の子なりといふことを理解せざるが如く孔子敎の所謂四海の內皆兄弟なりとの格言を記憶せざるが如くして、露西亞敎以外の者は虐殺して構はぬといふに至つては野蠻の擧動と言はなければならぬと思ひます。詰り人種の異る者に向つて惡事をするのは罪で無いといふ過に陷るのは、土耳其がバルカン

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

半島に罪悪を繰返したのと、露西亜が猶太人に向つて罪悪を繰返したのと、どちらが違ふかと評さなければならぬ。バルカン半島に向つて土耳其を非難する露西亜が何故に露西亜政府の下に保護を頼む猶太人を虐殺するのでございますか。又團匪が亂を起したからと言つて團匪以外の支那人は寧ろ保護以外に棄てられた憐むべき者である、支那の亂暴兵にも時には酷い目に遭ふ、外國の兵に蹂躙せられ支那の亂民に蹂躙せられるならば文明國の兵を以て助けてやりたいといふのが四海兄弟の觀念から發する人道の骨子ではあるまいかと思ひますが、何ぞ圖らん團匪の亂にあの滿洲の中のブラゴエチエンスクの虐殺といふものは此間に流れて居る川を支那人の屍を以て停めたといふ程に殘酷な報告が現はれたのには、歐羅巴諸國の人も大きに驚いた、而して露西亜の都に居る人も驚いて、遂に此軍隊を率ゐて居る將軍を露西亜帝の命を以て喚返した、それはどう云ふ譯であるか、其動機は二つ見所があるが、一つは虐殺をやつたが爲に天下の輿論が沸騰して露西亜が亂暴だと言ふから何とか處分をせねばならぬといふので喚返したものと見れば眞に過を悔いたのである、之に反して如何にも亂暴であつて眞に憤るべきものとして喚返したと見ても兎に角大任を帯びて居る將軍の下に露西亜兵が亂暴して是丈けのことをやつたとは歴史中磨滅すべからざる亂暴であります。是等は日本人が眼に見たので無い、却つて日本人より此の如きことに向つて擁護人となるべき露西亜人は自ら人種の大區別に於て白人種と見て居りました英米の新聞に詳しく報道されて居りますから、擁護の責任は彼等の方にあると思うた。併ながら天津より北京に至る亂暴は日本人も目撃したので多くの旅人も皆憤慨して居つた。是等のことは果して文明の擧動であるかといふことを質問するのが第一必要だらうと思ひます。國民の素養此に在る。それに露西亜人が戰爭以外にキシネフの虐殺或は天津から北京へ這入りました時の亂暴を見ては。何人も驚かざるを得ぬが、此の如き軍隊を先きに立てゝ文明を敷くの敷かぬといふのは實に驚くべきやり方であると思ふ。兼て聞えて居つたシビライジングパワーといふものは寧ろバルバライジングパワーと言つた方が宜い。是に至つて我々人類同胞の觀念に促された日本人民は斯樣な亂暴な者が世の中に弘まらぬ丈けの用心をすることは自衛の義務として免がる可らざる所、此の如き時節に當つては義として日本人民は正當なる防

衛の覺悟を以て之に當つて此バルバライジングパワーを防ぐこと、恰も中古歐羅巴の人が蒙古の大軍が歐羅巴へ押して來て、歐羅巴の文明を馬足に蹂躙しやうとした時に防いだと同じことをしなければならぬ。又元寇の亂に我日本の端を侵した蒙古の軍艦を擊沈めたが如き覺悟をするより外致方は無い。單に日本國民の自衛と言はず實に人道の保護者として日本人民は此の如き亂暴なる勢力が世の中に弘まることに向つて之を防ぐの必要があると思ひます。是に至つては已を得ず時局が愈々迫つて來ましたならば日本も色々異る議論がこゝに協同一致して此亂暴なる勢力の世の中に弘まらぬ丈けの事務を執らなければならぬ。事務とは何ぞ、外でも無い、斷然矢張り戰爭をなすといふことであります。戰爭をなすより外仕方が無い。此戰爭をなすは決して日本人が血に飢え、戰を好むが爲にあらずして、全く人道の爲、又東洋平和の爲であるからそれに歐羅巴諸國の人が同情を表するのは誠に當然のことであつて、亞米利加が看婦護を出さんとし、英吉利が義勇兵を出さんとすることは即ち此反撥であると思ひます。是に至つて日本人民は確かに平生の素養から其特色を現はしたのであります。所が元寇の時には今御話申すやうに蒙古が支那と一統して宋を滅ぼして、其餘力を日本に及ぼして來た、丁度此時の日本はどう云ふものであつたか、歷史を披いて見ると決して日本の內自ら充實し、上下一致して居つた國民ではなかつた。總て日本民族の特色として一つの喜ぶべきは事の無い時には兄弟喧嘩をやることがありますけれ共、一旦事のあつた時は兄弟墻に鬩げども、外其侮を防ぐといふやうに擧國一致するものである。蒙古が我邦を侮りし時に於いて內輪に兄弟喧嘩が無かつたかといふと、聊か破裂の原因が日本の中にあつた、それはどうであるか御承知の如く、承久の亂に詰り北條氏が源氏の遺臣を擁して京都に攻入つて、恐れ多くも三帝を島流にして日本に騷動があつた。其跡引續いて僅か一二代を經て元の寇があつた。此時に京都の朝廷は時機があつたらば鎌倉を滅ぼさうといふ考があつた。天下の勤王の士は北條氏を退治して、再び承久の事を回復しやうと思つた。夫故に北條氏に向つては蒙古の役が無かつたならば何か事を起したに違ひないが、弘安の騷ぎの爲にやらぬて居つた。それは丁度元弘の亂の、後醍醐帝が鎌倉を御討滅になつた以前でありますから、目前に爭ひは無いけれ共前に承久の亂あり、後に元弘の亂があつた、其間の弘安頃でありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すから勤王の志ある者は北條氏の政を喜はず、無論他日時機があつたならば鎌倉政府を滅ぼさうといふ意があつたから、上下和熟する時てなかつた。併乍ら外より元の寇が來た時には日本人の態度は如何てあつたか、龜山帝が親ら國民の安寧を禱らんが爲に身を神に献げて神の助を御請ひになつたがこと歴史にある。天下の武士も北條氏の號令の下に全く一致の働きをなして蒙古の大軍を破つたといふことは、日本民族が島國であつて餘り人種が錯雜して居らない、言語も一つ慣習も一つで、一つの君を頂いて之を中心として統一せられた此長き間の歴史が、日本人民の性質を陶冶して、内では兄弟喧嘩をするけれ共、外に向つては此の如く驚くべき働きをなして居るといふのは、日本帝國が今日まで獨立を失はなかつた所の人民の性質の好き處てあると思ひます。

之と同じやうな歴史が明治廿七年に現はれて居つた。是等も早く支那人に知れ渡つて居つたらば支那人もアレ程の敗を取らなかつたてあらうと思ひますが、御承知の如く楊といふ人が日本の永田町に居りました支那の公使てある、其公使が日本の國會の有様と政黨の有様とを見て、日本の人は今の政府に向つて非常に反對だ、國會は屢々政府の言ふことを否決してさうして解散を受ける、政府は干渉をするといふので國民の怨を集めて居る、今朝鮮を支那に併せたとても、到底日本國民が之に向つて援助を與えることは無いといふので、李鴻章に報告した。李鴻章も此時こそ朝鮮を支那に併せて仕舞ふに丁度好いと考えた。日本の弘安の歴史などを知らぬ李鴻章に取つては尤もな鑑定違ひと思ひます。何故ならば支那の今日の有様はどうてありますか、北方に事があると南部の方に動亂が起りはしないかと言つて滿洲政府は漢人種を氣遣ふ。日本は幸ひに太古には色々な人種が集つたもの丶、三千年間此の限りある半島中に互に交際して居つたが爲に人種の上の區別や、習慣の上の爭ひや、宗敎の上の喧嘩などは無い、爲に藩閥とか民黨だとか吏黨だとか言つて居るものも實は是は假りの名て、所謂兄弟喧嘩て、不人望な政府てあるといふに過ぎない、それても一旦外國の者に蹂躙されることがあつたら、後楯とならねばならぬといふのが日本人民の固有の性質てある。その爲に李鴻章も日本の内部には此の如き頡抗があるから大丈夫だと思つて朝鮮へ兵を出して威嚇的政略て日本を庇込まさうと思つたが、皆失敗てあつたが、露西亞の今日も此の如

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きものであるまいかと思ひます。日本が今日財政最困難、經濟が大に逼迫して困る、財政整理を違約したのが怪しからんといふので彈劾上奏と出掛けやうなどといふ有樣でありますから、外から見たら混亂のやうに見える。何ぞ圖らん段々切迫して來るといふと、平生戰を好まざる論者も此場合に於ては致方が無いといふ道理になつて來る。是では株劵が下つて困るといふ銀行家も矢張り妻君の飾を賣つても此場合には軍資を辨じなければならぬ。露西亞の政治家が、日本民族の此特長を勘定しないで威嚇政略で無理を此國民に加へんとして居るが、我々は此際に於て、弘安の昔朝廷に於ては、甞て北條氏が王室に向つて敵抗つた承久の怨を捨てゝ共に國敵に對し遂に西海の大勝利を博するに至つたのは、日本人民の歷史に明かであるといふことを露西亞の人に學ばせなければならぬと思ひます。

人種論に於ては學問の盛んなる中心で、多藝を以て誇つて居る獨逸帝に人種論を仕掛けなければならぬ。又露西亞人も日本の歷史學に通じて居なければ此話も追付かぬと思ひますから、是に於て日本國民が戰爭に依つて此權利を爭はなければならぬ時節に近附いて居ります。決して客氣に逸つて日本の威力を世界に示さうといふやうな考ではいかぬ。日本が唯々威力を世界に示して威張りたいと言へば、英吉利でも矢張り威力を示して威張りたい、佛蘭西も威力を示して威張りたい亞米利加も威力を示して威張りたい。是等は矢張り野蠻の遺習であつて、決して左樣なことで大事を決すべきもので無くして、私の考では有道を以て無道を防ぐといふ觀念の上に立たねばならぬ、文明を以て非文明を防ぐといふ觀念の上に立たねばならぬ、自由を以て擅制を破る觀念の上に立たねばならぬ、人種を以て人の權利を區別するといふ迷を破るといふ所の人類的に萬歲に渉つて變じない大基礎の上に立たねばならぬと思ひます。

此の如き場合に歷史を尋ねて見ると、屢々私は見出すのでありますが、極く古い歷史を尋ねて見ると所謂ヘリーンといふ人種は彼希臘のスパルタ、アゼンス等色々に分れて居つた時、此半島の國小さくして內が小分けになつて居りましたから、其中で光り輝いた學問と文明とが發揮されたことは古代史の上に立派な事蹟を殘して居ります。是からしてソクラテスも出て、プラトーも出て、アリストートルも出てたので、自由の思想に充ちて文明の光を發した、所で其時に海峽を隔て

て大陸の方から豪い戰爭の旅人が來た、それは波斯であります。此波斯國に其の時勇武の皇帝が出て、大軍を率ゐて希臘を攻め、希臘を滅ぼさうとした。此の時希臘は人口が少なかつた、然るに波斯は非常な大きな領分で大軍を率ゐて侵撃的に掛つて來たから、希臘の少數の人が今まで內部に小分があつて爭うて居つた感情を一旦に打捨てゝ仕舞つて、此の大軍に向つて大なる勝利を占め、波斯の軍を打返して仕舞つた。是れが端緒となつて希臘の豪傑が大陸に這入つて印度の端まで押出し、希臘の文明が亞細亞の大陸に弘められたことは我々に歷史の敎ゆる所である。當時波斯の兵は戰爭の大將たる皇帝の命に依つて擊たうとしたのであるが、希臘の方は自由の國民であり、全部能力を發揮したから此國民全部が奮つて戰爭に出掛け、一人倒れたら跡の人が指揮するといふやうにやつた、詰り自由對擅制の戰爭で、遂に波斯が負けたのである。此事は誠に日本の爲に好い訓誡で、古代史の遺言であると思ひます。丁度今日露西亞に於て私は極めて多數の人民には同情を持つて居る。露西亞と一概に言ひますけれ共、彼國に於て憐むべき所の哲人、トルストイの如きは總て兵氣を銷して世の中を平和に致したいといふ論者でありますが、其聲は他國に反響して却て國內多くの人民は奴隷の有樣に沈んで難義をして居る、唯々、僅かに貴族の一部の人が此人民を足下に踏まえて色々な働きをして、遂に他國と端を啓くに至つたので有ますから、一方から言ひますれば露西亞といふ者は少數の者が多數の者を束縛して、此多數の者を心ならざる所の苦役に使ふといふ觀察を下しても差支ないのであります。一たび日本の自由國民、立憲國民が彼擅制、亂暴なる少數政治を挫くとを得て、彼等の威力を抑へて東洋に志を逞くせしめざることが起りましたならば、啻に東洋幾億の我々に近き人民が大に勇氣を稱するのみならず、何れの國と雖も文明に行く所の元氣を以て、思を積み、力を積むことであつたならば勢力を伸べるとが出來るといふ、活きた訓誡を東洋國民が得て、彼時勢に背馳したる支那人をして文明の味を覺えさせることが出來ることであらうと思ひます。それは我々の利益であるが、併ながら尚之を廣く及ぼしたら憐むべき露西亞の奴隷を解放することが出來るであらうと思ひます。是は餘りに日本人民の博愛の心を廣く說き過ぎるやうでありますけれ共、自然の結果さうである。此事は決して空想で無い、前に申しました波斯の大軍を打

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

破つた希臘人が希臘の文明を印度のガンジス河まで推及ぼして亞細亞大陸を一變したのは、詰り波斯の大敗の人民が文明の光を仰ぐことを得て、敵國が其餘澤を受けたのでありますが、露西亞と日本との關係も亦然り。自由と奴隸、立憲政治と擅制政治との爭に前者が打勝つて人種上の迷をも破ることになつたならば大變な結果が現はれます。私は確かにクリミヤの戰爭が露西亞人に與へたる利益・與へるであらうと信じます。御承知の如く千八百五十四年に佛蘭西と英吉利と力を戮せて之にサルジニヤの兵を加へて、セバストポールの大戰に於て露西亞人を破り、又露西亞の有名な主權者ニコラス第二世は擅制の雛形であつて、擅制國の君主として適當な人であつた、此人が内部に非常な擅制を敷いて置いて此戰爭が破れた。此戰爭が負けたのは獨斷的の結果であつたからして、アレキサンダー二世が出て來てからは奴隸の解放を行つた、露西亞の耕作する人は是まて器物と同じく賣買する奴隸で有ました、それに農といふ名を附けたのは是が始てあつた。總て下に弱り居つたのに一たび束縛を解かれた。是は露西亞の歷史の暗黑の中に一つの光を放つたのはクリミヤ戰爭の敗北からてあります。其後内部の諸處に騷亂がありまして自由の人民が大學の生徒の中に潛み、軍隊の中に潛む。それを餘り押付けるから遂に病的思想を起して無政府黨を發生したので、其根原を尋ねて見ると矢張り自由に飢えて居る憐むべき露西亞人であるから、之に向つては極めて同情の念に堪えないのでございますが、兎に角クリミヤ戰爭の結果、人類の上に大なる影響を與へたのであります。

今一つの例を宗教の上に取つて擧ぐれば、プロテスタントを奉ずる英吉利はエリザベスの時に非常な勢を以て勃興して來た、其時にカトリックを代表して居つた西班牙は大艦隊を組織して英吉利を討つた、此時英吉利は少數であつたが國民が大に奮つてエリザベスの朝廷が國民と共に働き、遂に西班牙の大軍を打破つたのは歷史上顯著なる事實て有ます。是が西班牙の如きカトリックの國は衰え、英吉利の如きプロテスタント國が興る所以てあつて即ち其頃西班牙の持つて居る領分の亞米利加は佛蘭西に破られ、又西班牙の艦隊は英吉利に破られ、それから後盛んに興るものは興つて、初て之を成就したのは近日印度の西班牙軍を亞米利加が破つた、是は一國の運命にあらずして、人類文明の消長に影響する所てありますから、直接軍人軍職の人のみ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ならず間接に總ての人が此任務を感じて之に向つて、龜山帝が神に禱つて身を献げて國民の安寧幸福を禱つた如き考を持ちましたならば、日本が文明を世界に弘める一大任務を果すとが出來ると思ひます。是が此度の事變に付ての日本人民の覺悟であらうと思ひます。

（速記社員筆記）

司馬法

古者以仁爲本、以義治之、之謂正、正不獲意則權、權出於戰不出於中人、是故殺人安人殺之可也、攻其國愛其民攻之可、以戰止戰、雖戰可也。

●社告　前號の三宅雄次郎氏の「英杜戰爭と日露戰爭」は、社員の筆記にして、島田三郎氏の「國民の素養」は開戰前、成民會にて演説されたるを乞ふて、速記社員に筆記せしめたるもの文責共に記者にあり、

海外新潮

「歐人の眼に映したる日露戰爭」は本欄締切の日までに到着したる英國の諸紙は悉く開戰以前のものゝみなれば遺憾ながら米國の二三紙のうちより採錄することゝしたり

海外大勢

露國の大失錯

「二月二十七日」　「リテラリー、ダイゼスト誌」

バラクラヴアに於ける英國の失錯は、英語を以て書ける尤も燦爛たる戰詩を產み出したる功ありと雖も、旅順港に於ける露國の失錯は、世界に向て露國の無能を告白したるの外、何物をも贏ち得たる所なし、尤も無遠慮なる批評家と雖も、僅かに二週間の戰爭中、露國が日本よりも多くの船艦を破損し、而かも旅順港の近傍に於て、日本の軍勢によりてよりも寧ろ己れの失錯の爲めに、日本よりも數多き人命を失ふに至るべしとは開戰前奈何ぞ推察するを得べき。

日本は旅順に於て露國艦隊の大部分を轟沈し、或は其の戰鬪力を失はしめたり。而して日本の死傷は極めて少數なるに拘らず、露國はエニセー及びボヤリンが露國の水雷火坑に走り、且つ打上げたる際に三百の生命を失ひたるにあらずや、此不幸なる失錯に加ふるに、旅順に於ける露國

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の水雷艇は、城砦に於ける砲手によりて日本の水雷艇と誤認せられ、爲に沈没するの止むなきに至れりと傳へらる。又た獨逸に於ける海事に通じたる批評家は巡洋艦ヴアリアグ及び砲艦コレーツを仁川港に殘し、日本の艦隊をして容易に之を破壞せしめたるは、露國の大なる失錯なりと論ぜり、此の失錯の爲めに又た多くの人命を失ひたりヴアリアグは其甲板に四百の水雷を有し、實に露國が極東に有する水雷の三分の二なりきといふ。他の露國の砲艦も同じく上海に棄てられ、數隻の日本艦隊は近海を横行して、其出で來るを待ちつゝあり。

東京通信はポヤリンの沈没を以て、十四日の襲撃に於て日本の水雷艇に命中したるによるとなせども、旅順の通信はポヤリンの災厄を以て十三日の事となせば、恐らくは後の方正確なるべしと信ず。又一方の通信によればポヤリンの沈没せしは、浮びたる水雷火坑を救はんとする際、誤つて岩上に乘り上げたるの結果なりといふ。

ワシントン、スターはバイカル湖を横ぎらんとする六百の兵士の凍死したるは尚一層甚しき大失錯なりと論じたり。其文に曰く、「露國は數月間、滿洲及び朝鮮に關する權利を伸張する日本の目的を恐喝せり。而して一朝事あるに及べば、バイカル湖の氷上を渡り得べしと思ひ居たり。日本が終に兵を動すに至るべきは始より最も明かなりし事實にあらずや。然るに一旦開戰の機に及び、日本が旅順を襲撃せし顚末を見るに、露國の準備は頗る空乏にして、交通の最要業たる鐵道は列車を以て封ぜられ、而かも其最要點は氷水の盤上を横ぎる橋の準備をなさゞるべからざる仕末にあらずや。此氷を横ぎる道條を定めんとする遲々たる努力は、又嵐及び材料の缺亡の爲めに一層の停滯を來せり。切角定めたる道筋は後に至りて大いなる誤りなりしことを發見したり。此失錯の爲めに湖上を渡るには常に橇を用ひざるべからず、從て軍隊は嚴寒及風雪に暴露せられざるべからざる不幸に陷れり。事體已に斯の如くなれば近來六百の露兵が滿洲に行かんとする長途の間に凍死したるの報に接したるも今更ら驚くの要を見ず。又た或筋の報告によれば、軍隊が西比利亞に入るに當りて其服裝宜しきを得ざりしが爲めに、疾病に罹りしもの極めて多しといひ、又二三日前の風聞によるに戰務大臣は土耳機斯旦の知事に推薦せられたりといふ。蓋し土耳機斯旦の如きは他日最も重要なる土地なるべしと雖も、現今に於ては識る人に知られざる僻隅の地にあらずや。彼等の爲す所一も其當を得たるものなし。セント、ピータースバーク朝廷が、其の戰備の極めて不整なりしこと、及び、戰爭上、政治上の利益關係尤も重大なりし西比利亞線の毫も信賴するに足らざるの事實を、自ら悟るの機必ず遠きにあらざるべきを信ずるものなり。

紐育のプレッスは、若し露國にして陸戰に於ても海戰と仝樣の仕末に陷らば、露帝は必ず國民教育の急務に就て熟慮する所あるべきを說き次の如き論斷を下せり。

「軍事上の名聲赫々たる合衆國の海軍士官は戰爭の開かるゝやプレッスに彼の觀察を與へて曰く、露國は戰艦、砲臺、及び水雷艇等を有する何の益なかるべし、何となれば彼の國人は此等の用法に於て毫も知る所なければなりと、露國が海戰に於て此士官の言の信なるを證明したるによりて見れば——自國の船を自國の水雷火坑に吹き上げ、自國の艦に向て發砲し、敵よりも多く味方を害したるなど——彼等の陸戰に於ても又此士官の言の的中するや未だ知るべからず。此士官の信ずる所によれば露國の陸軍は其の實力に於て卅年前よりも遙に劣れるを暴露すべし、何となれば陸軍に於ける士官は皆思慮に乏しく又獨立の動作に缺けたる人のみなればなり。古の如く集合して戰鬪するの時機にあつては差閊なかるべきも、今日の如く士官は遙かに隊後にありて敵をも見得ず敵より

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も見られず而も軍隊を指麾して殊功を奏せんとすれば必ず思慮人に絕し獨立の動作尤も勝れたる人にあらざれば何の爲す所なかるべし。副官さへも兵士と近くとなし。全體に關する動作又は信號を以てするにあらずんば直接に命令を下すとなきにあらずや若し兵卒が正確なる位置に居らざるも彼の誤りを正すものなく、敵左にある時右に向て發射するも彼の愚なるを叱するものなし。兵卒と雖時に應じては自らの將となり、或は卒ともならざるべからざる責あるなり此れ故に軍人は必ず戰爭に就ての術を知らざるべからざるなり、然に露國の上官は甚だ低き智識を有し、或は全く教育なきもありて、(露人の百分の九十六は讀書する能はず)戰術の如きは彼等の毫も知らざる所なり。

「露人は如何に剛勇なりとするも——而して亞米利加士官は之を動物的蠻勇と稱す——海上に於けるよりも陸上に於て一層巧みに武器を使用する近世の教育を受けたる軍人に敵對すべくもあらず。若し此事實をして信ならしめば、陸戰に於ても又海戰の跡を蹈ふが如きとあらば、露帝の最後の希望も全く破碎せられ、目に一丁字をすら見たるとなき數百萬の人民を教育するの尤も急務なるとを痛切に感ずべきなり。果して然らばよし今回の戰爭をして露國の大失錯たらしむるも露國人にとりては却て世にも稀なる禍福となるやも未だ知るべからざるなり」と。



ドンと一發驚いたろう

大英國と朝鮮

「一月二十三日」

「ブラック、アンド、ホアイト誌」朝鮮の未來に於ける大英國の利益は決して少々にあらず。商業の大部分は英國の手中にあり、而して現に英國製造品の輸入は著しく增加したり我か英國代表者は必ず彼の地の人民と性情に就て熟知したる人ならざるべからず。ジョン、ニュウエル、ジヨルダン氏は一千九百一年以來朝鮮政府の大臣邸にありて東洋に就ては長き經歷を有す。

彼はロバート、ハートの如く北アイルランド人にして支那税關の有名なる長官にして現に五十二才なり。ベルフハストに於けるクヰンス、コレッヂを第一等の名譽を以て卒業し二十八年以前支那の學生通辯に任ぜられ、其の後一千八百八十九年北京公使館に於ける秘書官補助に擧げられ、二年後終に秘書官となれり。八年前領事長に補せられ一千八百九十八年委員長に任ぜられたり。

ジョルダン氏の經歷は斯の如く充分にして圓滿に且際帝國に於ける英國の利益を計りしを決して少々にあらざるなり。

嗚呼我英國はジョルダン氏の如き實に適當なる人物を有す、朝鮮國との關係一層重大となるべきは日を期して待つべきなり。

バルカン問題に對する
日露戰爭の影響

「リテラリー、ダイゼスト誌」
「二月十三日」

露國が日本に對して斷然たる所置に出づる能はざるは、主として日露戰爭がバルカン問題をして一層困難ならしむるを恐るゝによるなるべしとは種々なる歐洲評壇の一樣に唱道する所なり。ペテト、レパブリクは春に至ればマセドニアの必ず蜂起すべきをいひ、ペスター、ロイドはラムスドルフ伯が露帝に迫りて和解の道に出づべきを推しニュース、ウイナー、ターゲブラットはセルヴイア及びブルガリアに於て實際軍備に取りかゝりつゝあるを記せり。ライツシツクのグレンツボーテンは露國の政策がバルカン問題と極東問題との間に密接なる關係を有することを考へ「一千八百七十八年以來の露國の政策を見るに露帝ニコラスは土耳古とブルガリアの間の混亂を認容することなかるべし、露西亞は其全注意を極東に拂ひつゝある時すらも其の何れかに味方すべきは論なし。然れども今日に於てバルカン問題に干涉するは損得相償はざるの結果に陷るべし」と論ぜり

インデペンダンシ、ベルゲは此問題に就て器々の聲あるは全く露帝の下なる戰爭好の口より出づるものにしてバルカン問題の如きは平和黨の眼中には一些事たるに過ぎずとなせり。

エドワード、デシーはマセドニア問題は畢竟大なる東洋問題の一小部脈に過ぎずと論じたり。

又たスペクテートルはバルカン問題に對する日露戰爭の影響を論じて日く。

「若し露國にして一朝日本と戰を開くことあらばブルガリアの政府はマセドニアの臣民を統治する主權をサルタンに迫るべしとは實に近き推測なるが如し、何となれば是迄かゝる擧に出づる能はざりしは全くブルガリアが露國の干涉を恐れたるによるを以てなり。此事の眞僞は未だ俄かに定むべからずと雖も又必ず、しかなるべきを確かむべき事實のあるあり、即ち土耳古の朝廷がブルガリアとの商業條約を破り、ブルガリア人をして歐洲の領地に迫害する等の事はブルガリア人の長く堪へ忍ぶ能はざる所なるべし。彼等の村落はマツサルマン人に擯斥せられ、僧侶は聞所に轉ずるを禁ぜられ、而して土耳古政府は別段面倒なき問題なるに拘らず其の困難を救はんとはせざるなり。若し土耳古政府にして眞摯熱誠ならしめば必ず其方針を一變せざるべからず。

ブルガリアにして其苦痛に堪へず、又た兵力にして敗を取らざるの見込あらば戰爭を宣告するに向て充分の理由を有す。然れども吾人は恐る、ブルガリアは墺太利が歐洲土耳古の革命に備ふること露の如くならず、又墺太利は一方に日本の戰爭を控へ居らざることを見出すべきを。

支那の商人と官吏

「グローブ紙」
「一月二十五日」

支那の商人及び銀行員は甚だ誠實なりてふ名聲を博しつゝあるに反し、支那の官吏は救濟し能はざる程腐敗せるものと考へらるゝは不思議なり

といはざるべからず。尤も双方共多少の除外例はあるべけれど、外國人は一般に一方に信賴して、他方を全く信頼せざるは爭ふべからざる事實なり。此の異常なる事實に關して多くの說明はなされたり。其の一に曰はく商人は前代より尤も正直なりしも、官吏は不名譽なる賄賂をも正當なりと思惟せしなれば其思想が傳はりて以て今日に至りしなりと。又他の一說に曰はく、官吏は彼の薄給なるが爲めに勢ひ格外の金錢を要し、商人は其利充分なるを以て不正の所業に出づるの要を見ずと

支那の商人は、概して物品を安價に買ひて高價に賣り嚴格にいへば寧ろ不正と稱すべき程の大利を貪ることは事實なり。然ども商業によりての暴利は支那の官吏がなすが如き賄賂苛茸等に優るべきは固より論なしといふべし。

海外雜纂

獨逸の戲曲に於ける個人主義

「二月十三日」「リテラリー、ダイゼスト紙」

ブルークリンのアデルフイ專門學校に獨逸語學及び文學の教鞭を執れるジヨン、フイルマン、コール氏は「十九世紀の獨逸文學研究」に於て獨逸の戲曲に於ける個人主義に就て論じて曰く、

十九世紀末葉に於ける三大文豪エルンスト、フオン、ウイルデンブルフヘルマン。ズーデルマン。ゲルハルト、ハウプトマンは何れも皆人生の理想的價値を追求せんとする特徵をあらはせり。殊に彼等は其詩歌及び戲曲に於て個人主義の大問題を解決せんと勉めたるものゝ如し。彼等は個人の必要の中に社會の要求の反射を認め、個人の性格の中に現實と理想との間の葛藤を見たり。彼等の著作に於ては個人は單に現代に於ける個人に止まらず又實に來るべき時代の個人なるべきことを示せるものゝ如し。



此の大馬鹿野郎利腕を捉つて捻ち上げてくれう

ウイルデンブルフ氏はズーデルマン、及びハウプトマンの如く徹頭徹尾近世的の色彩を帶びず。彼は寧ろ沙翁的の傾向を有する近世的シルレルとも呼ぶべきものにして、彼の理想を過去の中に求め、在來の光明を籍りて現今の社會を觀じ、而して現今の功績の前表又は現今の狀態の符號として歷史上の事蹟を描寫せんと勉めたるものゝ如し。彼は文明の進歩を以て全然個人の競爭によるものとして表示せり、彼は英獨の國民歷史に記載せられたる悲劇を選びて彼の題目となし、千八百八十二年に書ける戲曲の主人公ハロールドの如き英雄ありと雖、其倫理上に於ける理想は畢竟近世社會の法則によりて律せられたるものといはざるべからず。

ズーデルマン或はハウプトマンは斯の如き歷史の範圍を有せず。ウイル

デンブルフは今日の理想が漸々實現の途に上りて、未來の必ず現今に優るべきことを信ぜしと雖も、此二氏は今日に於て此の理想の實現せられんことを熱望せり、彼等は個人を實に現社會と分離して考ふべからざるものなし、個人の慾望は實に亦現社會に求めざるべからざるものとなしたり。此點に於ては二氏殆んど相一致すと雖も亦自ら異なれる所なくんばあらず。

ズーデルマンは北獨逸の人にして首都の混亂極まれる間に於て著作に從事し、ハウプトマンは南獨逸の生れにして彼の詩篇の多くは靜寂なる田園の幽居より世に出でたり。ズーデルマン氏は實生活の謎の前に立ちて社會の道徳的價値の如何を問て其の解答を求め、ハウプトマン氏は其追求の眼を擧げて靈界の眞假幾何ぞとの疑を放ちたり。

ズーデルマンは若年の時伯林に遊びて新美術を創造せんとするの熱望を起し、如何なる理論にも煩はさるゝことなくして獨自一己の見解を持し吾人が求むる所の理想を現實の中に見出すてふ主義を發表せり。

ズーデルマンの目的は人生をして道徳の理想を現實にあらはさしめんとするにありしが恐らくは今日に於ても斯の如き見を持するなるべし。かるが故に社會百般の現象は其善惡に拘らず、かゝる目的を以て遂せんとするの第一歩として美術家の注意を拂はざるべからざるものとなせり已に人生を以て理想の具象化なりとすれば美術家は彼が實際目擊するが如く人生を描寫せざるべからざる義務あるは論なし。ズーデルマンが斯の如きの見解を持して人生に對することは實に瞭々として明かなり、然れども彼が果して已れの主張を遺憾なく實行するを得しや否やは大なる疑問にして屢々彼は厭世的に口調を洩らし、又社會の暗黑面に對する嫌惡の聲を放ちたる如く思はるゝなり。

道徳とはズーデルマンにとりては比較的用語にして決して絕對的の意義を有するものにあらず。道徳の理想は常に變移して止まず。個人の行爲が彼の時代の見と一致せずとも必ずしも不道徳なりといふを得ざるなり。彼或ひは時代の最優者にして彼が時代の規矩準繩と一致する能はざるは個々以て彼が一層大いなる道徳見を持するを證するものなるやも知るべからざるなり。茲に於て彼れ自問して曰く個人が社會の方便主義と爭ふとの道徳的價値は如何にして定むべきやと。獨逸首都の社會狀態を見て斯の如き意見を持したるズーデルマンに反してハウプトマンは寧ろ內省的の傾向を示して自ら靜寂の趣あり。「織布者」「クラムプトン教授」又は「テームスター、ヘンセル」の如き戯曲において重要なる役を勸むる人物に相似たる彼の性格は壯年より已に神秘的印彰をあらはしたり。

社會を高尙にせんとするの熱烈なる願望と相待ちて强大なる意志を有する人にあらずんば如何ぞよく彼が屢々與へたる如き自然的人生の描寫をなすことを得べき。かるが故に吾人は如何なる戯曲を取りて讀むも靈界の價値を求むる詩人ハウプトマンの作を見分くることは極めて易々たるなり。道徳は常に彼にとりて第二の問題或は全く無視する所の問題なり彼が現象的の研究に浮身を窶すは全く人生の超絕的心靈的眞髓を知らんとするが爲めのみ「日出前」と稱する驚くべき道徳の腐敗を描ける作の如きも彼が人民が靈界の萎縮病にかゝれることを考ふるや全く無意義なる結末を以て之を終らしむるに至れり、ハウプトマンの戯曲中超絕的の色彩を帶びざるもの一もあることなし。彼が描ける個性は一層深き性格の一部なることを示し彼が寫せる行爲は永久なる莊嚴の一片なることをあらはせり。

世界最大の隧道

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「二月二十日」

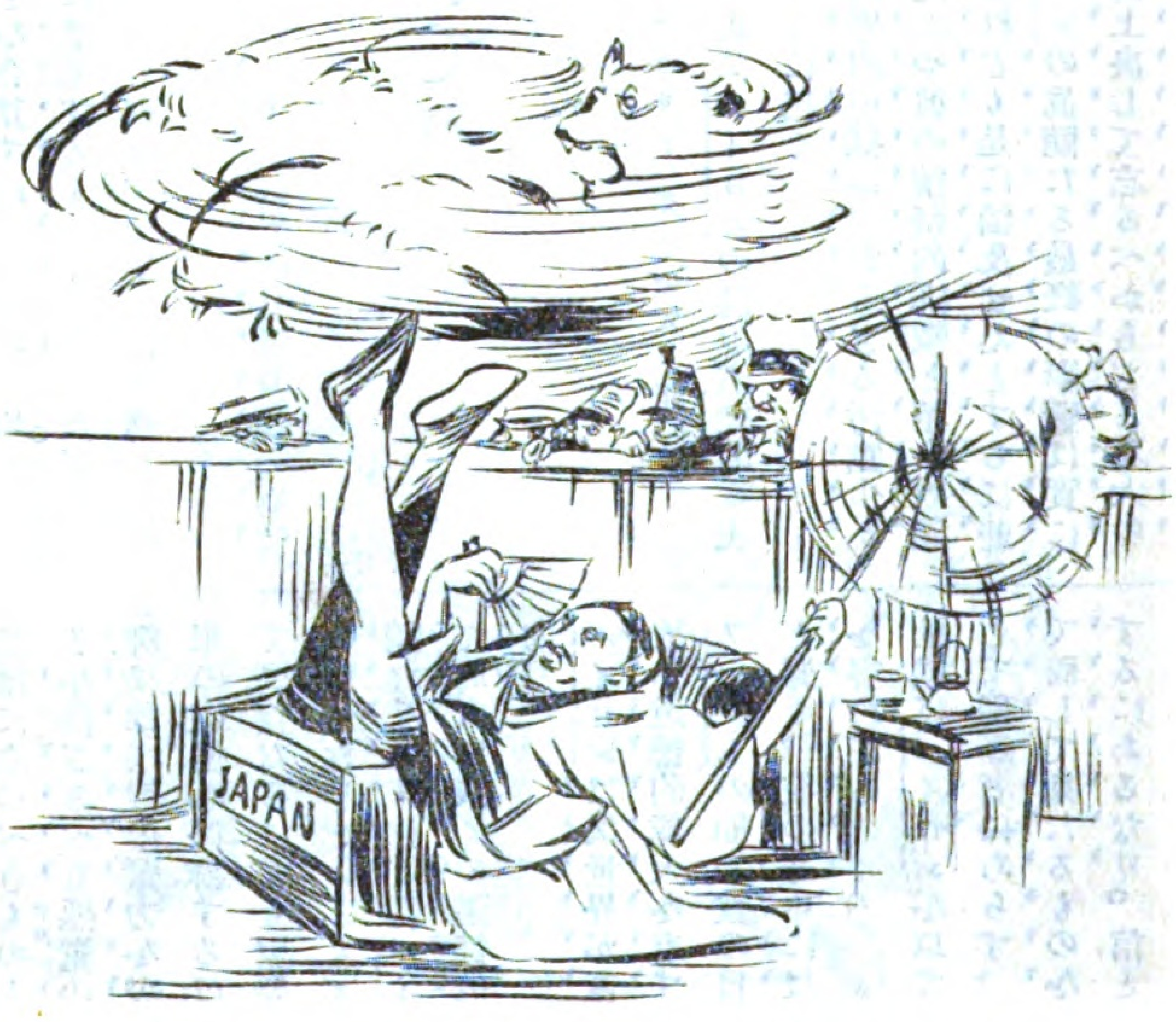
將さに完成せんとするシンプロンの隧道は工業界に於ける尤も注目すべき事件の一なり。倫敦新聞の通信員は一二週間前隧道の中より湧き出てたる熱泉の熱が甚だ强きが故に此事業は終に中止せらるべきことを記載せり。然れどもタイムス新聞は大に此說を批難して曰く

此電報の發信者は斯の如き大事業に着手する才幹ある工業家の熟練と忍耐と決心とについて全く無知なることを表白せり。此事業の甚だ困難にして他の場合に見るべからざる難關に遭逢せることは屢々なりしと雖、而かも皆滿足に解決せらるべきは疑を容れざる所ろなり。隧道の全長は凡そ十二哩二五にして、其中六哩二五は北方即ちブリグの方面より貫穿せられ、四哩二五は南方即ち伊太利の方面より貫穿せられ、今尚完全せられずして殘れるは僅かに一哩半に過ぎざるなり。隧道の上なる山の高さの甚しき爲め殆んど六千呎——其壓力は實に非常にして岩石及び熱泉の温度は甚だ高し。是れまで遭逢せる中最も高き熱度は華氏の百三十三度なりしと雖も隧道の南方に進むに從て漸々下降し、現今に於ては百二十六度に減じたり。若し此熱湯が工夫の頭上に降下せば其危害は實に大いなるべしと雖も水壓器を以て冷水を送り、之に和して其熱を減少せしめ其温度は人體に危害なくして却て人心に快からしむる簡單なる手續を以て此れを防止するなり。

又工夫が働作する場所の空氣を寒冷ならしむるが爲めに實に驚嘆すべき方法を採用し高壓せる水力を利用して華氏二十度乃至二十五度まで冷却せしめたる新鮮なる空氣を正しく工夫の面前に送ることを得たり。

他の隧道の場合にも此空氣冷却法を用ひしことありしと雖も今回のシンプロンに於けるが如くよく寒冷にして新鮮なること稀なりき、而して今回斯の如き成効を奏せしは全く工夫中に病的分子の存在を許さゞりし秀拔なる注意によるものといはざるべからず。ブランド氏のドリルの採用はあらゆる塵埃を一掃し殆んど三千人の工夫が五年の長日月の間工作に従事せしに拘らず未だ一人の肺勞患者をも生ぜざるなり。

「リテラリー、ダイゼスト紙」



世界の舞臺で皆様方にお覧に入れます
るは日本チャリネの熊廻しでござい

プリーグより上昇する隧道は其頂上及び瑞西と伊太利の國境を通過して今や漸々降下するの工事に着手し、將さに南方より上昇する工事に遭はんとするまでの運びに至りたり。

北方より進む工事と南方より進む工事とを合算すれば毎月の平均四分の一哩なり此故に若し一層大いなる困難に遭遇することなくんば、此工事は今年の五月或は六月の中に完成せらるべく、列車は今年中に運轉し得べきなり。

此事業の組織は實に驚嘆に餘りあるものにして工業界の日進月歩の有様此一事を以ても證するを得べし。

道德教師としての
バイロン

「一月三十日」　「リテラリー、ダイゼスト紙」

ミヒガン大學教授ジョールヂ、レベック氏はバイロンの詩の道德的意義に就て最も斬新なる見解を發表せり。其文に曰く

予は敢てバイロンの詩に自我、卑俗、肉慾的の拭ふべからざる汚點少からざるを蔽はんとするものにあらず、況んや彼の懐疑的排戰と革命的過激論とを辯護せんとするに於てをや、然れども是に論及せんとするは此の如き幾多の缺點あるに拘らず、バイロンの眞髄たる最終の影響は實に尤も勢力ある道德的感化にして歐洲の史上决して忘るべからざる莫大の功果を呈し、又尚一層高き生活に入らんとするものにとりては少からざる感化を及ぼすべきを明かにするにあるなり。

尤も多數のアングロサクソン人が彼の惡となす所の根底――即ち無限のバイロン的失望と反逆――と見做せし所ろのものが却つてバイロン。道德教師たる要素をなすものなることを示さん。若し詩人の最大道德が已に成立せる規律に歸依し、之を保持するにありとすれば――即ち現在の狀態に安んじ、教會の規則に從ひ、又社會の拘束に甘んじ、常に樂天的見地に立つべきものとすればバイロンの如きは尤も惡德者として罵らざるを得ざるべし惡魔(サタン)の如く彼は希望を失ひて獨り立ち、彼の燦爛たる光輝は却て彼の魔力を表示する厭ふべき表彰とも見ゆるなるべし、然も在來の道德を保持するは决して詩人最終の目的にあらず。却つて清廉にして眞實なるは尤も緊要なる資質にして、又自由と眞理を發輝するは人生の生命なりといふも不可なかるべし、若し斯の如きことを以て道德の眞髄なりとすれば吾バイロンは詩人としても一個の人間としても斷然として時人に拔くの道德的見解を持し。長く名譽の冠を頂くの榮を受くべきなり。

バイロンは又世界が産出したる空前の否定的詩人なり。而してそは全く彼が道德的偉大を有するに歸因す、彼はアリマネスの客堂に於けるマンフレットの如く彼の目に觸るゝもの皆懐疑、拒否及び失望の種となりしと雖も、彼の心中には常に眞摯に强力の衆に超えたるものあることは疑を容れざるなり。

世或はバイロンを以て固執偏狹なる獨斷者となすものありと雖も彼は决して獨斷者にあらず、只だ懐疑者と稱すべきものゝみ彼の拒否は寧ろ見て而して見たるものを信じ能はざる精神に就て悲痛し、且つ破壊せんとするにあるなり。信と愛と人道の光榮ある明暈は彼の精靈の天空の上に震動して其詩作の中にあらはる。故に彼の詩は積極的理想を具體することに於ても甚だ豐富なり。

樂天的ならざるあらゆるものを目して直ちに惡なりと直斷するが如き人は知らず、苟も眞摯と熱誠と勢力とが道德の要素なることを認むる人は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よし多少の批難あるとするもバイロンが道德界に及ぼせる功果決して少からざるを否定する能はざるべきなり。

創造に就ての研究

「一月二十三日」

「リテラリー、ダイゼスト紙」

佛國は未だ曾て熱心なるダルヰン信者を出したることなし。夫れ故に佛蘭西地質學者スタニスラス、メニユールなるもの、あらゆる變形論者に反對し、且つ個々創造の主義を頑として持するが如きは毫も怪むに足らざるなり。彼は生物が互に相關聯する種類をなすとを許すと雖も、一個の物質より變化したるものとは信せず。始めより個々別々に存在するものとなせり。彼は明かに之を斷言せずと雖も斯の如きは創造者の意志なりとの見を持せるは疑を容れざるなり。

吾等は茲に彼が著せる文の數節を抄譯して讀者に紹介すべし

有機物は屢々陶工か粘土を燒て製作する事物に比較せられたり。其思想の連續は恰かも變形的臆說より獨立して有機體進化の表と相一致するが如く思はるゝなり。

陶工が年久しく平圓の器物又は盃等を作れるの後、餘りに速かに濫發せんことを恐れ、今一層圓形に近き器物を發明せり、然かも此れを以て滿足すること能はず次に長圓形のものを作りて之に蓋を附し、吾人は瓶を得たり。之に柄を加へ更に吾人に小瓶を作れり。

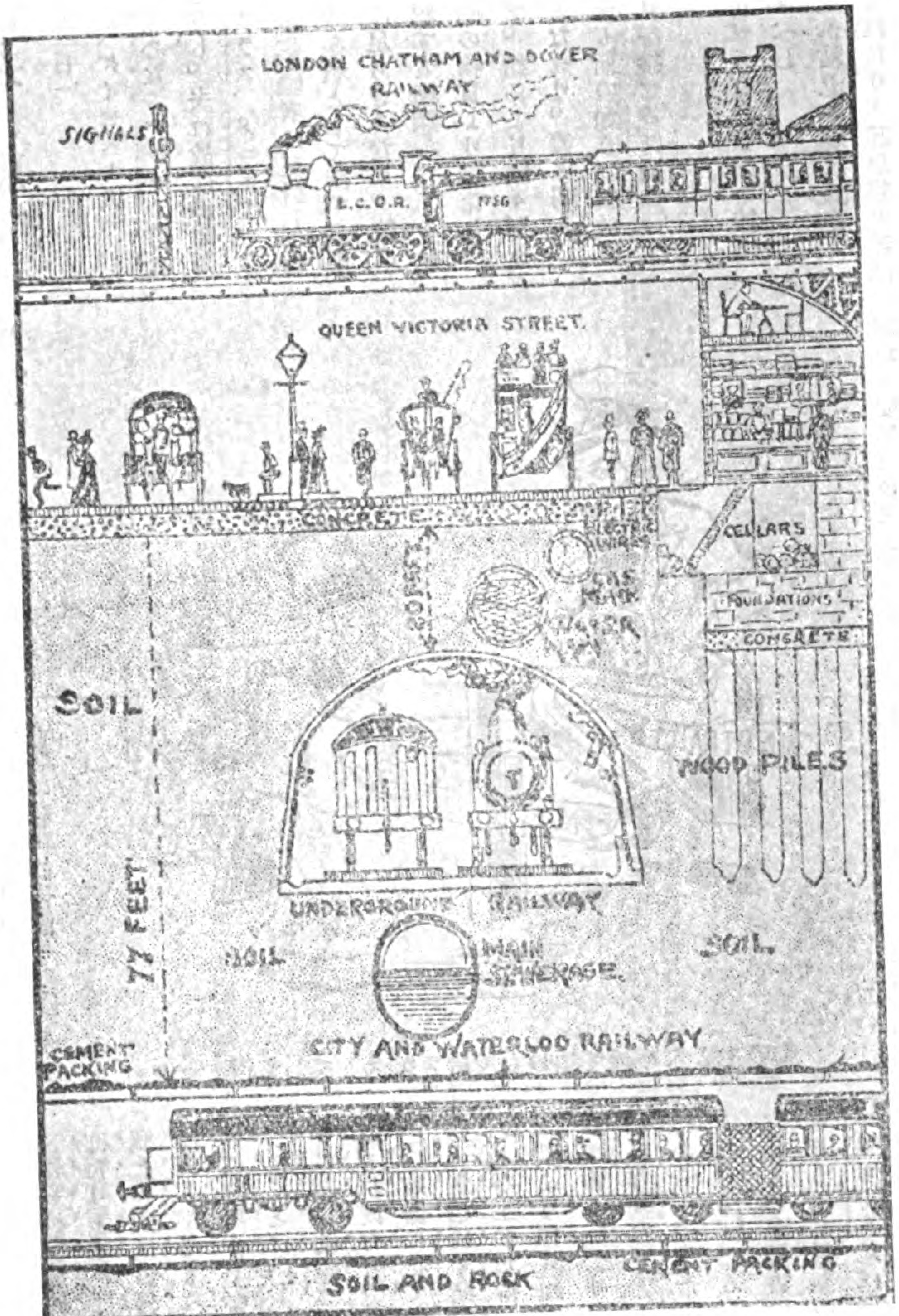


ツンと澄ましてトボケテ居てもお顏で讀めたよ主の胸

此等の器物は皆同一の陶工によりて作られ、又同一の粘土によりて作られたりとすれば、其器物と杯と瓶と小瓶との間に密接なる關聯を有することはいふまでもなかるべし。然れども吾等は器物より杯を生じ小瓶又瓶より生じたりとはいふを得ず。何となれば此等は單に連續せる陶器の一個〳〵に過ぎざればなり。

已に陶器にして然りとすれば何ぞ有機體の創造にも斯の如き關係の存せざることを主張し得べき、彼等は皆同一の物質より作られ、又同一の工作人によりて作られたり、然れども一物が他の物を作りたりとの形跡は毫も存せざるにあらずや。吾等は彼等は實に連續してあらはれたることを拒まず。最も簡單なるものが最古のものにして最も複雜なるものが最新のものたり。云々

メニユール氏は此外彼がダルヰン及びラマルクを排斥する理由を說明し、併せて變形說のあらゆる理論を攻撃せりと雖も、餘りに冗長に陷るの嫌あれば之を略す。


LONDON CHATHAM AND DOVER
RAILWAY
SIGNALS
L.C.D.R.
QUEEN VICTORIA STREET
CONCRETE
CELLARS
FOUNDATIONS
CONCRETE
GAS MAIN
WATER
SOIL
WOOD PILES
77 FEET
UNDERGROUND RAILWAY
SOIL
MAIN SEWERAGE
SOIL
CITY AND WATERLOO RAILWAY
CEMENT PACKING
SOIL AND ROCK
CEMENT PACKING

倫敦の縦断面

雜錄



露西亞の對芬蘭土政策とスカンヂナビヤ諸國

烟山專太郎

露亞西の芬蘭土を壓服せんとするの一朝一夕にあらざるは世人の能く知る所なり。今や彼、極東に事端を我國と構へ、其結果する所の如何によりては彼が西境に對する政略に何樣の影響變化を及ぼすべきや知るべからざらんとす。即今日に於て芬蘭土問題の來歷を研め、由て以て之が將來を揣摩するの一端に供する、必ずしも無益の事にあらずとせんか。

瑞典領下の芬蘭土

ツラン人種たる芬蘭土種族が何れの時又如何なる事情の下に芬蘭土の地を占むるに至りしものなりやはもとより正史の吾人に示す所にあらずと雖。之を要するに此等の種族が新興の勇強なる種族の壓迫を被りて漸寒の北方濕地に退引するの止むなきに至りたりしは頗る往古の時代に屬すべし。瑞典が目を此東隣の半島に注ぎて之が經略を策せしは中代の後半期にあり。十三四世紀の頃ひに於ては芬蘭土の地既に其領有する所となりつゝありき。一五二八年瑞典王グスターフ、ウアーサ初めて新敎を此國に輸入し、爾來西歐の文物風習に摸せしめて頻に此地の朦昧を啓き、法律は布かれ、農工商百般の事業は發達進歩し、其舊觀の改められたるもの尠からざりき。十七世紀に至りて英主グスターフ、アドルフあり、更に國會を新設し、學校を建て、新敎會堂を所在に興し、文學美術を奬勵し、土人思想界の發展は實に著きものありき。されば異種族の管治

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の下にあるを以てするも、當時瑞典領下の芬蘭土は之が啓蒙政治の爲に前途の發達頗る好望なりとせられたりき。

ピオトル大帝以來の露國

芬蘭土蠶食

露國が瑞典と共に芬蘭土の土地を爭ひたるは遙に中代の末期よりなり。彼は一時之を瑞典の占領に任せ、暫く雌伏して時機の至るを待つの已むを得ざるに至りしが、十八世紀の初年、ピオトル大帝の其國を興すに及てや都を芬蘭灣頭に移し、瑞典の豪傑カール十二世を破りて一七二一年、ニスタッドの條約により、終に芬蘭土東境の大部分を割奪したり。是に於て瑞典は頻に恢復の帥を興し、十八世紀の末よりして十九世紀の初年に跨り、屢々干戈を露軍と交へたりしが、戰利あらず、一八〇九年九月十七日フレデリクスハムに和約を結びて全く屈服し、芬蘭土の全地とアランド群島とを擧げて盡く之を露西亞に歸したり。芬蘭土は斯の如き事情の下に遂に露國の所屬となりたりと雖人民はその永く臣事したる瑞典の善政を忘るゝ能はずして之に反抗し、露西亞政府は賄賂を行使して輕うじて之を屈せしむるを得たり。是に於て一八〇九年、ツァール、アレクサンドル一世は先づ芬蘭土の國會をボルゴに召集し、勅して此國の宗教法律、すべて自由なるを得べしとなし、以て僅に民心の激昂を慰諭するを得ぬ。

露領芬蘭土の初年

芬蘭土の憲法は實に一七七二年に於て制定せられしものにして、其後一七八九年修正せられたり。アレクサンドル一世は大體に於て此憲法を保維し、彼の後繼者も亦彼の公約を重んじて此地の法律習俗に追隨し、元老院を置き、總督を任命し、當時芬蘭土は頗る自由の仁政に浴するを得たりき。一八二一年すべて文武の官廳をアボーよりヘルシングフォルスに移し、アレクサンドル二世の世に至りては一八六三年を以て國會を再興し、五年毎に之をヘルシングフォルスに召集することとなせり。國會の開かれざりしもの實に五十六年にして又其往時に復せり。一八六〇年、此國に獨立の貨幣制度を布くことを許し、國語に關しては一八七二年に於て露語を以てすべて官立學校の必修語となせし外、此國は極めて自由なることを得て帝が治世の間、盛に進歩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

案策したり。

露國對芬蘭土政策の變移

此の如くに露國は、能くアレクサンドル一世の宣言を保維し、芬蘭土の憲法を尊重して十九世紀の終に至れりと雖、一八九〇年の頃ひよりして其政界には芬蘭土に關する一種の反動思想漸くにして其勢力を得るに至りたり。以爲、露國の獨裁政下に於てかくの如き特別の政治組織を許し、其宗教及國語を異にせしむるは、國基を鞏固にする所以にあらずと。さればアレクサンドル二世の一八八二年一月二十四日を以て芬蘭土の國會を召集するや、勅語を下して其憲法の尊嚴を奉仰すべきを公言したりしにも拘らず、此後、十年ばかりにして露國の新聞紙は皆次第に芬蘭土獨立の不都合を論難するに至り、政府も亦多年の政策を變更して之と協力して此國の露西亞化に盡瘁するに至れり。

徵兵令の發布と芬蘭土人民の不平

此新き政略は芬蘭土の神聖なる憲法を無視し、各般の方面に於て此國を露西亞化せんとせしが、就中現時、芬蘭土人の最も憤怨しつゝあるものを徵兵令の發布となす。今其由來を究むるに、芬蘭土の人民に兵役の義務を課するとは已にアレクサンドル二世の時代にあり。帝は一八七八年十二月十八日を以て徵兵令を此地に公布し、新に步兵九聯隊(其人員四八三二人)外に龍騎兵一聯隊を置くことゝし、一八八一年一月一日を以て之を實行したり。然るに露國政府は之を以て滿足せずして現ニコラス帝に至り、更に特別の委員を設けて之を審査せしめ、該委員は即一八九九年を以て芬蘭土人の兵役義務を擴張し、彼等は獨り自國芬蘭土に於てのみならで、露西亞の本領に於ても國防の事に從はざるべからざるを決し、其案をツァールに上りしにツァールの之を芬蘭土國會に提出して其賛同を求めしや、國會は之を否決せしかば、ボブリコフ總督は憲法を無視し、帝の後援を楯として擅に自ら此を公布したり。これ芬蘭土人の耐ゆる所にあらざるなり。是に於て彼等は五十萬人の連署を以て請願書を皇帝に提出せしに、總督は又之を暴制し、命じて軍隊を解散せり。此法律の發布せられしは實に一九〇一年七月十二日にありて其中に云へり。曰く、從來の芬蘭土陸軍を解散してこゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に狙撃一聯隊と、龍騎兵一聯隊とをおき、すべて新募の芬蘭土兵は之を芬蘭土及聖彼得堡の徵兵區所屬の聯隊に入籍せしむべし。勤務年限は現役三年にして豫備役十五年たるべしと。これ露國が其本部各地に布く所の徵兵令と大差なきものなり。思ふに芬蘭土の地たる、其宗教に於て、言語に於て、其習慣、風俗に於て全く露人と異れり。這般の法令の假令、露西亞の畫一を期せんが爲に、其政府の早晚採らざるべからざる手段なりしとは云ふと雖、これ恰も英國政府の印度人をアングロ、サクソンの聯隊に採用すると同一般にして、土人の之に對して反抗を試むるは强ちに露國政府を怨望するの故のみとなすべからずして、歷史、人種を異にする人民の間に交るの其甚しく好む所にあらざればなるべし。此法令は昨年よりして實行せられたるが、既に已に一昨年春の頃にありても芬蘭土人の之に反抗すると甚しく、其四月十七日にはヘルシングフォルスの市中のみにても八六〇人の徵令適齡者中、召集に應じて出て行きしは僅に五十六人に止まりて、之が爲めに各地方の兵事係は職に耐へずとして辭し、中央徵兵委員は新に不足の人員を補充せざるを得ざるに至りたり。ボブリコフ總督は此反抗に遭ひ、即哥薩克兵をして不穩の徒を暴壓せしめたるも、此兵役忌避は昨年に於ても亦行はれ、如何に武力を以てすると雖、之を平定すること頗る困難なるが如し。昨秋十一月、ツアールのダルムスタットに赴くや、露國官憲の忌諱に觸れて本國より追放せられたる芬蘭土人士はマンネルハイム伯等三人を其總代として月の六日、帝に謁見し、愁訴する所あらしめんとしたりしが、帝は之を謝絶したりしかば、彼等はプレヴェ內相が芬蘭土事務大臣として頻に其土人を壓制するの實狀を訴へたる一片の請願書を宮相の許に差出して歸れりとなり。されど、現帝の周圍は今や守舊頑固にして自由主義を見ること恰も蛇蝎の如き人士を以て滿されつゝあり。優柔なる皇帝を動かして耳を多數人民の哀願に傾けしむるの難きは言ふを須ゐず。されば一月十六日、聖彼得堡發の報によれば、無署名の檄文の芬蘭土人士の愛國心に訴へて極力、新徵兵令の實行を妨害せんことを勸むるもの所在に飛行しつゝあり。爲に此地に於ける露西亞の行政廳は之を鎮壓するの準備に忙しく、總督ボブリコフ將軍の如きは頻りに州內の各縣知事に之に關する命令を逹しつゝありと云へり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

芬蘭土最近の狀態

近着横字新聞雜誌によりて芬蘭土最近の狀態を見るに、露西亞政府は前に掲げし徴兵の忌避者を處すること頗る峻嚴にして寸毫も假借せざるが如く、一月八日、聖彼得堡發の報によればツアールは左の如き勅令をボブリコフ總督に下せりとなり。曰、昨年芬蘭土第三狙撃大隊に於て兵役の義務を採るを拒みたりし芬蘭土人はすべて之を其現に在職しつゝある官公の職務より免じ、又五ヶ年間、外國旅行免狀を之に交付することを停止すべし。何者か特に罰金の免除を請ひ、若くは團體にても個人にても國庫よりして輔助金を求めんとする時は彼等が新兵の召募に如何ほどの妨害を加へたりしかを見るべく、又止むを得ざる事故あるに非ずして妄に兵役に服せざりし高等諸學校の學生は之を一ヶ年以内の追放に處すべし。すべて召集に際して直に政府の命を奉じたりし芬蘭土人は之を兵役より免除し、其位地を充たすに之を忌避せしものを以てするを得べしと。なほヘルシングフォルスの元老院にも亦勅諭下りたるが、こは公にせられざるも、其中には芬蘭土に駐屯すべき露西亞の憲兵は芬蘭土の國庫金二萬六千三百磅を以て之を維持すべく、而してこれ等の憲兵は苟も政治上に關して政府反抗の嫌疑あるものは自由に其家宅を捜索し、之を捕縛し、又は一切乘船の通劵を監理すること露西亞本領内の憲兵と權限に於て異ることなかるべしと規定せられつゝありと云ふ。之に伴ふて芬蘭土の自治權も亦日を追ふて益々せばめられつゝあり。昨年四月二日(十五日)の勅令にては此州に於けるすべての町村の撰擧監督權を知事に附し、知事は之によりて撰擧に干渉することを得たるに、續て同十月二十八日(十一月十日)に於てはすべて芬蘭土にある、同地市民としての特權を得ざる露西亞臣民にも、一切の財産を此地に於て所有し、芬蘭土の土人と同一條件の下に行動し得ることを許す旨の勅諭さへ發布せられたり。學政の方面に於ても露西亞語の教授は嚴重に行はれつゝあり。昨年八月十三日(二十六日)に於ては勅して芬蘭土總督に命ずるに次の事項を以てしたり。曰、郡視學若し地方學校に於て露語教授の粗畧に行はれつゝあるを發見せし時は容赦なく、此等の學校より國庫輔助金の特典を褫奪すべしと。出版物の検閲も近時に至て益々其嚴を加へたり。オレアボルグ發行のカイク新聞は今日の靜平時に國會召集を求むるの論議をなしたるは宜

からずとて去る一月中旬警戒を加へられ、井ボルゴ、ネヘーテル新聞は先きに芬蘭土を放逐されしもとのセルドボル市長ハロンブラドに付て不實の報を江湖に廣めたる廉を以て注意せられ、コトカ發行のコトカン、サノマートは勞働者に同情し、公安を害するが如きの說をなしたりとて十四日間其發行を停止せられ、ニコライスタドの瑞典文新聞ワサ、ポステンも亦三ヶ月間其發行を停止せられたり。而して芬蘭土の檢閲部本局は地方檢閲官の出版物を處分するの寛大なるを發見し、深く之に向て注意を加へつゝありと云へり。此の如き言論の束縛や、政治運動の嚴制によりて多くの志士は種々の口實の下に露西亞政府の爲めに其故國を追放する所となり、諸外國に亡命するもの年を逐ふて其數を加ふるに至りたり。而して此等の亡命客の殊に其一身をスカンヂナビヤ諸國に寄するもの最多し。

詩人ビオルンソンの排露西亞運動とスカンヂナビヤ國民の芬蘭土に對する同情

スカンヂナビイヤ半島と露西亞との芬蘭土を爭奪せるは既に數百年の歷史を有せり。思ふにスカンヂナビイヤ諸國、今日の勢威甚しく振へりとは云ふを能はざれども、其露國に對する歷史的感情は必ずや深く彼が上下の記憶に印せられて其往時の盛大の忘れがたきものあらむ。されば之等の諸國の芬蘭土の窮民に對するも亦從て其同情の切なるありて芬蘭土の亡命者は多く期せずして此地に集まれり。說をなすもの或は之を以て亡命客の貧なる者の言語の不通なる、而も亦口糊の途を求むるの頗る困難なる西歐諸國に赴かんよりも、此スカンヂナビイヤ諸國に赴くの便なるを撰べるなりとなせり。一月四日のフインランドスカヤ、ガゼータには芬蘭土の亡命客が那威のクリスチアニアを以て反露運動の根據地となす所以の、詩人ビオルンソンの首として彼等を輔助誘掖するに因る旨を記したりと云へり。何れにしても瑞典、那威の諸國が芬蘭土に同情するの歷史的に遠く由來する所あるを了知すべく、さればボブリコフ總督の機關紙の如きは瑞典、那威諸國の芬蘭土に向て同情を表するを抗擊し、頻に怨言を連ねつゝあり。以て如何に露國が芬蘭土問題に關してスカンヂナビイヤ諸國の互に其感情を同うし、兩王國の近接し來るを嫉視しつゝあるかを見るべし。恐らくは現

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

露國政府の有司にして、瑞典、那威はもとより、丁抹の如きさへも之を包含し、スカンヂナビイヤ列國が露國の對芬蘭士政策に付て懷きつゝある感情の、西歐に於けるすべての自由國、殊に露國の同盟國たる佛國にありても、亦其感を同じうする所以を知らざるはなかるべく、此問題に付て佛國第一流の多數人士が此の如くにスカンヂナビイヤ人、英人及獨逸人と同樣の意見を抱きつゝあるの事實は露人の決して忘るべからざる所たるべし。詩人ビオルンステルネ、ビオルンソンが熱心なる排露主義の人たるは隱れもなき事實なり。彼は曾て「芬蘭士」と題する一片の詩をものして露國の暴虐を罵り、ツアールの尊嚴に向てすら大膽にも誹譏の言を加へたり。彼又去る一月、巴里發行のリユーロペアン雜誌に露國討滅論を掲げ、其論ずる所、頗る時の言論界の注意を牽きたり。其言に曰く、露國は歐亞兩大洲の最危險なる分子なり。之をして其兇暴を逞しうせざらしめんが爲には、列國に於て金の供給を斷つに如くはなし。一八九九年來、露國が海陸軍の軍備、及鐵道布設等の爲に列國より借受したる金額は無慮七億弗に上り、而も其大部分は自由、平等、友愛を標榜する佛國より流出されたり。若し佛國の資金にしてなかつせば、露國の諸種の建設物は早く既に滅亡するを免れざりしならんとは、これ米國及佛國に於て識者の認むる所なり。如何に有力なる中央政府と雖、かくの如き雜然たる異種族の多くを統治すると能はざるべく、又かくの如き尨大なる領土の擴張を敢行すると全然不可能なるべければなり。革命によるにあらず、外患によるにあらず、外國資金の杜絕は直に露國をして自滅を遂げしめむのみ。この輔助あればこそ不正と貧困とも新に其生氣を得て終には吾人自身にまでも危險を感ぜしむる迄には至れるなれ。若し今の時に當り、露國にして戰を外國と搆ふるが如きとあらんか、其結果の成功たると不成功たるとに關らず、一事は之を必すべし。曰く、外債利子の仕拂は之よりして全く止まらんこと。是なり。云々と、ビオルンソンの排露運動は獨り其操觚事業に於てするのみならず、彼は直接に亡命芬蘭士人を保護し自らスカンヂナビヤ運動の皷吹者たるを以て居れり。故に彼は其文筆によりて得る所を此事業の爲に投ずるを吝まず、孜々として之が爲に發奮努力しつゝあり、又世の彼の徒に同情を寄するもの漸くにして其數を加ふるに至りぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日露戰爭と露國の西侵

露國の那威北方の諸港灣に其目を注ぎ、北海方面に己の地步を占めんとしつゝあるは今に始まりたるとにあらず。是より先き彼屢々バルカン半島より地中海に出てんと欲して終に之を遂ぐると能はず、即止むなく西比利亞横斷鐵道の大工事を起し、浦鹽須德を建て、續てダリニー、旅順に盛大なる市街軍港を造營したり。我國の之を忍ぶと既にこゝに歳あり。彼が饕食慾の飽くなき、滿洲を掩有し、更に朝鮮を窺覦するに及てや、こゝに自衛の爲に其横暴を制せざるを得ざるに迫りぬ。今次の日露戰爭は果して奈何の結局に了るべきや今に於てもとより之を豫測する能はずと雖、假に彼にして浦鹽、旅順を失ひ、我陸兵の長驅して哈爾賓を陷れ、彼、遂に屈して和を我に求むるに至るとせば、而して戰後の我外交にして能くその功を奏し、又彼をして極東に於て非望を逐ぐると能はざるに至らしむとせば、彼は果して如何にしてか、自國の善後を策すとなすべき。極東の施策一度頓坐してバルカンの併呑、亦未だ俄に之を敢行すべきの望なし。此際に於て彼に不凍の港灣を供給すべきは獨り北海の方面あるのみにあらずや。是に於てかスカンヂナビイヤ諸國の人士は戰敗の曉に於て露國の必や此西隣大半島の經營に著手し、之が併呑を畫するに至るなるべきを恐れつゝあり。思ふに此憂患は決して杞人の憂にあらざるべし。唯此際に於て吾人の疑惧する所のものは我國戰後の外交の果して能く此畏るべき敵國を屈服せしめて此の如き赫々の功業を揚げ得べきやにあり。

文學上の櫻花及櫻草（上）

畔柳都太郎　口述

春風駘蕩と始めまするど、二の句はどうしても櫻花爛熳と續けなければ折合はないやうな氣が仕ますから、此頃の時候では今回は是非此事を申上げなければなりますまい、實は前回と今回との間に入れなければならぬ者があるのですが、口述より時候の進みが速い者ですから飛ばせる必要が出來て來ましたのです。所て前以て一つお斷りをしなければならぬとがあります、每號此雜誌に期節々々の花のとをとの御注文て御座いましたし、私も目今の精神狀態ではより多く此問題に興味を感じておりますから、喜んで口述をする心算てありますのみならず、それに今のやうな速度てお話しをするのならば今後三年や四年て種子の盡きる恐れのない程の原稿は蒐集してありますが、未だ整理の充分に出來ておらない雜然たる原稿中より十頁未滿て一問題を兎にも角にも纏めて仕まうとするは苦痛は、私のや

うに一週三十時程も自己の職務に費やす境遇にあつては實に一通りてありませんので、おまけに吾々の大晦日と盂蘭盆と重なつたやうなものが近く目睫の間に迫つて來ておりますものですから、來月はお話しが出來るにしても來々月は或は暇がないかも知れませぬ、豫めお承知を願つておきます、それに私自身の我儘を申上げますと、至急に花觀丈を離して取纏めまする必要は毫も認めませんので、凡そ十二個程の問題を渾然たる一個の球に見立てゝおいて、諸面より研究して見ました上て、今朧げに夢想して居る或理論を數十年の後に纏めべき堅實なる――イヤ、自己に堅實と信じまする――材料を案排するのが私の希望として居る所て御座います、言ふ迄もなく私の力て出來ないかも知れませぬ、或は出來るにしても其以前に死ぬかも知れませぬ、しかしそんなことは如何てもよろしいので、自分に興味を感じて自分のモメンタリイに生きておる仕事だと思ふものを自分で仕て居れば、それ丈て自分に取つては無上の幸福です、天若し余をして彭祖の壽あらしめなば――笑つてはいけませんよ――私はれ、始めの數百年は讀書に役し、次の數百年は顯微鏡、望遠鏡、其他の道具を脊にの載せて印度を基點に中央亞細亞より東西に大旅行をして、そして後はお寺の中て瞑想に潰して見たい、つまり科學を通じて空想を逞くして見たいのです、アツハヽヽヽ、此邊が文士

質といふものでしょうか、戰爭最中に飛んだ呑氣な人聞きの惡いことを申しまして失禮て御座いました。

植物學の方面で、薔薇科といふものゝうちにサクラ屬(プルヌス)といふて杏とか李とか郁李とか梅とか桃とか皆此中に含めるものがありますが、櫻も矢張其うちに入れてあります、サクラ(Prunus Pseudo-Cerasus)は西暦千八百八十三年マキシモキッツの調査に依って三變種に分たれまして邦語では曰くヤマザクラ曰くサトザクラ曰くケサトザクラと稱するやうになりました、尤もケサトザクラは花梗に毛のある外は大概サトザクラと異ならないから、サトザクラの一小別と見て其うちに含めて仕舞ひ、花の小さいので區別し得るからといふて近頃松村博士の學名を與へられましたる、ソメヰヨシノ(Prunus Yedoensis)を入れて都合三つになるわけです、此うちサトザクラといふのは大きな花のあるサクラとあらゆる八重ザクラの通稱で、類が多くて櫻品六十九種のうち大半は之れに屬するそうでありまして、栽培品のみで新葉通常紅くなくて其一重の者はサクラ中の逸品だといふ評です、實物は英國公使館前より半藏門前に行く路傍に十數株あるそうです、ソメヰヨシノの方は墨堤のサクラの大多數がこれに屬するので、ヤマザクラは草の單瓣、新葉の帶紅で區別して內地の山野に自生して居ります、これは武藏では小金井の大多數のみならず、大和の吉野山、山城の嵐山が有名なる勝地でありまして、和歌の昔に關係が深いと認めますから、尚ほ後に牧野氏の研究を基礎とし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て聊か詳述しやうと思ひますが、夫れより以前に此三樹種の立木に關する歸山氏の評言は文學上に多少參考に供すべき所あると信じますが故に茲に借りておくことに致します、サトザクラは花の八重なるも一重なるも枝ぶり太くて何とやら不恰好に見えるが、ソメヰヨシノは枝ぶり纖細で恰好よく、前のものは仁王の如く後のものは辨才天の如く、從つて花は前者に壯嚴で後者に細美であるのは其宜しきを得たものである、ヤマザクラは實に此二ッの性質の中間にあるものではあるが、總ての點に於て寧ろサトザクラに近いどうでしようか、昔の大宮人と後の江戸作者との間に無意識にても其美感に何等かの差違があつたといふ證據がありましようか、所詮所謂ターピッド、ミーヂアムたる肉眼は夫れ程迄に勢力を文學上に逞うしないものでしようか。

ヤマザクラは落葉喬木でありまして幹膚は年を經まする と平坦でありませぬ、枝條が茂り外皮は横に裂けます、通常は滑澤で帶紫栗殼色です、葉は散生して葉柄を有つて居りまして形狀が長楕圓形或は倒卵形狀長楕圓形或は長楕圓狀被針形で、葉緣には通常重鋸齒を列して居ります、葉裏は多少帶白色です、花は通常短縮せる總狀をなして枝上に側生して新葉の萠えでるのと時期を同じくします、中軸が短かくて上に二つから五つまでの花があつて各花の小梗は長いです、花の大きさは直徑二、三分乃至三サンチメートル、花瓣五片平開して楕圓形の凹頭で色は所謂櫻花色若しくは殆んど白色、それで洵に散落し易いのです、ヤマザクラは日本、樺太、滿州、朝鮮、淸國の北部中部に自生しておりますから亞細亞東部廣く一帶の地の一天產でありますが、日本に於きましては北は北海道より南は四國九州に至る迄普ねく諸方の山地にありまして最も能く成長したときには其高さ八丈もありまして幹の徑三尺に及ぶものがありますために、上述の諸產地のうちに於いて其繁榮の極度に達して居る所が即ち日本であります、そこで春風駘蕩櫻花爛熳と來ますると、遠く望めば雲の如くまた霞の如く、花の優雅な容の鮮艶なところが至極大和民族のお氣に召して敷島のやまとごゝろを人問はゞの例の歌を三尺の童子も口にするやうになつたのであります、でありまするからイングリッシュ、フラワー、ガーヅンの著者が其七百四十七頁の所に「日本櫻、これぞ日本の一年のエポックをマークする花なれ」と評したわけになるのです、此點から考へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て見ますと日本固有の思想と此花との因緣關係を一の特趣の問題としまして彼の千八百七十三年に出たシュライデンの「デー、ローゼ、ゲシヒテ、ウンド、ジンボーリック」に匹敵すべき研究が現はれなければならない筈だと思ふのです、夫れ迄には達しませんでも文學上の問題としては私は東西に亘つて其國々の代表花を比較するのを重要な一研究問題にして居りますから、後年に至つて讀者諸君の滿足を得るお話しは出來るやうになるだらうと自信して居ます。

「櫻諸國皆有之和州最多吉野滿山映花如雲如雪然多此單白山櫻也今京師名花多皆變於子種而或紅或白褌單瓣重瓣數種皆艷美爲百花之長不斥名唯稱花者櫻也」即ち櫻は日本百花の王たるもので、花と言へば櫻のことであると信じられたのであります、こうなつて來ますれば漢の牡丹、佛の百合、英の薔薇など丶共にどうしても特別に見なければならなくなるのでありまして、貫之が「櫻よりまさる花なき花なればあたし草木は物ならなくに」の意味も充分に理解されます。

櫻を神と崇めて此樹を澤山に植え木花開耶姫を祭つたる神社は櫻史新編に擧げてある通りに處々にありますので、例せば大和國宇陀郡佐倉村の櫻實神社、伊勢國度會郡の朝熊神社、多氣郡の宇爾神社、朝明郡の櫻神社、伊賀國伊賀郡の田守神社、近江國伊香郡の櫻方神社、櫻楠神社、駿河國富士の淺間神社、佐渡の后神社、武藏の櫻田神社、甲斐の金櫻神社、皆それてあります木花(コノハナ)または木華に就きましては古事記に「大山津見神之女、神阿多都比賣亦謂木花之佐久夜毘賣(サクヤヒメ)」日本書記に「亦名木花開耶姫云云如木華之移落(ウツロヒナシ)一云如木華之俄遷(コノハナノウツロヒナシ)當衰去矣云云木華開耶姫甚以慙恨(ウラミマツリ)云云」とありまする「この花は梅の花をいふなるべしと云は深く古を不考の誤也」で、「木花は櫻花也」の斷案の方が確かによろしいのでありましよう。

允恭天皇が井傍の櫻を見て衣通姫に寄せた歌といふのが日本書記にこう出ております、「明旦天皇見井傍櫻華而歌之日浮那具波辭、佐區羅能梅涅、許等梅涅磨、波椰區波梅涅孺、和我梅豆留古羅」万葉集には佐具良とも佐久良とも作樂とも書いてありまして卷之十七に池主が家持に答る歌に「夜麻可比爾、佐家流佐久良乎、多太比等米、伎美爾彌西底婆、奈爾乎可於母波牟」これは家持が病氣をして居つて「雖有乘興之感不耐策杖之勞」と書いてよこした事を知らなければなりませぬ、卷之十八に池主の「櫻花、今曾盛等、雖人云、我佐夫之毛、伎美止之不在者」に答へて家持が「和我勢故我、布流伎可吉都能、佐具良波奈、伊麻太敷布實利、比等目見爾許禰」といふて居り、卷之二十に家持が獨惜龍田山櫻花歌と題して「多都多夜麻、見都

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

都古要許之、佐久良波奈、知利加須疑奈牟、和我可敵流刀爾」としてあり、同じく巻十三に「作業花、佐可遙越寶」とあります、それから夜麻左久良の方は同じく巻十七に池主へおくる家持の歌「安之比奇能、夜麻佐久良婆奈、比等目太爾、伎美等之見底婆、安禮古非米夜母」とあります、以上の歌は別に取り出でてお話しする程の意味を櫻としては持つてゐるやうに思ひませぬ、尚意味のある櫻の歌を後に擧げやうと考へまするが、それより以前に古風な分類即ち八重櫻とか小櫻とか奈良都の八重櫻とか鎌倉櫻とか垂(シダル)櫻とか南殿櫻とか黄(アサギ)櫻とか緋(クレナヰ)櫻とか素(シロ)櫻とか彼岸櫻とか雲井櫻墨染櫻千本櫻六月櫻犬櫻樺櫻及其他の苟くも櫻といふ名稱のあるものに對する吾等の祖先の美觀を種々な方面で研究して見るのは餘程面白いことであるといふことを一言しておきたい、玆には其例を示す爲めに二三の物語ものを擧げて見ましよう、例へば源氏物語の乙女「とくひらけたるさくらの色もいとおもしろければ」若菜「ゆへあるたそれ時の空に花はこぞのふる雪思ひいでられてえだもたはむ計りさきみだれたりゆるゝかにうちふく風はえならずにほひたちみすのうちのかほりもふきあはせて」椎本「はる〳〵と霞わたれる空にちるさくらあれは今ひらけそむるなと色々みわたさるゝに」枕草紙には「おもしろくさきたるさくらをながくをりておほきなる花がめにさしたるこそおかしけれ」「かうらんのもとにあをきかめの大なるすゑてさくらのいみじくおもしろきえだの五尺ばかりなるをいとおほくさしたればかうらんのもとまでこぼれさきたるに」「木の花は櫻の花びらおほきに葉いろこきが枝ほそくてさきたる」大鏡には「此花山院は風流者にこそおはしましけれ云云又こたちつくらせ給ひしおりはさくらの花はいふなるにえだざしもこは〴〵しくてもとのやうなとにくしこずゑばかりを見るなんおかしきとて中門より外にうゑさせ給へる」狹衣には「あさみどりなる空のけしきいといみじうかすみわたりたるにこぼれてにほふ御まへの櫻つれよりもおもしろう見わたさるゝに」八重櫻につきて徒然には「八重櫻はことやうの物なりいとこちたくねぢけたりうへずともありなん」夫れから山櫻につきて歌林四季物語には「くらまやまひえの山さくらのあとにくものかゝりたるもこゝろあるへくみえたり」撰集抄には「長承の末の年云云吉野山に上りて三年なおくり侍りきある年の三月のころ庵の前に山さくらのさきみだれておもしろくながめわたり侍るに」廻國雜記には「白河二所の關にいたりければいく木ともなく山櫻さきみて心も詞もおよび侍らす」どうです、朧げに默會するところがあるでしよう。

櫻の歌夫れ幾百萬首ぞと言ひたくなる程な好題目になつて居るのですから、其重なるものだけをも取つて、時間と空間とにかけて美觀の範圍を見るのが面白いでしようが、玆には根蔕たる今古集だけを以て如何なるところに着目してあるかを見ましようなれば、例の其散り易いところに眼がつく、隨つて玆に色々の道德も

附着して來る筈です「うつせみの世にもにたるか花さくらさくと見しまにかつちりにけり、讀人不知」寧ろ散るがよからうといふ方の倫理觀になれば日本の武士の倫理觀とも密接な關係が出て來るものもあります、何にも世の中には久しいものはないから散るがよからうといふのは伊勢物語有常歌「ちればこそいとゞ櫻はめでたけれうき世に何か久しかるべき」があります、散る櫻は人が惜しむ、隨つて浦山敷もなる「はるさめのふるはなみたか櫻はなちるをおしまぬ人しなければ、大伴くろぬし」「いさ櫻我もちりなんひとさかりありなは人にうきめ見えなん、そうく法し」盛んに散るから次の句も出てくる「さくらはなちりぬる風のなこりには水なきそらに波ぞ立ける、つらゆき」そうすると散らす風が恨めしくある「花ちらす風のやどりは誰かしる我になしへよゆきてうらみん、そせい法し」同じ風でも香を傳へるならばよくなる「花のいろはかすみにこめてみせずとも香をたにぬすめ春のやま風、よしみねのむねさた」どうも散るといふことは櫻に離せない觀念と見へます、貫之か「ことしより春しりそむるさくら花ちるといふことはならはさらなん」長閑な春に早く散る櫻、「久かたのひかりのとけき春の日にしつこゝろなく花のちるらん、紀のとものり」此二者の配合は私は西洋の花を調査しておりましたうちに、同樣の配合があるものを見付けて非常に面白く感じたのでした、偖是れから更に美しいところが美人に關係することや、白雲と見られたり雪と見られたり、配合物の山、水、月、夜、雨、霞、曉、其他いろ／＼のことを古今以後明治迄のうちから幾分か申上げる順序ですが餘り長くなりそうに思ひますから縮めて次に進みましよう。

櫻に就きては決して散ることばかりを歌ふたのでなくて、無論其賑やかに盛んに所謂櫻花爛熳たる風情を寫し出したのは澤山あるです、謳歌を別に擧げる迄もないことです、此事は俳諧でも同樣です、一體俳諧で好題目にしておるものは矢張和歌でも好題目にして居る傾向があるやうに思ひます、尤も符節を合するのでは無論ない、が和歌で句の多い櫻でも梅でも矢張俳諧で句が多いです、然し和歌で歌はないでも俳諧で歌ひよく從つて重きをおかるゝものがあるのは忘れてはいけない、例せば椿などはそうらしく思はれるです、全體「中十日梅に別れて初櫻、曉臺」「吹きみたす桃の中より初櫻、桃青」などゝ云ふて居るうちに「油斷して花になりける櫻哉、櫻貝」となる、而かも夫れが「春中の花をあつめて櫻かな、升六」であるから「一七つより花見に起る女中かな、陽和」もあれば「一僕とぼく

〱ありく花見哉、季吟」もあればまた「隱れ住んで花に眞田か謠かな、蕪村」もある、從つて「花盛六波羅禿見ぬ日なき、蕪村」「花に來て都は暮の盛かな、其角」に遊び過ぎて「据風呂に後夜きく花の戻哉、蕪村」もあれば「月のおかき夜はたのみある櫻哉、几董」と思ふて遂に「春の夜は櫻に明けて仕舞ひけり、桃青」で「花に埋れて夢より直に死ん哉、越人」の感も生ずるであらう、「咲くからに見るからに花の散るからに、鬼貫」或るものは「目さむるや花吹おろす大井川、樗良」ともなり或るものは「櫻散る苗代水や星月夜、蕪村」「木樵より外に人なし遲櫻、多代女」ともある、「嚔にも散りてめでたし山櫻、蕪村」「花ちりて又しつかなり園城寺、鬼貫」落ち行くさきは「花ちりて又しつかなり園城寺、鬼貫」配合物を見ての美觀の論評は前回と同じく私の今日お話し申さうと豫期したことでありませぬ。

（未　完）





露國の暗潮（文藝上の觀測）

「國民新聞」二月廿九日

何れの邦國を問はず國是の進捗に伴ふ思想の發展は、常に其步調を一にし、生活要求の整理たるべき國家政治の活動と、心靈向上の意識たる文藝哲學とは、必ずや其の歸趣を同うして、此二者の間、自ら通ずるの道あるに似たりと雖も、獨り露國のみは此例に反す。

殊更に說くまでもなく露國の政治は專制中の專制なり、而して其國民思想、少くとも之れが文字となつて表はれし思想は民主主義なり。露國の一擧手一投足は世界の平和と混亂とに直接影響を與ふるほどに兎かく大なれども、其の內政にも、將た外交にも毫も國民の感情と意志との宿るに非ず。彼等の聲は、彼等の眞の叫は、露國皇帝の後に起るに非ずして寧ろ前面より襲來するが如し。露國民の眞面目は、之れを政治の大氣中に見出す能はずして、却つて文藝哲學の分子中に發見するを得べきなり。

露國政府が極力出版の自由を防止せんとするも是に在り、思想界の力ある者の筆を制せんとするも是に存す。曾つて電光の如く、我が思想界に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

操きしゴルキイは、今、遂く退去を命ぜられて、又た其の發音を口にする能はざるの境に在りと雖も、彼を中心として集りし『ポシアック』の無形團體は倘ほ言はんと欲するところを言ひ、行はんと欲するところを行つて、皇帝の强き力を以てして之を抑壓する能はずと云ふにあらずや。『ポシアック』は十數年の久しき間、森と林とに包まれ、草野に埋もれたりしを以て、一度途を發見するや否な、市街に向つて突擊を試みんとし、而かも偶ま一人の教導者を得て、其教導者が手にしたる一管の筆は、時に焼かれなんとするものあれども、嘗つて叫びたる命令が倘ほ中空に止まるものあるが故に、彼等は其叫を耳にしつゝも、森を出て、野を横ぎり緩かに注ぐ北方露西亞の川に添ふて漸次市街を襲はなんとす。腹背に敵を受けて、絕東の怒濤は、半以上其力を失はしめたる露國皇帝の政府、彼は抑も如何にして此の國内の敵を防阻せんとするか。襲來者の眼中固より露西亞帝國あるなく、其國力を傾くる對外の戰爭もあるなし。彼等は彼等自身の帝國を設立せんと企てつゝあるもの也。

其人は在らずとも、其の感化普くして、近く公開せられたる彼の戲曲「ルツカー」に見よ。田園荒れて夜深く、老若爐を擁するの時、一人あり立つて問ふて曰く、「汝等は神を信ずるか、神は存在するか。」と、一座答ふる者なし。既にして又た曰く、「若し唯一の神ありとも、汝等にして信ぜずんば、之れ無きに同じ」と、相共に顧みて歎乎す。古代宗教を永續して殆ど帝王神權の域に在る露國の中心に在つて、此の如き演劇の演ぜらるるは實に奇しき現象にあらずや。之を觀たるものは、或は久しからずして逝くべきも、この思想を以て養はるゝ次代の國民は、竟に如何なる方面に向つて其の發展を期すべきか。

國家の政策と國民の意思感情とが一致せざる限り其の邦は活動する能はず。無限の進步と統一とが露國傳來の國是なり生命なりと雖も、今にして此の一團の理想あり、活力あり。彼右すれば、之れ左して、時を經るに從つて益々相離れ、相隔り、竟に其歸着するところを知らざらんとす。綜合國家の威力を以て、武力を以て、强て之れを壓抑するとも、露國は廣くして人口二億萬、其の爆發の日は必しも絕無なりと斷言する能はざるなり。

東に南に貪食飽くなかりし露國は、今にして抜く能はざる障害に遭遇せり。彼の政策も是に改められざるべからず、彼の國家組織も惟ふに革められざるべからず。彼は我が帝國の大なる力に抗するの準備をなすと共に、彼自らの國民の大部分——思想を異にし、感情を異にし、目的を異にする國民を操縱するの方策をも講ぜざるべからず。獨逸帝國の確立が或意味に於て、ワグネルの藝術の統一に在りしを知らば、一國文藝の消長、思想の發展の力は竟に拒む能はざるなり。政治と藝術は、固と其の出發點を等くして、而して其行路をも同じうせざるべからず、然るを一旦相反撥するものあらんか、其の依つて隔離するところ、相攻め相擊つのところは、遂に測る可らざるに至らん。今の如くにして露國の在らん限り、彼は先づ思想界に於て國家の破裂、若くは革命を來すべきなり。

日本に對する英米の同情

「讀賣新聞」三月十三日　島村抱月氏

風騷ぎ雲飛く故國の空を眺め候ては、我等飄遊の身も、流石に安からぬ夜半多く候、此書面編輯机上に着し候頃は、二月も末、定めて和戰の事すでに定まりての後と存候へど、他日の御參考とも相成るべしと存じ小生が見聞の上より歸納したる、當國人目下の日露觀といふもの、一二申上ぐべく候、

固より新聞、雜誌、個人、團体、百人百樣の見解は有之べきも、總じて

彼等が中心に滿幅の好意と同情とを日本に寄せ居り候事は、申すまでもなく、殊に新聞紙の如きは、「タイムス」を先鋒として「デーリー、テレグラフ」「スタンダード」「モーニング、ポスト」「デーリー、ニュース」など、保守黨の新聞はいふに及ばず、反對黨のものといへども、殆んど凡て、及ばん限りの力を日本の辯護に盡し呉れ候こと、當國にある我等に取りては如何にも嬉しく、時としては覺えず讀みながら、紙上に感激の涙にじますことも有之候、好辭を喜ぶの心と笑ひ給ふな、感激相照の刹那は人生これに過ぐるの眞實あるべしともおぼえず候、

事實、日露が砲火の上に相戰ふの前、歐洲に於ては、大陸の諸新聞紙を通じたる露國の外交政策に對峙して、英米の新聞紙、殊に「タイムス」などの有力なるものが、盛に日本の爲に奮戰しつゝあるの狀、そゞろに人をして賴みある友誼に感泣せしめ候、

當初露國が中面東亞に對して威嚇と壓迫とを其の政策とせしと共に、他面、歐洲に對しては、己れ平和の味方と號して、日本をあらゆる惡稱の下に歐洲、殊に英米人衆の同感より孤立せしめんとせしこと、隱れも無き事實に候はずや、而して此の外交策の根據となれる觀念は下の如く候べし、第一、人道の觀念よりして、平和を貴び、戰亂、殺傷、腕力を厭惡するの情が深く其の文明に根ざし居ることは、意想の外なること、即ち是れを利用して、日本を好戰の民、血を見て非難するの民、精神的文明の敵となるべき國民と強いんとする也、第二、日本は支那朝鮮を連れて、所謂黄色同盟の下に白人と戰はんとする者也と強い、以て人種的反感を煽動する也、第三、宗教的偏頗心に訴へて、日露の爭は直ちに基督教文明と非基督教文明との爭也と強辯する也、第四、英國が近く南亞戰爭の爲に懲りし手痛は、容易に癒ゆべくもあらず、所謂平和を樂むの念は、目下の英國に於て最も旺盛なりとす、則ち其の再び戰渦中に卷き入られんを恐るゝの情は、自然に強く當國人の心底に潜まざるを得ず、敵すなはち此の弱點を利用して、支那の態度、朝鮮の態度みな以て日露の戰を日英對露佛の戰に轉ずるの恐あることを說き、英國をして日英同盟を悔ゆるの地に立たしめんとする也、

凡そ以上の諸理由に對して、日本が幸に其中傷する所となるを免れし所以のものは、主として英米の新聞紙が、一々辯駁爭論の勞を吝まずして民衆を惑はしめざりしに由るものと存じ候、此の點より申さば、此等の新聞紙は我が國光榮の爲に奮鬪せし勇者也、國民は事局定まるの後に於いて必ず意氣相酬ゆるの道を講ぜざるべからずと存じ候、

日本政府の施爲の跡にも、右の如き露の外交策に陷いれられざらんと力めたるの影は歷々たりと申すべし、內面の事は小生等の與り知る所に非ず、少なくとも當國の人々が、惡を見ずして善を見んとするの心より、日本の施爲を解釋する所によれば、日本が冷靜の態度を以て、交涉遷延の間、殆んど日本に一利無くして、露國に百利あるの二三ヶ月を耐へ來たりし心事、ひとへに血に渴き徒に狂ふの惡名を避けんとせるに外ならず、則ち英國民が是非を言はずして先づ此の事實に滿腔の讚意を呈せるは、敵の前、我が友の弱みを見たじとする、誠の友愛に候はずや、

（下略）

露西亞分割は如何に行はる

「日本人社說」

露西亞の版圖は餘りに廣大にして、之を統轄するの實力を有せざるは既に明かなるが、其の國を建てゝ以來歲月を經ること久しく、根柢亦た稍ゝ鞏固なるに察する。たとへ弱點の外に暴露するありとも、爲めに俄然として著大の變動を受くるが如き事之れ有らざるべし。而も我が日本

と交戰せる結果、連敗して愈〻起ち難きに至らば、早晩必ず大なる變動に逢ふを免がれず、歳月にこそ遲速の差あれ、彼の地勢國情の酷似せる蒙古帝國の瓦解したると同じく、此も亦た終に瓦解の運命に逢着すべきなり。（中略）

分割の來たる、歴史と地理との二方面よりす、露帝國はもとキーフを中心とし、後ち莫斯科を中心とし、次第に四周の地を蠶食して、以て今日の廣大なる版圖を占むるに至りしもの、現に西境に接壤せる獨墺二國は嘗て波蘭を分割するに於て是れと共同せしが、境界の事に就ては彼此互に密接の關係ありといふべし。波蘭は當初露獨墺三國の間に分割されたるに、獨國の割取し得たる所は奈破翁一世倒潰の後に及び、大半折れて露國の領有に歸しぬ。現今露國の據りて以て獨墺二國に當らんとし、全力を盡くして防備に汲々たるワルシャウは元と獨國の領有たりし所、今や獨はケニヒスベルヒ及びポーゼンに備へて以て露に當るも、能ふべくんばワルシャウを收めて自國の有とするの利益極めて大なるを知り、而して此に就き當然主張すべきの權利あるをも知る、乃ち他年兩國の際に戰端の啓くるありて獨國全く勝を制すとする、更に一層其の境域を東方に擴げて舊波蘭の地を回復すべく、或は進みてドウヰナ河に到らんとすべし。獨國の地が露境に擴ぐると共に、墺國は又た其の境域を東方に擴げてドニープル河に及ぶへく、今やトリエスト港に依りて大に海運の便を開かんとしつゝあるが、地を東境に得るに因りて新たにオデッサ港を領有し得ば、爲めに多大の利益を博取せん、佛國亦た固より默して止まず、乃ちドニープル河より以東、裏海に至る一帶の地を領有するを可なりとす。

獨墺佛三國の新たに露國より獲得すべき處は、皆な總じて利益あるの地とすべきも、而も獨國は猶ほ之を以て滿足し能はず、更に他に得る所あらんとせん。往きに彼は既に土耳と協商し、鐵道の便に依り波斯を通じて印度に接せんとすれば、別に波斯の北、アラル海の西に地を擴げ、而して裏海の北岸に沿ひて佛國新領土と接壤するを順序なりとす。英國は印度より出て、阿富汗の北方、土耳其斯坦を通じてエニシー河に至る一帶の地を領有すべく、且つ他の二等以下の國々をも或る地方に利益の配分に與からしめ、或は形勝の地に中立地を設け、石油産出地の如きを特別の管治に屬せしむるも可ならん。コンゴ自由國を白耳義王の管轄に歸せしめたるが如く、エニシー河とレナ河との間に介まれる一帶の地域をして或る小國の保護と爲らしむるも可なるべく、往年數〻露に侵略せられし瑞典の如き、亦た同じく分割に與かり、そが既失の地を收回するも可なるべし。米國は東半球の大陸に新領地を占むるを望むや否やは固より疑問なれど、前に比律賓島を領有したるに觀る、或は其の意ありとすべく、乃ちアラスカに接續してカムチヤッカ半島及び其の近傍を領有せしめて可ならん。而して我が日本は先づ歴史上の順序として樺太を占有すべく、更に沿海州より西方何れかに亘る一帶の地を領有するの寧ろ當然なるべきも、若し列國にして多く得る所あらば、我も亦た隨ひて多くを得べければ、時宜に據り清國の北境に沿ひて西方に擴延し、以て貝加爾湖畔に及ぶも可なり。（中略）

諸帝國の分割は文明の上に利すること大、延いて世界の進歩に益すること大ならん。蓋し露帝國をして今の儘に存せしむる、如何に彼れ自ら頻りに經營して怠らざるにせよ、其の蠻風が帶ぶるに徵するに、其の頻りに經營する丈け其れ丈け蠻風の擴がるあり、蠻風の擴がる丈け其れ丈け蠻風を助長するを免かれず。よし蠻風を助長するの虞あるにせよ、依りて以て其の廣大なる領土を開拓すべき希望の充分ならば猶は恕すべきも、彼れの從來爲しゝ所に照らし見る、是れさへ甚だ思束なきに似たり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現時露帝國の內に業務を營める商工の主なるは猶太人にして、資本の融通は之を佛人に仰がざれば即ち猶太人に求め、要するに商工業の事、一に他國人の手裡に存すと謂ひて妨げず、かくて猶ほ其の廣大なる土地を開發して以て惠を世界に垂れんことを望むは、恰ど百年河淸を待つと異ならん、寧ろ列國の間に分割し各〻其の一部分を領して之れが開發に屈めしむるに若かず、即ち以て埋沒せる富を開きて自國を賑はすを得べく、又た世界人類の上に利益を及ぼすこと多からん。之を普通の小事業に就て檢するも、其の一たび基礎と爲るに至る、即ち進步の途玆に停まるを常とし、相ひ競爭する者多くして、始めて進步の途の通ずるを見る。歐亞兩大陸の北半を割きて露帝國の爲すが儘に一任するは、恰も大事業の經營を拙劣者の手に委ぬると同じ、事業の進捗は期するに由なく、却て過誤失錯紛出して爲めに多數人士を困惑せしむるに過ぎじ、徒らに此の如くにして止まんよりは、各人互に其事業の一部を限りて擔任し、相ひ協力して以て之れが開發を完うするを善しとせずや。（中略）

之を總ぶるに露西亞分割は、其の起因する所、虛威を擦かして暴惡を逞うせしにあるも、天の眼を以て之を觀る、即ち人類相ひ互ひに地球の上に活動するに大なる便益を與ふるもの、爲めに世界の進步を速むる幾段なるを知らず。而して之を爲すもの、謾りに露に對して復仇するに非ず、又た露を窘窮するにも非ず、洵に事の當然なるものと謂ふべし。

膨脹的國民の學徒に對する態度

「新人社說」

戰爭は國力の競爭試驗也。國民の體力、兵力、經濟力は勿論、其道義力精神力も此處に於て試驗せられざるをえず。即ち國民が如何ばかり正義愛國の情念に燃えうるか、如何ばかり一致協同、犧牲奉公の精神に富むか、如何ばかり此等兵力、經濟力、道義力等を運用して、其最善の效果をえしむる知能を有せるかも、亦戰爭の成績が僞なく證明する所也。しかれども、試驗せらるべき國力は、過去蓄積の結果に外ならず、眼前の急に應じて假に之を造り出しうべきものにあらず。少しく眼を遠きに放つものは、此喧囂たる號外場裡に於て、思を國家百年の大計たる國民教育のことに致さゞるべからざる也。よしや吾人は這回の戰に於て露國に勝ちえたりとも、吾人は未だ全く露國を屈服しうべしと思ふべからず、況んや吾人が競爭の敵は決して露國にあらず、吾國民は世界を對手として、文明進步の長途を馳せんとするもの也、露國の如きは偶々其進行の道を橫斷し來つて我れに觸れたるものゝのみ、吾人の事業は戰後にあり吾國民の位地は戰後愈重きを加へ、愈困難を增すべきや識者を俟つて知るべきにあらず、世界の前に證明しえたる優勝の文明力は、更らに重大なる任務を荷はせられ、更らに困難なる高級の大競爭場裡に導かるゝや必せり。これ一方には政治家の悃誠周到なる施設と熟練なる運用の技能とを要し、他方には商業家の進取的勇氣と、責任と體面とを重んずる公共的經營とに俟つあると共に、更らに根本に溯つて國家文明力の基礎たる靑年子弟の教育に、全力を傾注する所なかるべからず。

靑年學徒は若き理想に燃ゆるもの也、周圍の世を見ずして悠久なる歷史を仰ぎ、足下三尺の地を顧みずして世界の灝氣に呼吸す。凡ての點に於て完全を期し、凡ての方面に於て優勝を望むは、彼等の意氣也。此故に仰いでは古今の聖賢英傑に照らし、俯しては世界の文明諸國に比べ、孜々として學識を啓き、德品を磨き、相及ばざらんことを是れ力む。彼等の志すところ、勗むる所は、遙に教育當事者の理想以上なるものあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかるに彼等が漸く社會を窺ひ、社會に接近し來るや、其意氣は銷沈し其志望は縮小し、其思想は現實的となり、遂に社會に出づるや、全く社會の意に迎合するの人となり了る。かくせずんば彼等は到底自家の生存と幸福とを完うし其父母の要求に答ふる能はざるを發見する也。

社會は言ふ、汝の學殖は夫れにて餘あり、これよりはコマメに働くことを練習せよ。汝の知識と學理とは應用するに所なし、之を忘却し去れ、實地の技能を鈍うするのみ。新發明、新研究、此の如きは之れを止めよ之れを止めよ、たゞ衣食を豐にするの道に限るべし。事を造らば多數人の好奇心と趣味とに投ずるを旨とすべし、高遠なるものは世に用なし。高潔の理想の如きは邪魔物なり、たゞ宜しく交際の術に巧なるべし。日くかくせよ、日くかくせざるべからず、其他に於ては社會は汝に生存と活動との位地を與へざるべしと。かくして。工學者は技師となり、商業家は會社員となり商賈人となり、學者は教師となり、文學者は際物師となり、政治家は役人となり政黨屋となり了る。かくて學徒が漸くに自修研鑽の門に入りたる學藝は、其進歩を絶たれ、漸くに光を放たんとし來りたる德性は、生長を止められ、終に尋常一樣の社會水平線下に葬られ髯の生えた旦那樣として僅に他と分たるゝのみ、學徒の學問未だ身に體得せられざるに早や剝ぎとられ、實地に活用せらるゝに足らずして野山のものとなりぬ、是れ社會が我が青年子弟を殺すの順序也。

之を聞く、獨乙に於ては、一工場に數十の學者を養ひ、資を給して各自自由の研究に從事せしむ、其中には全く其製造業と緣なき純正化學の研究もあり、かくて此等純正學術の實驗室より、時として物質製造上に大變革を起すの發見を生じ來ると。商工業界に於て新興國たる獨乙が、近時頓に英佛を壓して世界に雄視する所以のもの、實に學者と企業家との此關係にありと稱せらる。簡易輕便なる學問は、何れの處に於ても創始的文明を生むこと能はざる也。

吾人は、之れより後、富家の子弟が高等の教育をうけて、獨立の學藝研鑽と獨立の進歩的事業とに從事するもの多きに至らんことを推奬すると共に、社會の態度と風潮とが學徒に及ぼせる害毒、否國家文明の進運に及ぼせる害毒の、實に大なるものあることを反省悔悟せんことを望まざるをえず。世人が教育をへたる青年を以て、單に己が私利私益を增進する道具とし、日常の用事を便ずる婢僕とすることなく、之を目するに國家公共の愛兒を以てして其長養を謀り、之を取扱ふに文明進歩の戰士を以てして之を激勵するに至らざれば、よく堅實透徹の學風を作興維持して、國家膨脹の氣運に副ふ能はざる也。もし夫れ青年學徒に對しては、言ふべきこと更に多し、今はたゞ萬事を其大なる自尊自敬の念と新天地開拓の意氣とに信頼囑望するあらむのみ。

妻君の心得（奉公人を使ふ法）

「東京教育時報」　江原素六氏

それから次に奉公人を信任することであります、所が日本人は兎角奉公人を信任致さぬやうであります、凡そ人間と云ふ者は人から信じられますると大變名譽に思ふ者であります、人間は徹頭徹尾名譽の動物である故に、人を信じて其者に任せるとなると非常に名譽を感じます、名譽を感ずると直ぐに生ずる問題が責任でございます、それでありますから信任をすれば食物の事を吩附けても、或は掃除をさせても何をさせても萬事能く注意をして働くやうになる、お前は能く忠實で如何にも感心だと云ふやうにして行けば、例へば掃除をしながらも外に屑屑を掃出さずにちよと握つて紙屑籠に入れるやうになりませう、さうして責任が生じますると、又用の敏活と云ふものが出て來ます、一旦信任すれば無闇に指

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

圖を致しませぬ、所が今日の奉公人を使ふ人は無闇に指圖をする、それが濟んだら今度は之をしろと云ふやうに、先きから先きと非常に指圖をする、それでは到底仕事が出來ない、椽側を此方の端から拭き始めやうが彼方の端から拭き始めやうが、大抵の事は委任しなければ可けない、物を餘り指圖仕過ぎるとさうすると働かなくなる、私の親類の奥樣ば非常に指圖する女であるから、幾ら奉公人があつても足りない、今一軒の親類では奉公人を信任してますから、椽側を拭きに來るのでも、兩手に水桶を下げて行て水を半分あけて次の椽側を拭いて、それから腹たやります、所が小言を云ふ家の方は雜巾桶だけ持て行くから、一々水を汲みに臺所に來なければならぬので、大變に手間が掛かる、それは詰り奉公人の信任と云ふものをしないと皆さうなッて仕舞ひます、信任をすれば名譽を思ふ、名譽を思ふと、自己の責任を重んずる、自己の責任を重んずれば、總て用を手早く親切にすると云ふことになるのであります、故に下女下男を使ふに就ても、先きも矢張り人間でありますから、唯だ大體の方針だけを叮嚀に教えて、後とは大抵の所にして置かなければ可けない、丁度猿廻しが猿を使ふやうに始終綱を引張て居れば、若し綱の引張りやうがちよとでも足りぬと直ぐに虱を掻き始める、直ぐに蚤を掻き始める、ちよッとでも忘ると直きに始める、それでは困る、それでさう云ふことは能く注意しなければ可けない。

現時青年の缺點

「實業の日本」　阿部泰藏氏

若し自分に向つて

現時の青年に對する或一つの最大希望を陳べよと望まれるなら、自分は躊躇なく『どうかモ少し職務を重んずるの觀念を有て貰ひたい』と答へたい。若し現時青年の缺點をいへば是が其最大なるものであらう。どういふものか當今の日本人には此職務を重んずるの觀念にが誠に乏しい。尤も職務の中にも面白く見える職務と、又そうでないものとあつて、面白くないものを喜ばないのは人情已むを得ない事ではあるけれども、既に一たび已が職務と定まつた以上、面白いからやるの、面白くないから疎略るのといふ樣な事を言ひ出した日には社會の事は一つとして成立するとは出來ないのである。苟くも職務と定まつたならば、如何なる職務でも

神聖にして貴賤の差別

のないのは皆同一である。譬へて言へば時計の器械の如きもので、どの部分が比較的不必要であり、どの部分が比較的必要であるなぞとは決していふ事は出來ない。大はぜんまいよりは微細なる一本のねじ釘に至るまで、其効用と職分は皆異なつて居るけれども、無くて宜いものは一つもない。ぜんまいがいかに必要だからといつた處が、一本のねぢ小を拔き去つたら、器械は忽ち滅茶々々に毀はれて了つて到底用を爲すことは出來ないのである。果して然らばねぢ釘だからとて、其必要缺くべからざる點に於ては決してぜんまいに讓る所はない。乃ち孰れを貴しとし孰れを賤しとすべからずで共に神聖なるものといはなければならぬ。尤も人誰れか向上の大望なからんやで、下級の仕事でも難有く甘んずる樣なものでは將來望みはもない、

位地に甘しないのと職務を重んじない

のとは全く別物であることを知らねばならぬ。位地はどんな高い位地でも甘んじてはならぬ、必ず無限に向上卓越する大望がなくてはならぬが、職務はどんな低い位地の職務でも決して輕んじてはならぬ、必ず職務を尊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



詞藻

雛

繞石選

樟脳の香に雛棚の静なり　青龍
雛祭り在所は桃の曇りかな　同
祖母の雛母の雛おのが雛並ぶ　初聲
菱餅の干反りも雛の四日かな　同
風に灯をとられて女雛打伏しぬ　柳波
伜の雛に残るも涙かな(悼愛子)　同
雛棚の供御や二の膳三の膳　柳家
二の段は五人囃や雛祭　同
兄嫁のつゝましげなり雛の前　同

選者吟

雛棚や風に張子の虎の首
灯ともせば古きひいなは無かりけり

雛祭母に手傳ひ蓬餅
一匹の白魚の皿や雛の膳
ひいなより小さき雛のあるじかな
雛まつり京は娘の美しき
雛祭雨にみよりの子をやどす
雛十句雛の日迄と募りけり
雛祭妹欲しく思ひけり
古雛や柳の下の道具店
雛の頬に紅さして見る小指哉
縁づかぬ末の娘や雛まつり
灯ともして面はゆげなる雛もなし
妹病んで雛の灯の淋しげに
雛つゝむ古き反古や乳母の筆
雛の顔羽箒輕く掃ひけり
着せ紙をほどいて雛の顔嬉し
出戻りの姉いたはしや雛祭
雛祭琴の師匠を連れ訪ひぬ
雛祭昔の春を語らひぬ

五月分課題　紫陽花(四月十八日限)
六月分課題　白の字讀込(夏季)(五月十八日限)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

緋桃

尾上柴舟選

○　正富汪洋

うつくしき若きわが戀百代かけて少女の口の紅と薫らむ

あめつちに二人とあらぬ狂ひ子を蔽はむと云ふ袖の大いさ

鐵もてあを雲めぐる朱柱にわがうた彫るとおもひしも夢

愚とやそは愚とや愚こそわれら二人がかざしのはな輪

妬ましと云ふこともあらず恨めしと云ふこともあらず御手離れしは

師の君にわれをたゝへて師の君のその御語に耳染めし人

○　橋下憲子

春二月梅はつぼみのからのおほ野露兵十万南にくだる

今さらにしのぶ十五の春やむかし緋桃に映ゆる雛古り

たり

風の使光の征箭もちからそへむ神も怒らむこのみいくさに

○　神田文子

我手より捨てむは惜しき人の文棚の鼠のひかばひかせむ

うなだれて枯芦まもる白鷺に似たるわが身よ名のみ人妻

垣はあれどゆきかひやすき裏の畑君と雀のこゑまねびしよ

雲かあらず年の五年待ち待ちし君ます舟のそれよけぶりよ

○　華園

御あかしの晝間をぐらきうつばりに鼠ついゐて人を守れる

人の園の匝によるなよるな目白行ある世と我も知らざりし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

重して之を忠實に仕遂ぐる殉公心がなくてはならぬのである。處が今の青年はどうも此兩者を混同して居る。位地が低いと「何んだこんなつまらぬ仕事」といつて蔑なして了ふ。位地の低いのを蔑なすのはまだ宜いが、「こんな馬鹿々々しい仕事が眞面目に出來るものか」といつて職務にまでも冷淡になる者が多い樣である。是は大變な了見違で、氣の毒ながら此ういふ人は到底文明國の實業國民となることは出來ないのである。

宗教と女性

「婦人界」　村上専精氏

夫れから女子の身體は綺麗は綺麗であるが男子よりも寄生蟲の付き易きものである之れは小野の小町でも紫式部でも皆な然りである況して一般の婦人達には澤山の寄生蟲は喰い付いて居る此寄生蟲は何處より來たつたものであるかと云ふにつまり心から生ずるもので宗教心なきものは必らず喰い付かれてある故に如何なる名醫でも國手でも拂ふことの出來ぬものである之れを拂ふものは唯是れ宗教心のみである宗教さへ信ずれば決して其の寄生蟲の生ぜぬのみならず心身共に清潔で無病である之れは宗教の側(かわ)から云へば救ふと云ふことになり人間の方から云へば救はるゝと云ふことになる。

そこで宗教を信ずれば何ぜ寄生蟲は出來ぬかと云ふに宗教は曩きにも云ふ如く宇宙最高最上の眞理から成立するものであるから寄生蟲の如きものは取り付くことが出來ぬものである最高最上の眞理中には十方諸惡屏息であるから一のバチルスだに居らぬ所謂十方無垢である。



非戰論者に與ふ

成川生

さても世の中は、面白きものかな。仁川の海戰、旅順の海戰ありし今日に於いてすら、非戰論を主張するものあり。われ等は、吾が帝國の海軍が、仁川冲に於いて勝利を占め、旅順口を砲擊して、殆ど陷落に等しき窮狀に沈ましたるを見て、遽かに非戰論者を攻擊するものにあらず。否、假りに日本の軍勢、露國に比して劣等なりとするも、なほ非戰論者に向つて、攻擊の箭を放たむと欲するものなり。何となれば、今日の開戰は、正義と眞理とを護り、人道を保維せむとするものなれば、吾れは非戰論者の言論に對して、非難の言を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

呈するだけの權利と理由とを有するが故なり。豈他意あらんや。

今假りに吾人が、非戰論を唱ふとすれば、果して幾許の理由を發見し得るか。これを大別すれば、(一)理想的理由(二)現實的理由(三)絕對的個人主義の理由、以上三種に歸着せざるべからず。

理想の天地を夢想すれば、戰爭程忌むべく惡むべきものはなし。戰鬪のために、父子夫婦、哀別離苦の悲痛を感じ、死別の悲哀に泣くは、多言を要せずして明かなり。

ひとり家庭の和樂を破るのみならず、戰爭が社會の秩序を紊亂し、或る一面に於いては、罪惡を增大する事あるも亦炳然たり。老ひたる父母の陋巷に泣き、貧しき妻子の路頭に迷ふを知りつゝ、戰場に赴く兵士を觀じ、或は、戰爭に依りて整頓せる社會の、亂調と變じ、或はこれが爲に、奸邪小人の私利を逞うするを見れば、戰爭ほど惡むべきはなし。これを廢止し得べくんば、未來永劫に中止すべきものならむ。

現在の事情が、非戰論の一大理由たるとあるべし。國民の體質、能力衰退せる場合の如き、或は國庫の財政、不如意なる場合の如き、或は國內に爭亂ある場合の如き、何れも外敵と戰ふに不適當なる狀態なり。例へば韓國又は淸國の如く、國民に一致協同の精神なく能力に於いて劣等なるか、或は又露國の如く、內亂の危懼ある國家にては、外國と干戈を交ふるを、最も不利なりと謂はざるべからず。更に一歩を進むれば戰後の將來を想像して、國家に不利なる事情の纏綿するあれば、考慮一番、戰爭を否定すべきなり。

絕對的個人主義を遵奉すれば、戰爭の惡むべきと、多言を要せずして明白なり。個人の平和と幸福と共に完からば、たとひ國家は滅亡するも、戰爭するの必要は莫かるべし。

これ等の理由は、今日、東洋に於いて開かれし大戰爭を、非難し得るだけの力を有するものなりや。吾が帝國の忠勇なる臣民が、戈を執りて滿州の原野に向ひしは、果して人道と正義と眞理とに逆ふものなりや。

理想的に言へば、戰爭ほど、罪惡の大なるは莫し。されど吾人は常に理想の實現を計らざるべからず。理想は、待つと如何に長ければとて、吾れより追求せざる以上は、決して吾が目前に來るものにあらざるは、吾人の、贅言を要せずして瞭然たり。而して其の實現の爲には、有ゆる手段を試驗せざるべからざるなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

吾人は平和の天地を理想とす。されど其の平和の現實を攪亂せむとするものあらば、平和のために、彼れを撃退せざるべからず。露國最近の行動は、たゞ夫れ自利を貪るのみにて、平和の爲に計策する所なし。彼の行動にして、非文明的ならざる以上は、天下亦非文明的と稱すべきもなからむ。滿州に於ける暴行、詐謀、これ正義に悖ふものなりや。その正當の理由なくして疲弊せる清國より、滿州の地を奪掠せむとするは、世界の平和を害するものにあらずや。

吾が國が、清韓のため、否、東洋の平和のため、更に一歩を進むれば、世界の平和のために、露の野心を壓抑せむとするは、固より當然の事たり。聞く、イエスの如き聖人と雖も、神聖を汚す者を撲ちたりとか。露は理想の神聖を汚し、世界の平和を破らむとするものなり。吾れの彼れを伐つ、何等の非難をも受くべきにあらざるなり。況や、露國にして、滿州の地を占領したる曉には、日本帝國の將來、亦憂ふべきものあるに於いてをや。

名もなき戰を起し、正義を蹂躙し、眞理を隱蔽し、人道を破壞せむとする場合には、極力非戰論を主張すべきなり。否、理想のために、自身の生命を賭しても、戰爭の非理を難ぜざるべからず。然れども今は我が軍、理想の現實のために奮起せるなり。露の野蠻的分子を撲滅せむとするものなり。されば我が國民としては、理想の現實の爲に、飽く迄も戰鬪を主張せざるべからず。然るに何者ぞ、今日非戰論を唱ふるとは彼れ等は畢竟するに個人の平安を貪る徒輩のみ。

現在の狀態が、非戰論の理由として、動かすべからざる場合あるは、吾人の認識する所なり。たとへば國家の財政不如意なる場合の如き、國民の意氣銷沈せる場合の如きこれなり。されど我が國刻下の狀態は、非戰論を主張せざるを得ざるほどの窮狀なりや、國家の財政は、多少不如意なりと雖も、戰鬪し得ざる程の果敢なき狀態にあらず。こは吾人が、喋々する迄もなく明白なる事實なり。次に國民の意氣を見るに、これ戰鬪的國民の好例なるものにあらずや。米國人が、その獨立を得むがため、上下一致協力したると、如何に堅固なりしとは言へ、今日の我が帝國臣民が、上下團結したる程に堅固ならざりしならむ。

それ勝負は、兵力の多少に關せざるは、古より言ひ傳へられたる眞理なり。露國は如何に多數の軍艦を派遣するも、又いかに多數の兵士を繰り出すとも、その

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

軍には一致なく、精神なく。コザック如何に勇敢なりと雖も、數コザックの間には一致せる精神なし。これに反して我が軍には、海陸に通じ、全國に通じて、一致せる精神あり。露國は大なりと雖も、瑕瑾だらけの玉なり。吾が帝國は、小なりと雖も完全無缺の珠なり、これ戰爭に不利なる事情なりや。ウイッテ氏は、露國の窮狀を觀察して、今日戰爭を開くの不利なるを主張せりとか。而して陸軍大臣クロパトキン氏は、日本を視察したる後は、遽かに非戰論者に報ぜしとか。二氏共に時勢を洞察するの明ありと言ふべし。然るに我が帝國内に於いて、事情にも通ぜずして、非戰論を主張する一派ありとは、寧ろ噴飯に堪えざるなり。

絶對的個人主義より言へば、非戰論を唱ふるは、正當の結論なるが如しと雖も、熟考すれば、これ程矛盾せるは莫かるべし。たゞそれ個人主義ならば、自身の利害に關せざる以上は、戰爭に容喙するの必要なきにあらずや。眼中には、國家なく、社會なく、隣人なき以上は、たゞ自利を計りて可なり。戰爭が、いかに悲慘の結果を生ずるとも、そは他人の事に屬す。自己に關係したることにあらざるなり。

個人主義より割出さば、自身に關する以外には、戰爭の是非を判じ難しと雖も、假りに一歩を讓りて、其の結果が、たとひ大勝利を得たるにもせよ、すべての個人に不利を與ふと言はゞ如何。この點に關して、吾人は一言せむ。露國の野心を壓倒することなき場合に、清韓兩國の民は言はずもあれ、延いて我が國民が、直接間接に蒙る不利益と、戰爭を開始して蒙る不利益とを比較せよ。その何れが小にして利多きは、茲に呶々を要せざるべし。

個人主義の徒よ、表面の博愛主義を唱へて、條理も立たざる非戰論を縷述するよりも、其の本質を現して戰爭を機會として、自由の增加を謀れ。恕に聖賢の口調を學びたればとて、條理なき理由には、耳を傾くる人もなし。

理想主義と個人主義とは、和結んで、今の非戰論を成立するもの丶如し。第二の理由、即ち國家の現狀を理由として、戰爭の非を鳴らす者、殆と跡を絶ちたりと雖も、第一及び第三の理由は、混合して、非戰論となりて現はる。これ理想上の平和と、個人の安全とが何時しか混同せられたるものにて、此の故に理想の平和を維持せむが爲にも、はた個人の安樂を保たむが爲にも或る場合には、戰鬪を必要とすとの理由を看過し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たるなり。

一個人の安全を謀る上に於いても、角闘は必要なるにあらずや。非戰論者と雖も、自身の安危のためには防禦の手段を講ぜざるべからざるに非ずや。國家に於いても亦然り。而して國家の安危得失は、一個人の安危得失の懸る所なり。これ三才の兒童と雖も、了解する理にして、今更喋々するの必要もなかるべし。

非戰論を唱へて、社會の大勢に反抗するは、これ一の戰鬪なり。一は武器を以つてし、一は筆を以つてす。非戰論者、若し、正義人道のために、筆舌を以つて奮鬪すと言はゞ、我れ等は言はむ、主戰論者、亦正義人道の爲に、武器を取らむことを薦むと。要するに、今日の非戰論は、全く根據なき感情論にして、一顧の價だに無きものなり。論者諸氏、更に深遠なる理由あらば、吾れ之れを聞かむことを好む。

陸戰は如何

吾が帝國の、海戰に於ける大勝は、列國の驚歎せし所なり。驚歎せる列國は、無見識なるかな。帝國の海軍は、海戰の尤も新らしき經驗を有す。これに向へる者は、海戰の經驗とては更に無く、たゞ疊水練を覺えたる露國なれば、その敗北せるは、毫も驚くに足らざるなり。吾人をして言はしむれば、寧ろ案外に奮鬪せりとすべし。

去れど陸戰は如何、露國は、なか〱に多くの經驗を有するのみならず、多數の兵卒を派遣し、海戰に於いて蒙りたる恥辱を、陸上に於いて雪かむとするものゝ如し、これに反して我が帝國の陸軍は、廣大なる山野にて、砲火を交へし經驗は少く、兵數亦少なるべし。故に世人動もすれば、陸戰の將來を憂ふ。されど吾人は帝國の勝利を斷言するに憚らざるものなり。これ似而非愛國心の言はしむる所にあらず、預言し得るだけの材料あればなり。

兵數の多寡は、決して勝負の分るゝ原由に非ず。而して露の經驗とは何ぞや。僅にナポレオンの大軍に勝ちたるのみにて、其の他は劣等なる軍隊と戰ひしとあるのみ。ナポレオンに勝ちしは、軍隊の强大なるに由らずして、天候のお陰を蒙りしに基く。斯くの如き經驗は、何等の價値をも有せず。殊に軍隊の一致和合は、殆ど望むべからざるが如し。即ち個人主義徒の集合が、露の陸軍なり。之に反して吾が陸軍の規律は嚴正にして、士卒の精神一團となりて分離すべからざるものあ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り。此の精神の强弱、これ實に勝負の分るゝ所ならずや。露いかに大軍を編成すとも、そは烏合の集に外ならざるなり。

露は如何にして大軍を養ふべきか。その交通機關は幾許の價値を有するものなりや。現今の狀態にては、兵士食糧を運搬すべき道は、單線にして、而もバイカル湖を以つて中斷せらるゝ西比利亞鐵道の一あるのみならずや。斯くの如き不完全なる交通機關を以つて、大軍を維持し、進退せしめむと計ること、むしろ愚に近しと言ふべけれ。これに反して帝國は、海上權を握つて、交通の便を有す。されば數に於いては、小なりと雖も、完全なる軍隊を編成し得るは、識者を竢たずして明かなり。

人數のみ多くして、進退不自由なる露軍が、完全なる日本陸軍と戰はむとするが如きは、筋肉弛みて、關節のはづれたる大男が、四肢の發達完全なる人と角鬪するに異ならず。

代議士諸君に與ふ

近來は『何々氏に與ふ」といふ表題の文章、流行すればとて、吾人は之れに倣ふものに非ず。實際、與へたさが故に、與ふ書なり。

代議士諸君、諸君は、戰端開かれて、國民悉く、旅順口、仁川、浦港の荒浪に注目して、他を顧るの遑なき時に際して代議士の榮譽を擔ひたり。之れを裏面より云へば、諸君の撰擧競爭など、人氣なかりしは、議會開設以來、例なかりし所なり。

諸君は、交戰國の代議士として、議場に入る。其の覺悟果して如何ぞや。責任の大なる、言はずして瞭然たり。そは吾れ等、内外漢の喋々するよりも、諸君の詳知する所なれば、今は之れを語らさるべし。然れども、諸君の情操上の覺悟は果して如何。

代議士諸君、今日は多額の歲費を辭退して、これを軍資に繰り入るべきを主張すべき場合にあらざるか。諸君が、代議士の肩書を求めたるは、一身の榮華の爲にあらざるべし、又歲費が欲しさの故にもあらざるべし。然らば軍國多事の際、これを辭退するの覺悟は、豫め決定せられたるなるべし。盲人、老爺にして、日頃貯蓄せる金錢を、軍資の中に献納せるあり。諸君にして此の覺悟なからずして可ならむや。

或は言はむ、代議士としては、相當の躰裁を作らざるべからず。これが爲には多少の金錢を要すと。され

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ど代議士として造るべき躰裁とは何ぞや。躰裁が備らざれば代議士たる能はずとの理由は成立せじ。假りに一歩を譲りて、實際上多少の躰裁を要すとするも、其の躰裁を簡畧にするは、恥辱と稱すべきにあらざるが故に、今や出來得るだけ剩費を省き、たゞ必要だけの歳費を受け、殘餘は之れを軍資に献ずべきなり。

昔者、西班牙の和蘭を征服せむとするや、間者窃かに和蘭に行き、和蘭代議士の登場する樣を窺へり。時は迫れりと雖も、代議士らしき者は一人も通行せず、たゞ腰に辨當を帶び、粗服を纒ひたる小官吏の如きものゝ行き過ぎたるを見たるのみ。餘りの不思議さに、傍人に之れを質せば、曰はく、先刻より通過せし人々こそ代議士なれと、彼れ大に驚駭し、直に書を西班牙國王に贈つて曰はく、和蘭代議士の勤儉質素なる斯くの如し、以つて民情を知るべし。されば如何に大軍を派遣せむも、此の一國を滅さむと、到底望むべからざるなりと。

吾が代議士諸君には、和蘭往古の代議士だけの覺悟ありや否や。若しも之れあらば、實行に於いて示せ。

落花狼藉

◎戰端の開かれたと共に、軍資へのおたしまへ、と言ふとが一の流行となつた。婦人は結髮を中止する、或者は佳肴を廢す、或者は美酒を中止する、實に新聞の紙面に、美談を以つて塡められてある。

◎かゝる美事を指して、一の流行といふは、甚だ不穩當の語であらう、また無禮な言であらう、否、世間の怒を買ふべき言であらう。然しながら吾人は、これが一の流行たるの分子を含んで居ることを斷言するに憚らないのである。

◎世間には自己の利のために勉めて美事を行ふものがある。即ち僞善がこれて、博愛とか、仁愛とか、忠君とか、愛國とかは、其の目的でなくて、全く自己の利益を增大ならしめむが爲に、表面上美事を企つるのである。これ決して新しき現象ではなく、太古より恒に絕えざるものである。

◎名利のために献金する者、啻に今日の場合ばかりでなく、多くの場合に見る所である。或人は、國債募集に應ずる者を指して、利子の附く金を出して、何の手柄か、と非難するが、出す人の考では、手柄をしやうとの事ではあるまい。たゞ政府の不足を補ふといふだけが目的で、其れに依つて、自分の名利を貪らうなどの野心は、毛頭もないものである。

◎手柄を現さうと思うて、献金する位ならば、國債募集に應ずる方が立派である。功名を現さうと思うて戰場に臨むのが誤であると等しく、賢者ぶらむ爲に、軍資を献納するのも誤である。

◎近頃の新聞にも出て居たが、某なる小學校生徒は折角献金をしたのに、新聞に、自分の姓名が載せて無いのは、什麽いふ理由かと質問したとがあるさうだ。小兒とは言ひながら、餘りに虛榮心が多いてはあるま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いか。これ固より一例にしか過ぎないが、斯かる例は隨分多いことであらうと思ふ。

◎名利のために、美事を行ふものがあれば、誠意赤心を以つて、國家の爲に盡す人までが、疑惑の眼を以つて眺めらるゝ事となる。名聞を得るためには、隨分多くの方法があるのであるから、今回だけは、獻金以外の方法を取らむとを、名利主義徒に懇願せざるを得ない。若し他に方法か無いと言ふならば、不束ながら、何時でも御指南致すであらう。

◎殊に小中學の生徒が獻金せむとする場合には、父兄たる人、教師たる人は、充分の注意を以つて、彼れ等の胸底を觀察し、許すべきは許し、禁ずべきは禁ずるが肝要である。然らずんば、或る兒童には、愈よ僞善を爲すの傾向を大ならしむると共に、善良なる兒童をすら邪に迷はしむる憾がある。

*　*　*　*

◎全體一の國民が、戰爭に成つたから、贅澤を中止するといふのが、大間違の話である。何故なれば、これ常に贅澤三昧に暮しつゝあるのを證明して居るのではあるまいか。

◎三井呉服店や、白木屋の店は、幽靈が出さうな程に淋しくなつたさうだが、考へて見れば、トンチンの話である。國民が平常贅澤をして居らなければ、戰時であらうと、泰平の世であらうと、かゝる店には、去程の相違が生ずるものでない。

◎平常には、必要以外の事をして居ればこそ、これを廢すといふ必要が生ずるので、一歩を進むれば、戰爭が濟んだら、亦贅澤しても宜しいと言ふ事になる。

◎斯樣に言へば、それは理窟だと冷笑する人もあらう。實際理窟だ。理窟だから仕方がない。たゞ實際上では、必要以外の事を行はぬ、と言ふ譯にも行かぬから、人々の覺悟として、節儉するの、無用の費を省くのと喋々せぬが宜しい。それを語れば、忽ち理論の彈丸を受けて致命傷を蒙ることになる。

*　*　*

◎近頃、舞踏なるものが流行するやうである。成程、舞踏とは美しいものであらう、優美であらう、又、體質を强壯ならしむる上にも、有効であらう。

◎さりながら吾が日本では、舞踏を獎勵しなければならぬ必要があるであらうか。又舞踏なるものは、人の擧動を優美ならしめ、體力を强健ならしむる上に於いて、何程の効能かあるものであらうか。更に、たとひ其の効力大なりとするも、其れが呼び起す弊害を考へて見たならば、難有く頂くべきものではあるか。

◎西洋には舞踏なるものが流行するそうだか、西洋で然るか故に、日本にても模倣すべしとの理由は成立しない。縱令白人種と交際するにしても、舞踏か出來ないならば、不利であると云ふ理由もない。否、吾れが舞踏を知らぬ爲に、白人から擯斥されるならば、却て幸福である。何とならば、左樣に淺薄な思想の西洋人ならば、交際するのが身の汚辱である。

◎次に、今日の國情を考へて見ても、舞踏を獎勵する必要もない。第一に家屋の構造はドウであるか。東京市中に、舞踏の出來る建築が二とあるか。帝國ホテルを除いては、何處に舞踏室があるか。

◎第二に男女混同の交際か、舞踏を必要とする程の狀態であるか。又舞踏がなければ、充分の歡樂を盡すことが出來ないと言ふ程、日本は野樸であるか。是れ等の點を考察して看たならば、舞踏などいふものは、殆んど無用の長物と言ふても宜しい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎擧動を優美にするといふが、成る程、動く方面の態度は、幾分か優美になるであらうか、靜的方面の態度は、お蔭で亂れて來る。全体、優美なる態度を作らむと言ふならば、國情に適した方法が幾らもある。茶の湯、能狂言、踊。それ等は舞踏にも優して、身体の動靜を雅美ならしむるものである。

◎体力を增進すると言ふ點も、實は疑はしい者であるまいか。國情に適した相撲、擊劍、柔術、薙刀、偖は体操、これたけの方法があれば、男女の身体を强壯ならしむるには充分である。夜間、締ぢ込められた室内で、多勢ごちや／＼に跳れ廻る舞踏式は、果して健康を助長するものであらうか。

◎更に一步を進めて考ふれば、是れが爲に、男女の關係が、甚しく亂れて、種々の罪惡が生じて來るは、火を見るよりも明白である。思想の固らない靑年男女が、手を引いて踊り步かば、一步每に邪道に踏み入るは、多言を要する迄もなく明白である。

◎斯くの如く、國情にも適せず、効能も少く、且つ道德上有害であるものを、吾が日本内に輸入せむとするなどは、大な量見違ひである。孰れ米國製ハイカラ連の仕事であらうが、これが爲に迷はされる人もあらうかと思へば、隨分心配な事である。

* * *

◎戰爭のために、誠意熱心を持すべきは、言はずともの事であるが、吾人は之れと共に、各個人が、自己の本分を忘却せぬやうに希望するのである。

◎日本人の一短所として、極端から、極端に走つて自分の位地を等閑視するのは、今更の事でないが、殊に戰爭の時代などには、此の點の著しく見られるのである。

◎學者、文學者、美術家、宗教家、政治家、さては商業、工業、敎育等に從事する者が、戰爭熱のために、自己の本領を忘却してはならぬ。これ明瞭な理であるにも拘らず、中々守ることは困難である。

◎更に一步を進めたならは、世人が、戰爭は戰爭として、其の他の方面をも考察するだけの度量を持つて居ることが、吾人の望む所である。一口に言へば大國民の態度を守らむことを切望するのである。戰爭が始つたから花見もせぬ、角力も見ぬ、芝居も見ぬといふが如く、義理一遍の忠義振は、吾人の取らざる所である。

◎少しく深く考へても明白ではあるまいか、若し國家のために犧牲して居る人があるから、個人の快樂(純潔なる者)は貪ることか出來ぬと言ふならば、如何なる場合でも、樂堂、劇場、等に這入つてはなるまい。即ち社會をしてピューリタンの世と改造しなければなるまい。何となれば、國家のため、直接又は間接に、犧牲をして居るものは、何時の世にも絕えぬからである。

◎不正不德の快樂を排斥すべきは、戰爭の場合ばかりではなく、何時の世でも、貪つてはならぬ。斯樣な出來事は、多言する迄もなく明白である。

◎依つて、若しも藝術を樂むといふ場合に、自身が不純 の思想を抱いて、これに對するならば、それこそ戰爭中なりとも、之れを中止して、惡念斷絕の一階段を造るか宜しい。併し、眞正に藝術の快樂を求むる人であるならば、何處にも遠慮する必要はない。

◎櫻痴居士が代議士となつた。古木再び花を開く、とまで行くか、どうか、其れは別として、兎に角に劇壇に一名物か出來た。戲曲家としての居士か、代議士として、場内の人々を感動せしむる程の伎倆を揮はれむことを希望する。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文藝家の覺悟

秋江生

▲倫敦の圖書館などにては日本に關する書類を借覽する者相爭ふて、容易く見るに困難を感ずる位なりといふ。是れまことにさもあるべきことなり。十年以前日清戰爭の結果は我が國の世界的地位の第一步を進めたりき今や日露戰爭に依りて我が國運は更に一段の進運を來さんとす。而して今まで眞に我が國の精華を知らざりし西人は、俄かに驚きの眼を上げて日本國民的特性を究め盡さんとする者愈々多きを加へん。蓋し彼等の眼に映ずるものは先づ物質的方面なるべしといへども、之を知ると愈々深遠なるに從つて、國民の思想を發顯したる文藝美術に追及すべし。從來造形美術は比較的多く彼等に知られ、且つ味はれたるが如しといへども、眞乎國民的理想を歌ひたる文學詩歌の類に至りては尙ほ少しだも彼等の解する所とならずといひて不可なきが如し。邦人にてもハイカラ者流は、從來一も二もなく我が邦固有の文學、例へば近松、西鶴などの如きものを以つてするも、唯々彼れのに比べて幼稚未熟となし、單へに泰西文學の優れたるを說くもの多き習なり。是れ併しながら最も公平に考ふるも甚だ理由（ことわり）なき次第にして、眞に詩味を解する時は果して彼我の長短さばかりの差ありや否やは頗る疑問なり。

實に習慣は趣味の最大要素なり。上下二千五百年の幽遠なる歷史的發展を遂げて現今下瀨火藥の如き精巧なる發明的腦力と、身命を擲つて君國の大事を盡すと云献身の美質とを併有する此國民が、今日に及べる永き史上に於て、何等か面白き小說を有せざらんや。献身の美質の如き古今東西の人文史上其の類例必ずしも貧少ならざるべしといへども、凡そ我が邦の如く發展の極致に到れるものは之れなかるべし。吾人は今日に於て輕々しく武士道の如きものを推奬するものにはあらねども、「腹切り」を以つて恰も「茶の湯」「生け花」の如く視たる吾人の祖先は、其昔し献身の美質の源を遠きく古へより鍛練し、詩化し、美化して吾等の血管に傳へたりき。「腹切り」「武士道」固より誠に多量の野蠻の分子を含蓄せり、然れども何れの國史か野蠻の原素を含まぬものかある、何れの國民か野蠻の狀態を踏過し來らぬ者がある。而して吾等の祖先は文學の上に「腹切り」――「武士道」――「献身の美質」といふが如き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

形式に於ける野蠻と、道德——理想——文明と互に錯綜して織り成されたる國性民情の面影を止めたりき。我が邦の過去文學は此の點に於て最も頂上(カルミチーシヨン)に達せり。「近松半二」「竹田出雲」などの歌へるもの多くは是れなり。「菅原傳授手習鑑」「假名手本忠臣藏」の面白さは皆此の國民的理想を彰表すればなり。西人は「シルレル」の傑作「テル」が其の子の頭を射るの塲を嘆美すれども、之れを我が「小太郎」の父母、忠臣義士の理想美談と比べて其の面白さ果して如何に、我優れりといふ能はざるも亦我れ劣れりともいふべきにあらざらん。「シルレル」の「テル」は大に當時の歐洲に於て新自由を皷吹するに力ありしといふ。焉んぞ知らん、「半二」や「出雲」のに顯はれたる當時の國民的理想は、發展し美化して遂に今日の愛國心——献身の美質を鑄造せり。彼の西人たるもの一度び此處に着目するに至らば、日本國史を研究するの面白さを知り、從つて光榮ある日本文學の深遠偉大なることを知らんと欲するの念倍々旺盛ならん。

然れ共唯惜むらくは、國史に於ても德川文明の頂上に達したりし如く、文學史に於ても又精華を喚發したりし元祿享保の文學にのみ最も好く國民發展史上の時代精神顯はれて、而して其れより尙ほ幾層の進化を遂げ、更に偉大なる理想を發見したる明治昭代の時代精神を發揮するに足るべき文學的產物の是れなきは何ぞや。嘗て聞く所に依れば英文に堪能なる某女史、德川時代物を飜譯したるに、西人痛く喜び讀みたるが、其の後更に「一葉女史」「薄氷女史」など明治の閨秀作家の作を飜譯したるに、彼等少しも愛讀せざりしといふ。蓋し維新以後世運の發展するに從ひ、趣味思想自から世界の大潮と融化渾合して、我現代の文學に顯はれたる思想は必ずしも西人の眼に新たならずして、近世寫實主義の盛なるにつれて凡人の平話に少しの彩色を施したるに過ぎざる明治の小說は、彼等に取りても餘り飽氣なきの感あると。二つには彼方の一般俗衆が日本のローマンスを好めるに依るとは雖ども、現代の詩人が元祿享保の詩人に比して尙ほ遙かに劣れるに依らずんばあらず。日露戰爭の勝敗は俄かに決定し難しといへども、愈々我國の勝利に歸することゝもならば、これぞ正しく明治昭代の頂上(カルミチーシヨン)にして、インビンシブル、アルマダを擊退したるエリザ女王朝の英國にもおさ〳〵劣るまじきなり。我が國の沙翁たらんものは果して誰れぞ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰闘の自覺

高須梅溪

日露戰爭以來、我海軍が近世史上、殆んど類例を見ざる大勝を博し得たることと、我一般國民が各自分に應じて、愛國の赤誠を表象したる事とは、實に吾人の二大快事として滿腔の悅喜、禁ずる能はざる所なりとす、吾人は、以上の事實より推測し來て、略ぼ戰局全體の勝利を豫想するに難からずと雖へも、吾人にして「戰闘の自覺」を抱持し、實現せざる以上は、時として近世史上又未曾有の失敗を見るに至らん、これ深く省察せざるべからざる一要點也。

蓋し戰爭の二字は、普通武器銃劍を以て彼我相戰ふことを意味す。されど若し之を廣義の上より解釋し來たる時は、必ずしもこれ等有形の事にのみ限定せられざるなり、國家は一個の全き有機體にして、其の作用、猶ほ吾人の身體が全き有機的體制組織を有するに同じ、從つて吾人が胃腸、肺部、頭腦の各局部に於て均一的に優勝ならざるべからざると同樣、國家も亦各局部の作用、均一的に優勝ならざれば、決して健全なりと言ふべからず、今銃劍を以て外敵に勝とつせば、これ其一局部たる戰事上の勝利を意味する者にして、國家全體の局部が勝利を獲得したりとは言ふべからず。例せば、商工、政治、宗教、教育、文藝の如きは、矢張全き有機體たる國家の一局部に相當するものにして、これ等の方面に於ても、外邦の人文を壓して、優勝の地位を、占取するを必とす、然らざれば、國家の營養機關は不具に終りて他の貧弱と相等しきに至らん。羅馬は武を以て他を征服すると同時に、又武を以て破れたりき、これ中に於て一般人文の發展統一に力を用ひざりしためなりと言はるゝに非ずや、故にこれ等各人文も亦無形的に戰爭を繼續し、以て有形上の戰闘勝利と相俟たざるべからず、吾人は於茲「武器」の戰爭に盡くすと同じ程度に於て、熱誠忠實の心を披瀝する要ありと爲すもの也。

如上の意味によりて、一種の解釋を下す時は銃劍を執りて戰爭に從ふもの〻みが必ずしも戰士の稱號を專有するにあらず、軍事以外に關係從事せる所の吾人も亦一個の戰士たるなり。海陸の將卒諸氏が劍光砲聲の間に一命を賭すると比しく、吾人も亦各自の業務の爲めに一命を賭しつゝあるなり、渠が國家の爲め、人道の爲めに犧牲と爲るに比しく、吾人も亦國家人道の爲め、

に犧牲たらんとしつゝあるなり、渠か天然及び糧食上の苦痛を受くると比しく、吾人も亦心痛憂慮の爲めに多大の苦痛を受けつゝあるなり、唯其異なる所は渠は有形的に武裝し、吾は無形的に武裝し、一は肉體上の危險に會し、一は心靈上の危機に逢着し、一は人文發展の前驅として其道を開き、一は其開拓せられたる道の上に、花果を植え、噴水森林の配置を爲さんとするにあり、これ兩者の相違せる所なりと雖も、廣義上、戰士たるに至つては、即ち一なりとす。

吾人は此『戰士』と言へる自覺を有するに非ざれば恐らく活動の上に於て、事業の上に於て、國家人類に何等の貢献をも爲す能はずして止まん、而かも現下國民は一般に斯くの如き自覺を抱持しつゝありや、素より彼等が愛國の情は、あらゆる方面に向つて、煥發せられたりと雖、そは深き自覺の上に築かれたるものに非ずして、寧ろ我邦俗の特質的方面より發現し來れるものに外ならず、若し此際『戰士』と言へる光榮ある自覺を有したらんには、一層國家の爲めにより大なる貢献を爲すべしと信するなり。

國民諸子は、我海軍が旅順に戰ひ、浦鹽、仁川に猪闘するを同時に、近き未來に於て我陸軍が滿洲の大原野にて屍山血河の一大戰爭を開くに至ることを豫想せん。思ふに此時に際して、勝利の榮光が我に宿ることは論を俟たさる處なりと雖も、それと同時に又少からざる慘劇を演ぜらるゝに至るとを思はざるべからず。渠等は實に我文明の敵、隣邦の惡魔を膺懲するがために奮闘して、無量無限の苦楚辛酸を嘗めつゝあるなり、吾人は深厚なる同情を以て、內より應援を爲すに力めざるべからず、單に献金や、節儉のみを以て甘んずべからざるは勿論、この際、最も應援の功果を奏する方法は『吾は無形上の戰士なり』と言へる一大自覺を喚起して、各自その天職事業の爲に一大奮戰するにあり。海陸の兵士が一命を賭しつゝある勢を以て、平時よりも一層活潑に戰ひ、以て國家てふ全き有機體の各部分をして、有形無形の上に優勝を博せしむるにあり、これ吾人の必ず自覺せざるべからざる一要件にして、英國が今日の强大を致したる所以は、畢竟、無形有形兩面の戰闘に於て勝利を收め得たれば也。

以爲へらく、戰局が大勝利に皈着して、一段落を結ぶと共に、第二の段落として來るものは、一層偉大なる戰爭也。

其理由は

(一)我國の地位上進すると同時に、各人文も亦上進せざるべからず。
(二)露の外交策の狡猾無比なること。
(三)將來開かるべき人種上の一大戰爭。
(四)戰勝に伴ふ種々の弊害。

これ等に關しては、今一々說明を加へずとも、讀者は直ちに之れを諒知せん。唯一言寄語すれば、若し我國民にして、唯外形上の戰爭にのみ意を灌ぎ、如上の豫想、事實に着目せざらん乎、或は一局部の勝利を收むることを得るも、全局部の勝利は却つて第三者たる邦國の手に落ちんとも限られざる也。

故に此際、我文藝、宗教、敎育に從事する諸氏は、最も此點に意を致して我國民一般の自覺を喚起するに力め、商工の士は、深く此自覺に顧みて、國家千年の富强を策すべき也、これ有形上の職爭に劣らざる一大奮職にあらずや。

浮世の相

小梅閑人

▲お丶我友よ〱、世にも奢れあるは新躰詩人蒲原有明なり。堂々たりといはんか、はた何と申して宜しいやら、「帝國文學」に依つて彼れはゲーテ、シルレルを引用して仰々しく賞讚せられたり。束の間に露帝國を爽げんとする我が邦は文藝に於ても西歐の巨匠と比肩すべきものを得たるらし。ほんに馬鹿〱しくつて物がいへない。是れ有明のすばらしきにあらず、帝國文學批評家先生のエラキなり。(恬淡)

▲天下の恐人は「野の人」に止めを刺すが如し。

▲高山樗牛は眞にエラカリシ、今は世に亡き人の思ひ出らるゝ。

▲兒玉花外が先達て「社會主義詩集」と稱する新躰詩集を出版したるに其の筋より發賣禁止を命ぜられたりとかにて、廣く世上の知人に書を寄せて同情の書を乞ひ、之れを同情錄と題して附錄となし更に花外詩集と改題して出版したるは既に世の知る所なり、恐にもつかぬことゝは眞に此の事なり。本を出したのが惡い、ことゝはいはぬけれど、彼樣なものを社會主義詩集などゝ稱し、之にオビヘて禁止を命ずる其の筋も其の筋だが、禁止せられたからといつて、何か迫害でも受けたものゝ如く思ふは兒戲も及ばずといふべし。我が邦の社會組織如何に不完全なる所ありといへども、未だ斯くの如き薄弱なる言論に依りて動搖せらるゝが如きものにあらざるなり。

▲之と一寸相似たる滑稽は、早稻田中學に於て生徒が社會主義の事から喧嘩をしたりなどゝ仰山らしく書き立てたる平民新聞の態なり。此の學校に於て果して如何なる事實ありしか詳細を知らされども、淺薄愚劣なる所謂社會主義なる者が多く、世の人の子を毒する事實だけは確かなり。

▲謹んで社會國家の爲めに「二六新報」の發行禁止を祝す。

彼の非戰論を唱ふに蠻の如きは其の名の徒らに美なるを以つて之れを借

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

けてオッに澄まさんとする僞善の爲に過ぎず。そんな淺薄なる議論で社會の秩序を改革せんとするが如きは眞に片腹痛きことゝいふべし。

▲君の此の中央公論が社會雜誌の上乘なるものだなどゝいふものがあるが、それでは日本の雜誌界も心細い譯だね。

▲恐らく今日の讀者ほど愚にもつかぬ事を喜ぶものはなからう。少し長い文は早や讀む氣にならず。

▲つまらぬものでも只新らしいものでさへあれば好いなどゝは其の輕薄眞に唾するに堪へたりといふべし。

▲日本人は小巧者ではあるけれども、極めて意思が薄弱だといふのは、つまらぬ端物雜誌でなくては賣れぬので見ても分る。而して此の雜誌が更に人の意思を薄弱ならしむる原因なのである。眞に歎かはしい次第と申すべし。

▲時局に關して兎に角一寸毛色の異つた議論をして居るのは矢張り「日本人」の三宅雪嶺だ。此の人歐洲より歸來、頻りに露西亜分割が何時か事實となつて顯はるべきを論じて居られる。三宅氏の直覺に映じたるもの或は眞理ならん。元來物事に思ひ切りのいゝ露西亜だから、一つてんぼうに出て、四邊の領土を割いて之れを隣近處の獨逸や、瑞典や、澳地利や、亜米利加や、日本に與れうとてもいつたなら、全く何奴も斯奴も薄氣味惡く思てあらう。餘り往生際の惡い態を見せて器量を下げぬことが肝心である。

▲先夜さる新體詩人たちの催うして軍國の新體詩朗讀會といふのがあつたさうだけれど、自分は恰も雨も降つたし、家(うち)で湯屋で覺えた面白いのを口すさんで寢轉んで居た。マア色んな事を遣つて見るが好いさ。

▲此樣な事を申すと氏には失禮かも知れぬが、ローマンチックを遣るなら、理學博士田中正平氏ほどの事を遣るべし。彼の口づからローマンチックなどいふ舌ったるさ加減實に鼻つまみなり。

▲身日本橋本材木町の熱鬧場裡に在り。向三間兩隣皆錙銖を爭ふ商估、階上一間の書齋にはズラリと獨佛の書を重れて、階下では新内、清元、長唄、常盤津の弦聲切々嘈々として聞ゆ。江戸唄のお稽古本と獨逸の原書と好對照ならずや。是れ吾が尊敬する田中理學博士の平生なり。

▲一見大なる矛盾あるが如くにして、併かも是等の矛盾を統一する程の博大なる識力を有する人にあらざれば吾人の尊敬を措き難し。

▲先達てさる地方の小學校運動會に於て擬露軍の兵卒となれる一小學兒童他の兒童の爲めに打殺されたり。斯かる小學校の校長は彼の御眞影を取出さんとして命を果したる小學教員と同じ系統に屬す。淺慮寧ろ憐むべき也。

▲「二六新報」は遂に〳〵發行を禁止された。之れ寧ろ自然の命也。

▲僅かに一ヶ月前山路愛山が「二六新報と秋山定輔」とを批評して「來て見れば聞くより低し富士の山。世間に名高き二六新報は是れ消ゆべき雪の佛なる乎。散るべき沙の山なるか」といつたもの果して讖をなしたのであつた。

▲往時盛名ありたる時に其の實半は當時の馬鹿に擔がれたるにて、老後に及んでまでも尚ほ馬鹿に擔がれんとするは板垣退介君と福地源一郎君となり、さりとは何時までも馬鹿の絶えせぬことかな、二人の執念くも馬鹿の神に附纏はれたることかな。

▲明白なる事なれども世人德富蘆花を以て狹なれども純なり、蘇峰を以て廣なれども濁れり、全く異れるなどゝ云ふは皮相の見なり。蘆花は竟に蘇峯が小說家となりたるもの也。民友社の生める小說家也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



戰爭と貧民部落

天涯茫々生

戰爭は、國家の大事變なり。貧民は社會の一大現象たり、今回の日露戰爭が、府下の貧民部落に如何なる影響を與へつゝありや、開戰後僅に一ヶ月に至らざる今日、其の影響如何を見るは、聊か輕躁に失すべしと雖も、爰に日常の見聞を記して、讀者の參考に資せん。

　貧民部落といふも、僅に下谷萬年町及山伏町一帶の消息に過ぎず、蓋し四谷鮫河橋、芝新網、下谷萬年町は、東京市に於ける三大貧民部落の稱あり、然れども今日東京市中に在りて、最も細民の多きは、本所區にして、而して窮民の群集せるは、如上の三部落よりは、寧ろ下谷區入谷町及新入谷一帶、麻布區廣尾町等の如き新開地を以て最とす、現に萬年町附近の如きは、年一年に外觀を改め、乞食、物貰及屑拾の類は、水草を逐ふ牧民のそれとは異なれども、屋賃の低廉なる新入谷等に移りて、今や左しもに名高かゝりし山崎町（萬年町の舊稱）の面目を留めず、故に今日萬年町附近を以て、東京市の貧民部落とし、最も生活の缺陷を示せる最醜の場所とは爲すこと難しと雖も、萬年町二丁目十一番地の如きは、尚曩日の面影を留めて、滿目、襤褸を以て充滿す。

　之を以て今日萬年町一帶を擧げて、府下最大の貧民部落とは目し難しと雖も、府下各區に散在せる貧民の近狀は、亦た同地に於て其の一般を知ることを得。唯、世の貧民を論ずる者、時勢の變化と共に、其の住處に移動あることを覺らず、依然として、我れ等が「日本之下層社會」等に敍述せし當時と、同一の想像を以て、萬年町を見る者多きが故に、今、貧民部落の近狀を敍する前に當り、聊か注意を置けるのみ。

　却說、今日東京市の細民は如何なる境遇に在る乎、

即ち日露戰爭は、渠等の生活に如何なる影響を與へつゝある乎、其の住處に依りて多少の相違あるべく、例令ば深川區の米穀倉庫附近に於ける細民部落の如きは、米穀運搬の爲に、戰爭以來、却て繁忙なる類の如き、場所に依りて、各々相違あれば、一概に言ふと能はずと雖も、萬年町附近を包容せる一帶の貧民部落は、實に戰爭に依りて、其の生活に大打撃を受け居れり、恐くは、是れ東京市貧民全體の示せる現象たらんか。

一　戰爭と職業

先づ貧民部落に於ける職業の一般を擧ぐれば、萬年町の如きは、其の數最も多きは、人力車夫第一にして、次は日稼人足、職人手傳は第三位に在るべし、特に万年町は左官手傳の多きを以て、職人社會に名あり、同二丁目十八番地の鈴木某は、左官手傳の元締(所謂親分)なりとか、藝人は新網の特色たりしが如く、屑拾は、嘗て萬年町の特色たりしが、二三年來、漸次新入谷方面に移りて、今は數年前の如く多からず、尚、詳細に貧街の職業を擧ぐれば

土方人足、車力人足、下駄歯入、洋傘修繕、提灯職人、賣卜者、塵埃運搬、便所掃除、殘飯拾、馬丁、玩弄品製造、羅宇の管換、研物師、錠前修繕、蕎麥打、米搗、魚腸骨拾、井戸掘、餌掘、昆布刻、按摩、蓮根掘、

等は、其の職業の重もなる者なり、尚、以上の外に、多少商人の分子を加味せる職業は

硝子殼買、古下駄買、鍋焼饂飩、おでんかん酒、襤褸買、號外賣、空俵買、灰買、ハジケ豆賣、納豆賣、飴賣、お稲荷さん、風船玉賣、

等を重もなる者とす、前者は專ら體力を勞して賃銀を得、之は多少の資本を融通して、相當の潤益を得つゝある者、更に藝人及乞食に類する者を擧ぐれば、

大道手踊、猿廻し、托鉢坊主、門附三味線、葬式乞食、

等を擧ぐべきか、此の類は、万年町よりは、寧ろ淺草松葉町等に多きが如し、其の數は判然せずと雖も、本願寺及淺草公園を中心として、頗る多し、更に内職的職業を擧ぐれば

髪毛撰、足袋の底縫、煙草捲、髭直し、團扇張、團扇骨削、状袋張、鳥の羽撰、靴下縫、鼻緒縫、石炭殼撰、荷車後押、紙屑拾、楊子削、煙草吸口、木判刷、襤褸撰、

等、是れなり、以上の職業は、同町附近、山伏町、神吉町より松葉町一帶の部落に見受けたる職業別なるが、兎に角も、府下の貧民部落は、右の如き千種万種の職業に依りて、生活を營めるなり。而して今回の日

露戰爭は、右各種の職業に、如何なる影響ありや、と言ふに、人力車夫を初めとして、襤褸撰等の內職に至迄、戰爭に依りて、俄に其の需用を減じたるが如し、但し人力車夫の如きは、電車鐵道架設の爲に打擊せられたるにて、一に其の影響を戰爭に歸するは、速斷に失するのみならず、例年二月より四五月に至る間は、貧街の「不景氣時」なるが常なれば、今日の景況を以て、直に戰爭の影響なりといふを能はずと雖も、同じく不景氣を喞ちつゝありし昨年の二三月頃と比較せば、啻に人力車夫のみならず、各種の職業は何れも皆閑散なるを以て見れば、今日の不景氣は、其の幾分は、慥に戰爭の影響なりと言ふに、何人も異存なかるべし、人力車夫の如きは、一日五十錢を得る者、最上にして、普通は四十錢內外なりといふ、下駄の歯入の如きは、昨年の今頃は、日に七八十錢を得たりしに、今は二十錢乃至三十錢にして、然かも日に依り、三十錢を得るだも尙難きことありといふ、馬丁は景氣好し、屑拾は、若者は二三十錢、老人連は日に七八錢。

就中影響最も多きは、大道に屋臺を出して、飲食物を商ひ居れる「おでんや」の類にして、納豆賣の如きさへ、「商賣なし」と喞ち居れり、硝子毀買、古下駄買の如きは、相應に利益あり、次は物貰及藝人の類にして、何れも吐息を洩らしつゝあり。

加之、貧街に最も景氣を與ふる內職の減少は、最も渠等の痛苦とする所なるべし、目下深川倉庫に麥を入るゝに袋縫の內職に出掛くる者多し、煙草捲も相應に有り、唯、芝區等の貧街に比せば、村井及岩谷工場等に遠き故にや、多忙の程度低きが如し。

要するに、日清戰役當時に比せば、今回の日露戰爭は、貧民の生活に影響多く、窮迫の程度深きが如し、蓋し日清戰役の當時は、軍夫の募集盛んにして、俄に普通勞働者に減少を致せるのみならず、米麥等を入るる兵糧袋の縫仕事多かりしを以て、當時の戰役は、比較的に其の生活に影響なかりしが、今日は當時とは反對にて常に喧騷を極むる萬年町の裏路次も、寂として、大風の吹いた跡のやうなり、但し新聞を讀まざる渠等は、何處にて聞き知れる者にや、戰爭の模樣を一一記憶に刻みて、互に噂し合へるぞ不思議なる。

二　戰爭と住居

軍人家族の住める牛込四谷等の山の手は、開戰以來、家賃大いに低落せり、とは新聞紙の報道に依りて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

之を知れり、貧民部落に於ける開戰後の屋賃は如何、蓋し萬年町の如き、之を四五年前に比せば、非常に昂上し、曩日は表通は二圓内外、路次は一圓以内、八十錢位を通例とせるに、今や表通は三圓五十錢乃至四圓、路次は一圓八十錢乃至二圓、殆ど弱二倍の騰貴を見たり、收入低き屑拾の類が、一圓以下の新入谷等に移れるも、亦無理ならざる次第にて、今日萬年町等に住める貧民は、住居の爲に、其の收入の十分の一乃至二の高價を拂ひ居れる也、日清戰役後の如く好景氣なりせば、或は其の負擔に堪ゆべしと雖も、二三年來の如き狀態に在りては、到底堪ゆべきにあらず、然らば日露開戰後の今日、山の手の屋敷町と等しく、多少の低落を示したるや。

否。實情を白狀せば、余は世人と同じく、必然の結果として、貧民部落の屋賃も、低落したるべしと豫想せるに、焉んぞ知らん、一般社會と反對にて、貧民部落の屋賃は、今日迄は何等變動なきに、聊か意外に打たれたるなり、更に親しく渠等の間に入りて、其の語る所を聞き、ますます余輩の愚盲なるに驚けるなり、其の差配人の語る所を聞け、屋賃は下げやうにも、下げることは出來ませぬ、といふ、何故なりや、と質せば、私共の借家人は、何の奴も〱昨年の暮から、一厘だつて入れませぬ、と慨然たり。萬年町は差配に依り家主に依りて相違あれ共、屋賃の支拂は、十四日及三十日の月二回拂多く、中には日掛の方法を取れるもあり。

本所區等に散在せる共同長屋等の屋根代は如何なるべきか、變動の有無、未だ暇を有せざるを以て之を知らず、余は今後の屋賃の變動に十分の注意を拂はんと欲す、因に、萬年町の地價は、表通は一坪二十二圓にして、路次は十二圓なり。

三　戰爭と飲食

戰爭は、渠等の食物に如何なる影響を與へつゝありや、即ち戰爭に依りて、其の生活に窮迫を致せる渠等の食物は如何、余は先づ渠等が日々出入する某の米屋に入りて、其の近狀を質せり。

蓋し普通の社會に在りては、景氣の如何に依りて、其の食物に影響あるが如きこと少なしと雖も、貧民部落に在りては、景氣の如何は、食物の品質に大影響あり、例へば平日にても、三四日も雨降り續けば、其の求むる米及副食物の分量に相違を示すこと覿面なり、實例

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を擧ぐれば、萬年町附近の米屋は、大抵一日十圓以上の小賣あり、然るに雨降ると三四日なれば、直に其の賣上高減消し、一日漸やく二三圓に止まる、即ち渠等貧民は、降雨の爲に、十圓の需用を十分の三に減じて、他の食物を用ゐて、辛ふじて生命を維ぐ者とは知られたり、景氣の如何が、其の食物に影響あると斯くの如し、戰爭に依りて、職業を奪はれ居る渠等が、其の食物に於ける現狀は、如何なるべき。

余が入りたる米屋は、昨年の今頃は、一日平均八九圓の賣上ありしに、今日此頃は、僅に二圓内外に出でずと呟き居れり、甚しきは、雪降りし本月十三日夜の如きは、僅に十錢の購客一人なりしに過ぎざりしといふ、五錢、十錢、十五錢、と三十人乃至四十人の多數が群を爲し來るを常とせるに、雨降りつゞける擧句とはいへ、僅に一人しか米を購ふ者なしとせば、他の米屋に來らざる多數は、果して如何なる食物を得て一夜を過ごせるぞ。

併しながら、爰に戰爭に依りて、貧街一同が意外の賜物を得たる者あり、即ち渠等の間に「兵隊めし」と稱せらるゝ殘飯の供給多きと是れなり、四谷鮫河橋の如きは、兵營に近きを以て、常に殘飯を得るの便宜ありと雖も、萬年町附近にては、平日此の便宜少なし、然るに、開戰前後より日々二人の殘飯商は、四斗樽大の殘飯四五樽を荷車にし來りて、一錢、二錢、と需用者の求むるまに〱賣捌く、之を以て殘飯屋の到來する午後三時頃に至れば、彼方此方の路次より、面桶を携へたる老若男女、黑山の如く集りて往來を遮斷す、戰爭の庇陰は、異樣の邊に發揮せられつゝあり。

貧街の景氣は、能く質屋の店頭と、濁酒屋の繩暖簾の間に示さる、景氣良好なれば、賭博の資本を得んが爲に融通を質屋に求め、其の結果を繩暖簾の裡に示す、實に酒は、渠等の生命にして、有らゆる歡樂を飲酒の上に置く、然かも今日の渠等は、五錢以上の金錢を飲酒の上に拂ふ者なきぞあはれ〱、併しながら、時には六十の齡を越へたるよぼ〱の婆が、すと燒酎屋に入り、一杯三錢の燒酎（ブラン）をぐいと引ッかけ、白ろき歯を露はして、出でゆく氣まぐれ者もあり（三月十五日午後一時、万年町小學校筋向の燒酎屋に於ける所觀）

四　戰爭と融通

貧民の融通機關は、質屋也、日濟也、戰爭は一般金融機關に、多大の影響を與へつゝあり、知らず、貧民

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

部落の質屋に、如何なる影響かある。

今日萬年町一帶、山伏町、神吉町、車阪町界隈に八軒の質屋あり、其の資本の程度は、分明ならずと雖も、一年平均二万口以上の質物を取扱ふべし、萬年町二丁目の足立屋と呼べる質屋の如きは、日常取引する得意は、大約二千人あり、とは質屋自身の語る所、其の金高は、五圓以上に出づるは、殆んど皆無にして、多きも一圓內外、少きは五錢、十錢、先づ四十錢乃至五十錢は、最も多し、是れ硝子買等が、日々に要する資本の繁忙なるが故なると、今一ッは雨降りの爲に、業を操る能はざる場合に於て、米鹽の融通を質屋に求むる者多きが故なり、但し二三日雨續けば、漸次質草の出入減ずると共に、其の品質も、十錢若くは十五錢の小額に落つ。

今日萬年町に於ける質屋の狀況はといふに、前記足立屋の番頭は、「から如何(どう)も仕樣がありません、今日のやうな事は、今迄は見たとも聞いたともありません」と語りぬ、而して利子は、一圓に付二錢五厘なりしに、今や何れも法定の三錢に引上げたり。

唯、爰に多とすべきは、市中の質屋は、或家の如きは、入質を辭はり居る者ありといふにも拘らず、貧民部落にては、未だ一軒だも入質を辭はり居る者あるを見ず、質草の種類は、布團類最も多し、這は布團類は、晝間不用の物なるが故にして、朝之を入質して乃ち若干の金錢を得、其の日の收入に依りて、復た夕暮に受け出す者と知らる、質屋の土藏を瞥見せるに、綿のはみ出でたる布團は、山の如く積れて、累々たり、其の價格は、一枚に付高きも七十錢、低きは二十錢乃至二十五錢なりといふ。

質屋に次いで、渠等の間に行はるゝ融通方法は、日濟金なり、一圓の金額を借るに、天引二十錢の正味八十錢を受取り、一圓の證書を作りて、一日二錢宛、之を六十日間に支拂ふ者、即ち八十錢の金額に對し、其の半分の四十錢の利子を拂ふて、六十日間に辨償する貸借法なりとす、驚くべき高利にあらずや、貧民部落に住める程の者にして、日濟の金を借らざる者なし、其の費途は、生活の爲に餘儀なく借る者多しと雖も、或は又賭博の爲に其の資本を日濟金に求め、又は質物の流期來りて、其の利子支拂の爲に日濟を借るもあり。

之を以て見れば、貧民ほど常に多額の利子を支拂ひ居る者多からじ、即ち渠等は質利の爲に、其の物品は

二三に過ぎざれ共、屢次質屋の門を潜るが故に、一日或は二日の間に三錢を拂ひ、日濟の爲に毎日三錢以上（一人にして最低一圓なるは少なく、其の都度の利上の爲に、證書面は昂り〳〵て五圓乃至六圓、十圓以上に出で居る者も稀にはあらず）を拂ふが故に、一日五六錢宛を支拂ひ居る計算と爲る、僅に三十錢乃至五十錢の賃銀より、一日五錢以上の利子を支出す、渠等は純收入の十分の一乃至二を負債の利子に支拂ひつゝあるなり。之を聞く、目下万年町界隈には、日々三人の日濟屋出入し居れりと。

貧民部落の金融は、其れ斯くの如く常に頻繁なり、然かも開戰以後は、日濟の融通は全く絶へ、質屋の如きも、前記の如く未曾有の不景氣と喞ち居れり、貧街金融の逼迫、想像するに足るべし。

五　戰爭と教育

萬年町には、特殊學校と知らるゝ萬年町尋常小學校と、特志者渡邊六郎氏の創立せる協同夜學の二校あるとは、世人の知る所なるべし、戰爭は、此の貧民教育に與へつゝある影響如何、萬年町小學校長矢島某氏は、『一般住民の戰爭に浮かるゝは不可なり、戰時は、却て各々業に勵みて、節儉力行すべし』との方針を以て、其の兒童に對しても特更に戰爭類似の遊戲を禁じ居るは賞すべし、故に戰爭が、其の教育方法の上には何等の影響を見ると能はずと雖も、其の父兄の生活に影響ありしより、延ひて兒童の退學を見るは傷むべきなり、今、昨年七月調査に拘はる兒童保護者の職業を擧ぐれば

人力車夫	七十三名
手工（髮、藤細工、旅拵等の手工者）	二十一名
紙屑拾	十八名
日稼人足（日傭人足、車力人足、土方人足の類）	三十九名
各種職人（大工、左官、桶職、屋根職等）	十六名
露店商人	七名
玩具製造	六名
明き壜明き箱買	九名
飴屋かんちゆりん	五名
金屬職工	四名
新聞配達	三名
馬丁	一名
鹽煎餅今川燒の小賣	五名
下駄齒入	三名
雜種（傘直し、刃物とぎ、灰買、むきみ賣各一人宛）	四名

是れ午前通學の兒童父兄の職業にして、總計二百二十一名の調査に屬す、因に、目下同校の生徒總數四百

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二名なりといふ、之を以て見れば、其の保護者の職業は、人力車夫最も多く、次は日傭取、車力、土方等の日稼人足なるが如し、電車鐵道の爲に打擊を受け、更に戰爭に依りて職業を奪はれたる者の兒童の、通學に影響あるは無論の事なり、校長氏は、何故か其退學及缺席者數を明かさゞるが故に、果して幾何の影響ありしや、余は爰に數字を以て、讀者に其の程度を示すを能はずと雖も、影響ありしは爭ふべからざる事實なり、貧民政策に意を潛むる者、輕々に閑過せざらんことを望む。

萬年町小學校に、昨年三月より貯金の奬勵行はる、貧民の兒童に貯金を奬むるの可否は、社會主義者等に異議あるべしと雖も、余は、貯蓄思想の缺け居る貧民の兒童に、件の感念を與ふるは、貧民政策の一助なりと信ずるが故に、之を客觀的に觀れば、一種異樣の感ありと雖も、余は寧ろ之を賞美す、目下貯金總高四十七圓四十八錢七厘にして、其の人員は、百分の三十二、即ち四百二名の生徒中、百二十八名の貯金者あり、多きは一人にて二圓四十七錢、少きは十錢なりと。

* * * * *

戰爭と貧民部落に付、尙記るすべき事多しと雖も、暫らく爰に筆を擱くべし、終りに一言すべきは、戰爭と犯罪との關係なり、固より職業閑散にして收入なきに之れ依ると雖も、開戰後、飲酒の減ぜると共に、賭博に耽る者少きは著しき現象なり、飲酒と賭博とは、貧民に在りては、有らゆる犯罪の源淵なり、戰爭の爲に、生活に窮迫を示しつゝあるは、悲むべしと雖も、賭博等の減少せるは、喜ぶべし。(三月十六日、記之)

感化事業

西村眞次

▲人の本性の善なるか惡なるかは、われ之を詳かにせずと雖も、儻し『水は方圓の器に隨ふ。』との諺にして眞ならば、人がその交友により、境遇により、或は良き感化を受け、或は惡き影響を及ぼさるゝとは、疑ふべからざる事實に屬す。これ感化事業の起さゞる可からざる所以也。

▲歐米に於いては不具兒童の敎育に伴ひ、感化事業も亦夙に起されたりしが、わが國に在つては、明治十八年の比、佛蘭西メットライ感化院の組織を斟酌して、東京澁谷に一の私立感化院設立せられしが、次いで廣島、千葉、岡山、長崎などにも設立せられ、その事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

業、年一年に盛大に赴くの觀あり、いと欣ぶ可きと也。

▲かくて感化事業は衆庶の着目する所となり、近頃これに關する報導の、折々新聞雑誌紙上に掲載せらるゝを觀るに至りしも、何れもその外面的（エキスターナルサイド）方面をのみ觀察し、不良兒童の内部的（インターナルサイド）方面を窺はんとせざるは、聊か隔靴掻痒の感なきにしも非らず。予は今此の點について、研究の大梗を述べんと欲す。

（二）不良少年

▲單に『不良少年』と云ふと雖も、その性質、境遇、學力等には非常なる徑庭あるを以て、これを一纏めにして語るは聊か正鵠を失するの嫌あり。されども皆同一の系統を帶びて、同一の狀態にあるをは疑ふ可からざる事實なるが故に、玆には打して一丸となし、その概況を觀んと欲す。

▲第一に研究すべきは彼等の教育程度也。左表は明治三十三年度の調査にかゝる東京感化院の統計に依るものなるが、同院の收容兒童には比較的に富家の子弟多きを以て、教育の程度、他のそれよりも稍々高き觀あり。

教育程度（百分比例）	
○高等小學卒業程度	二九、七
○尋常小學卒業程度	二九、二
○中學程度	二三、九
○僅に文字を解し得る者	一一、六
○一丁字を解せざる者	二、九
○自己の姓名を記し得る者	二、七
合計	一〇〇、〇

▲第二に研究す可きは、かゝる不良兒童を養育せしものは、如何なる人々なる乎と云ふこと也。思ふに養育者の如何によつて、兒童の性行は或は善良に向ひ、或は邪惡に向ふものなれば、われ等は此の點に關して、最も深く意を致さゞる可からず。

養育者別（百分比例）	
○父母の養育せしもの	四五、二
○父一方のもの	六、二
○母一方のもの	一一、〇
○繼母	一四、九
○祖父母親戚	一六、四
○他人	二、四
○孤兒頼るなきもの	三、九
合計	一〇〇、〇

▲これに由りて觀れば、父母の共に養育せしもの比較

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的に多くして、百分の四十五、二に當り、他の繼母等の養育せしものよりも却つて、惡結果を示せるものゝ如きも、思ふにこれ等は愛情過度の爲めに、兒童の意志を薄弱ならしめ、疎懶や、放恣や、忌はしき習癖を釀生したるものなる可し。

▲これに反して繼母が兒童を養育するに當りては、世間への躰裁もあり、自己の少年に對する遠慮もあり、幾分か氣を注げる傾向あるを以て、惡結果の比較的に尠少なるを致せしものならん。若し夫れ孤兒頼るなきものゝ割合に尠きは、此の表を出せし東京感化院が、經費其の他の都合より、院費兒童を收容すること少きと同時に、孤兒の多くが養育院へ送附せらるゝこと多きを以てならん。

▲第三に研究すべきは、兒童が如何にして不良なる境涯に陷りしかと云ふ也。左表も亦東京感化院の統計表によりたるものなれば、これを以て總てを律すること能はざれども、尙ほ全豹を窺ふには足りぬ可し。

不良原因類別（百分比例）

○愛情の過度	二六、四
○冷淡の教育	一七、九
○朋友の不良	一五、三
○不詳	一二、七
○家庭教育の缺欠	一一、二
○不良なる遺傳	四、九
○生徒の不良	四、四
○地方風俗の不良	三、三
○苛酷の教育	二、〇
○妾腹に生れしもの	一、六
○無教育	、三
合計	一〇〇、〇

▲愛情の過度が、兒童をして不良なる境涯に入らしめたりとは、實に驚くべき現象にあらずや。苛酷の教育が百分中僅かに二、〇なるに反し、愛情の過度が二六、四を占め居ることは、如何にわが國の家庭が不完全にして、兒童に對する愛情がその度を過して、知らず知らず恐るべき結果を釀しつゝあることを窺知し得可きにあらずや。古諺の所謂『可愛い子には旅をさせよ。』とは、此の間の消息を傳へたるものにして、『蝶よ花よ』と、下へも措かぬやうにして養育するは、却つて兒童を良からぬ道に導くものに非ずして何ぞ。

▲冷淡なる教育が兒童に惡影響を及ぼすは去ることながら、朋友の不良が兒童に及ぼす惡感化の大なるは、極めて注意すべき價ありと云ふ可し。『朱に交はれば紅く

なる』と云はるゝ如く、或年以上の男子すら、その交友の善惡によりて、或は邪道に陷り、或は善德に向ふものなれば、况んや年齡いまだ壯丁に達せず、智、情、意、の發達充分ならざる時に當りては、感化影響の及ぶ所決して少なからざる可き也。

▲尙ほ、此の表中、地方風俗の不良なるもの及び、生徒の不良、朋友の不良、不詳なるものを除くの外は、悉とく保護者の失策に係るものにして、兒童自身が不良なる地を覔めて進むと云はんよりは、寧ろ父兄が彼等を驅り忌むべき不善の横逕に擠しつゝあるものなることを知る可し。これ世の敎育に志あるものゝ最も着眼すべき所にあらずや。

▲第四に硏究すべきは不良兒童の種類也。これに關する東京感化院の統計は、甚だ不瞭なるものゝ如し。殊に同院の生徒には、良家の子弟比較的に多ければ、以て證典とするに足らず、依つて試みにその種類別を擧ぐれば左の如し。

イ、父兄に棄てられしもの
ロ、勘當せられしもの
ハ、父兄の打擲に任へずして逃走せし者
ニ、繼母を嫌ひて逃走せし者
ホ、乞食の群に入り居りし者
ヘ、掏摸兒となり居りし者

▲こは感化事業に從事せし予の友人小石靑麟氏が實驗上より區別せし概梗にして、此の他尙ほ種々ある可しと雖ども、要するにその殆んど總ては、幼少にして、父母の膝下を離れ、飢渴暑寒の苦に堪へ得ずして、不良なる行爲を爲すに到りしものゝ如し。

▲これ等は皆第三の不良原因と關聯して起りし結果にして、苟且に附すべからざることなるが、中にも、常ならば浮世の浪風をすら知らざる可き兒童が、竊盜をなし、賭博を試み、白晝公道を横行して他人の物を掠むる掏摸兒となるが如きは、頗る關心すべきことには非るか。

▲彼等の父兄に棄てられ、勘當せられ、若しくは自ら逃走するや、その始めは泣きもし、悔いもすべし。然れども饑渴は彼等を迫害して免さず、暑寒は彼等を叱咤して許さず、味ふに食なく、服るに衣なき彼等は、勢ひ何處か如何にしてか其の衣と其の食とを求めざる可からず。是に於いて乎、彼等は趨つて乞丐の群に入る也。乞食はこれ一種の『盜賊候補生』にして、尙ほ未だ盜賊の資格を具せざるものか、假りに怪しげなる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

巢窟に集りて、盜賊の技術を練習しつゝある一階級也。彼等は日出てゝ食を市に乞ひ、一たび機會の鳥を捕ふるや、直ちに物品を掠めて去り、日入つては巢窟に歸りて犬の如く猫の如く、横臥し、睡眠す。かくて一歩を轉ずるや、彼等は忽ち掏摸兒の群に入る也。夫れ兒童は躰小さく、進退自由に、成人の己を輕視して油斷せるに附け込み、機を見て懷中の物品を掠め、或は釁を覘つて戶內に忍び入り、下駄、傘、外套等を竊取する也。感化院の一兒童、曾て予に語て曰はく、

私等は身躰が小さくて、思ふやうに動けますし、皆さんが小供だと思つて油斷してゐられるから、その隙を覘うてするのです。懷中の物では、時計や、巾着が一番すり易いですが、其の外のものは却々容易に掠れません。人込の時なぞには、私は隨分下駄を盜んだものです、その仕方は、惡い下駄を持つて行つて、善い下駄と穿き替へさせるのですが、始めに人の足袋と下駄との間に石を入れ、穿き難くさして置いて、一寸と脫いだ時に惡いのを穿かし、善い方を持つて逃げるのです。

と、而して彼等には皆親方あり、兒分あり。親方や兒分は、皆絕對無限の權力を有し、手をあげて一たび指揮する所あれば、群兒皆唯々としてその命に從ひ、かくして働きて得たる收入の過半を親方兒分に致し、自己は僅にその幾分を受くるに過ぎず。

▲彼等又皆な賭博をよくす、その親方や兒分やは措いて問はず、六歲乃至十一二歲の兒童相集まりて一錢二錢を賭し、時としては十錢二十錢をも張るとあり、而してその賭博方法は、重もに『茶碗伏せ』也と云ふに到つては、豈寒心すべきことにあらずや。

▲第五に研究すべきは、これ等兒童の嗜好也。嗜好を以て彼れ等の感情の歸趨を知り、彼等の意志の如何を窺ふに足るものあれば也。樂觀的の人が、花紅に葉綠に、蝶舞ひ鳥謠ふ春の景色を愛て、悲觀に傾き易き人が、枯草悲風、蕭索たる秋の光風を愛すると一般、彼等は、彼等特有の嗜好を有せり。今試みに彼等の中或者の嗜好の好惡を示さん。

不良兒童の嗜好

種類	好	惡
○色彩	黑、鳶、茶、	赤、白、紫、
○天候	曇、雨、風、	晴天、雪、凪、
○時間	夜、夕、	朝、晝間、
○動物	鼠、猫、梟、	犬、雀、鷄、

○人間	小僧、田舎者、婦人、	巡査、男子、
○服装	和服、	洋服、
○場所	家中、林間、山中、	劇場、戸外、野原、

(東京感化院生徒、花分養陳述)

▲これ素より一人の嗜好なれば、以て一般を推すること能はざる可しと雖ども、これに由つて全體の嗜好を推知するを難からず。尚ほ一二院生に尋問せし際にも、彼等は色彩は暗黒なるもの、天候には曇天、雨天等を好む旨を答へたり。又、彼等が場所として家中、林間、山中等を好み、戸外、廣ツ場、野原を厭ふが如きは、少しく異様の感ありと雖ども、その實彼等は本來の嗜好として寂寞なる場所を好める也。その人馬喧鬧し、肩摩轂撃する土地を喜ぶが如きは、職業上止むを得ざる一時の現象にして、決して彼等の本質にあらざるを知る可し。

(一二)感化の結果

▲如上の現象を見れば、感化事業の必要なることは、自ら明白となる可し。先年『感化法案』なるもの議會に呈出せられ、一府縣毎に一感化院を設置せよとの議起りしも、そは不幸にして否決せられたり。然れども事實上、必要に迫られて、感化事業の勃興しつゝあるは、頗る喜ぶ可きと也。

▲而して感化の結果は如何、今某感化院のものを標準として、この感化の成蹟を調査すれば、實に左表の如し。

感化成蹟表(百分比例)

年齢	好成蹟のもの	結果不良のもの
○十五才以下	七五、	二五、
○十七八才の者	五五、	四五、
○十九才以上	三五、	六五、

これに由りてこれを觀れば、十五歳以下の者に在つては、その成蹟頗るよく、年齢の次第にまさるに從ひて、感化の功力の次第に薄弱となるを知る可きと同時に、幼少なる時期の教育の、最も注意すべきものなることを知り得可き也。

▲次いで研究すべきは、感化後の職業也。東京感化院は在院期を三箇年とし、その間に於いて感化の實功を奏せんと期し、家族的制度を取りて教育しつゝあるが、その結果は比較的に良好なること前述の如し。今その退院後の院生が就職せし業務に關する統計表を示

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すこと左の如し

○商業に從事せしもの	三七、
○中學校に入りし者	三七、
○小學校へ入りし者	一七、
○商店に雇はれし者	一六、
○農業に從事せし者	一六、
○活版職工となりし者	八、
○專門の學科修業の者	七、
○兵卒となりし者	六、
○洋行せし者	四、
○銀行會社に入りし者	四、
○巡査となりし者	四、
○陸軍下士となりし者	三、
○官衙に奉職せし者	二、
○軍屬となりし者	二、
○鐵道會社々員	二、
○新聞記者	二、
○足袋職となりし者	二、
○美術學校に入りし者	二、
○村役場員となりし者	二、
○藥學校に入りし者	二、
○魚商となりし者	一、
○鐵道馬車々掌	一、
○小學校教員	一、
○商船機關手	一、
○醫學生となりし者	一、
○農學校生徒	一、
○商會副支配人	一、
○印刷職に從事せし者	一、
○機械職工と成りし者	一、
○造船職工	一、
養育院へ歸りし者	一、
○染物業を營む者	一、
○漁業に從事する者	一、
○郵便局員となりしもの	一、
○鑛山事業に從事せる者	一、
○音樂教師となりし者	一、
○區役所に通ふ者	一、
○業務未定の者	六三、
○不明の者	三、
合計	二五八、

▲此の中業務未定の者を除きては、中學生となりし者及び、商業に從事せし者最も多く、その數各々三十七を以て算ふべく、これを總數二五八に對比すれば、優に七分の一弱に當れり。其の他社會に立ちて好地位を占め居る者少なからざるより見れば、感化事業が如何に成功の曙光を認めつゝあるかを知るを得可し。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



電報論

前田三遊

世間放心の徒多し而して一事苟くもせざる者に至りては則ち晨星の寥々たるを見る、宜なり人を同じうし事を同じうせるも猶毎に同一の誤謬を繰返すとの多きや、想ふに今日見聞する幾多の過失も若し稍々當務者の用意をして周密ならしむるに於ては其數を減少すると著しき者ある可し、電報の如きは尤も然り。

余は平生新聞紙の編輯に從事しつゝ電報の飜譯をなすに當り其字句の不明なるものに遇ふ毎に考思を費すと尠からず、乃ち以爲らく或る當務者の些少なる不注意も其影響する所小ならずして爲に手數と時間とを徒費せしめ電報の如きは時に或ひは料金を空消（意義の不明なるため）せしむるに了るとなきを保せずと、余は由て以て電報に關し特に多くの注意を喚起したり、是れ電報論を草して當務者に警告せんとする所以なり。

今それ事の電報に依る者は概ね急速を要すると同時に緊切なるものに屬す、而して急速と緊切とは毎に其必要の程度に於て殆んど擇ぶ所なきも若し事の全く通じ難き場合ありとせば之を明瞭ならしむるため多少遲緩なるを致す憾あるは寧ろ恕す可きなり、故に電報に依りて或る通信をなす者にありては急速の二字を心に記するが如く又决して緊切の二字を忘る可からず、蓋し此事は緊切なりとの觀念は其用意をして周密ならしむるものなればなり。

然れども世人の多數は此に顧みる處なく唯「急速を要す」との一念に驅られて忙心思ふに任せ忙手書くに任せて咄嗟に事をなし了り以て其責任を盡し得たりと信じ而して其急速を要する事務は必らず緊切なるものたるを顧はざるに似たり、要するに是れ概ね其責任を重視せずして徒らに輕浮に流るゝの致す所なりと雖も抑も又執務の方法に於てまだ攻究の足らざる所あるに由らずんばあらず。電報の如きは殊に然り。

勿論普通の電報に於ては一二字の相違に由り甚だしき誤解を來す場合多からずと雖も而も猶「アガル」「サガ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ル」は一字の相違にして毫釐千里を誤るの虞れあり況んや毎に尤も誤謬を生じ易き暗號電報に於てをや。

試みに今日通信社の使用せる暗號電報に就て之を言へばチとケ、ヌとス、ユとコ、ヤとカの如き紛はしき文字の相違せるときは其意義遠く隔たれるため殆んど之を想像すること能はず、特に其誤謬の一二字に止まらざるときは爲に全體の意義不明に終ることあり、然れども斯の如き類字の相違は概ね發信者の不用意より生ずるものにして尚比較的に想像し易きものに屬するも其當局技手の手に生ずる誤謬は斯の如く想像し易きものにあらざれば素人の尤も了解に苦しむ所なり。

然れば則ち今日の如く急速にして緊切なる戰報其他重要なる通信多き時に當り當局技手として之を取扱ふ者は特に用意周密なるを要するのみならず發信者に於ても字體及意義を明瞭にし勉めて累を當局技手に及ぼさゞらんことを要す、尚今日通信社等に使用せらるゝ暗號は甚だ不完全にして

(一)暗號の內容貧しき事。

(二)暗號に引當たる冗語多き事。

(三)暗號中「肯定」の語と「否定」の語とを一列に置ける事(是が爲一字の相違に由りて非常の誤解を來し爲ルは爲ズとなり出ルは出ヌとなるが如き事多し)

(四)暗號の組立宜しきを得ざる事。

(五)暗號の繰出し不便なる事。

等種々の缺點あり、今之を逐一討究するときは優に一冊の「暗號學」を組立つることを得可し、今日使用せらる暗號斯の如くなれば暗號の便利は尚一般に承認せられざるが如し、想ふに若し一般に之を承認せらるゝに於ては今日の如く之が考究を疎外せざる可き筈なり、余は先年 Art of advertising の考究に志ざし初めて「廣告學一斑」を述作するや爾來「廣告術」「廣告利用法」等の著書續々世に出づるを見しが若し今後これに由りて聊か世人の注意を喚起し又「暗號學」の世に出づるあらば獨り余の幸のみならざるなり。

▲軍債募集の成功

橋南子

「スレッドニードル街の老婦人」なる綽名を得たる英蘭銀行が英國政府の爲に南阿事業公債三千萬磅を募集せんと欲して之を市場に告知するや、其應募額忽ちにして十一億七千四百萬磅の多きに昇りたりき。之を思へば、今我國が一億圓の軍債に四億五千萬圓の應募額を得たりとて敢

て騷ぐにも當らざる次第なれども、我國と英國とは財政の狀態自ら異るものあり、英國は多年の風霜と經驗とを積みたる老大國也。我國は世界の競爭場裡へ乘出してより未だ五十年に充たざる後進國也彼を以て直に此に比較すべきに非ず我國にて一億圓の公債に四億五千萬圓を得たるは先以て近時快心の大成功と爲さざるべからず。聞くが如くんば日本銀行にて去る十日各地よりの電報悉皆到着し、應募總額明瞭となりたるときは、綿貫課長を首め掛員一同思はず帝國萬歲を絕叫したりと固に左もあるべき事也、是より曩き政府が未だ軍債募集の議を發表せざるに當てや、人皆思へらく、財界の信用薄き曾禰男の大藏大臣にては效果を擧ぐるを到底覺束なからん、松方伯井上伯の中一人を立たしむるに非ずんば方今の事遂に爲すなき也と。然れどもこれ所謂杞人の憂に過ぎざりき。曾て屢々一致協力の精神を缺くとの非難を海外より受けたる我國民は必しも其然らざるゝとを實際に證明するを得たりき、賀せずして何ぞや。

然矣軍債募集の成功や賀す可し、賀すべしと雖、之に依て吾人は果して何者を贏ち得たりしとするぞ。夫れ國家一朝危急存亡を問ふの秋に當りては、國民はよろしく凡ての物を献げて國家の犧牲となすの覺悟なかるべからず。軍債の募集に應ずるが如きは素とこれ當然の報公耳。何ぞ誇るに足らんや、何ぞ榮譽となすに足らんや。且夫れ國家自身より之れを見る、汎く民間に散在せる零細の資金が集りて巨額となり、以て國庫に入り來れりといふのみ。敢て國富の增進したるに非る也。敢て生產力の膨脹したるにあらざる也。國民にして若し軍債の募集に應したるを以て衒に誇となし、榮譽と爲し、我能事こゝに了れりと考ふるが如きとあらんか、邦家の前途や知るべきのみ。吾人は國民が此際一杯の冷水を頭上に注ぎて默想三度せんことを要請せざるべからず。彼の干戈を手にして輸贏を天下に爭ふもの別に軍人のあるあり、今國民の責務として吾人



の造次顚沛一日も忘るべからざるは各自其職に忠實なるに在り、勤儉力行以て國民の生產力を增進するに在り。平凡也と言ふを勿れ、斯の平凡なる事が最も行はれ難きにあらずや。戰爭は財富の蕩盡也、巨大なる財富の蕩盡也。國民たるもの從來十時間働きたるものは十二時間働き十二時間働きたるものは十四時間働き、以て戰爭の結果失ふ所を生產力の增加を以て相償ふにあらざるよりは到底永續に耐ゆべからず、來るべきものは破產あらんのみ、亡滅あらんのみ。國民の勤儉力行は其效果實に戰勝の效果と相若く。見よ、普佛戰爭に於て佛軍の敗衂は殆ど眼も當てられぬ有樣なりしが、佛國々民の報仇に熱心なる勤儉力行孜々として生產力を增進し、比年ならずして其富能く普國を凌駕するに至りたるにあらずや。國民の生產力にして大なれば戰勝固より可也、戰敗亦必しも深く念となすに足らず。生產力なる哉、生產力なる哉、俗諺に曰く「無き袖は振られぬ」と、生產力にして大ならずんば軍債の募集も亦如何ともするなきに非ずや。



讀者之文壇

韓人の對日觀念

東洋隱士

日韓兩國が從來最も密接の關係を有したるは言ふまでもなく、日露兩帝國の開戰と共に、日韓協約新たに締結せられ｜以來、更に數層緊切の關係を生じたり、想ふに帝國政府の韓國に對する今後の措置は、蓋し大に見るべきものあらん、然れども今茲に多數韓人の對日觀念如何を紹介し、以て我朝野人士の參考に供するは、必しも無益の業に非るべし。

（一）韓民の對日觀念

邦人動もすれば曰く、韓國の獨立を始めて宇內に紹介したるは我日本なり、故に韓國の能く獨立國たるを得たるは我日本の賜ものにあらずや、然るに韓民の我れに對して亡狀なる、一に何ぞ此の如きと、然れども古來滿韓朝廷の下に殆んど附庸視せられ、而して永く其頽靡たるに甘んじたる多數の韓民は、國家の獨立と否とに依りて、其の生命財產若くは利益安寧の上に格別の影響を見ざりしが故に、國家の獨立を以て必しも榮譽と思惟せざるのみならず、其後日本人を始め幾多の外人入込み來るを見て、其の從來服從せる所の所謂大國人即ち清國人の勢力を嫉視して、之を排擠せんとするものなりとなし、却て邦人に對して敵愾心を惹起し、清國官憲若くは其黨與の煽動に依りて、屢々在韓邦人を虐殺し、甚しきは我公使館を襲擊するの暴擧を演ぜしに非ずや、要するに彼れ多數の韓民は、韓國が日本の紹介によりて獨立國と爲りしを以て、自國の利益と思惟せんよりは、寧ろ日本其れ自身が韓國に於る清國の勢力を打破するの策に出でたるものと爲し、毫も日本を德とせざるもの丶如し、而して是等韓民の本邦に對する觀念は、今尙ほ之と相髣髴たるものあり。

邦人又動もすれば曰く、帝國が日清戰役に於て幾多の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生命財産を犧牲に供したるは、畢竟朝鮮の獨立を實にせんが爲めのみ、故に韓國の日本に負ふ所實に莫大なるに、韓民の我れに對する、何ぞ爾く冷淡にして且つ亡狀なるやと、然れども多數の韓民は、日清戰爭を以て日本の自衞上己むを得ざるに出るものとなし、之を以て特に韓國の爲めに恩義を施したるものとは解せざるが如し、故に相當の智識と地位を有せる或る韓人は、嘗て冷然邦人に語つて曰く、我朝鮮國は開國以來曾て眞正に獨立したることなし、隨て我々祖先よりして今人に至る迄、國家の獨立といふが如きことは、恐くは曾て之を夢みしことだもなからむ、否、或る强大國の力に依りて國運を支持するは、朝鮮開國以來の國是とする所なり、然るに貴國政府が突然弊邦に與ふるに獨立の名義を以てせしは、我々朝鮮人の寧ろ意外とせし所にして、其後貴國を始め各外國の公使領事館設立せらるゝに及び、弊國政府は却て其應待の頻繁を加へたるに苦惱し、我々人民に至る迄、亦各外國人の機嫌を取らざるを得ざるに至れり、豈に在昔獨り清大國に事へたるの簡にして便なるに如かんやと、嗚呼是れ實に多數韓民の衷情を曝露したるものにあらずや、況んや多數の在韓邦人中、動もすれば日清戰勝の餘威に乘じ、驕傲暴慢、以て彼れ韓民に臨む者なきにあらざるに於てをや、其の我れに對するの情知るべきのみ、尤も多數韓民中固より多少我れに好意を表する者なきにあらずと雖、畢竟するに其好意の深淺は、利害關係の厚薄如何に在ることを忘るべからず。

（二）韓官の對日觀念

然らば韓官の我れに對する觀念は如何、思ふに單に韓官と云はゞ、頗る漠然たるが如しと雖、之を近年韓廷樞要の地位に立てる者及其黨與の行動に徵すれば、蓋し思ひ半ばに過ぐるものあらむ、蓋し彼れ韓官中果して帝國が韓國の獨立を宇內に紹介したるを以て、衷心眞に歡喜の感に打たれつゝある者ある乎、日清戰役の結果に依りて韓國の獨立を實にせらるゝを見るに及んで、果して帝國の好意を德とせし者ある乎、吾人を以て之を觀れば、多數韓官の我れに對する觀念は、亦猶韓民の我れに對するものと殆んど同一なりと解せざるを得ず、若し彼れ重立ちたる韓官にして苟も我れを德とするか如きことあらんには、日清戰役前の事は姑らく措き、其以後に於て、爾く屢々排日運動を試むるが如きことはなかるべし、殊に帝國と最も利害の關係を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

異にせる露公使と相結托して、日本人排斥を唱導するが如きことはなかるべし、所謂る露國黨若くは其一派の屡々政權を掌握して、日本的勢力の發展に幾たびか大打擊を加ふるが如きことはなかるべきなり、勿論其の所謂る露國黨といひ、佛國派といひ、將た日本黨といふが如き、必しも一定の主義に據りて團結せしものに非ずして、概ね皆一時的利害の關係に依り聚散離合するものなるが故に、嘗て露國黨の首領を以て目せられたる趙秉式若くは閔種默等の、却て著しく日本側に接近し來るが如きことあると共に、近く日本黨を以て稱せられたる者の忽ち露佛派と相提携するが如きは、敢て珍しからず、要するに彼等の多くは、國家の安危存亡よりも寧ろ一身の利害得失に餘念なきが如きは、其の年々歲々走馬燈的政權の爭奪をのみ事とするによりて、之を推知するに難からず、されば其國家の獨立に對し、帝國を德とするが如き念慮ある者は極めて少數にして、且つ其念慮の頗る微薄なるのみならず、日清戰役以來、帝國爲政者が眞面目に韓國弊政の革新に力を盡したるが如きは、彼等の頗る蒼蠅さしと爲せし所なり、何となれば、彼等は所謂る弊政改革を以て內政の干涉と爲し、却て其感情を害したるのみならず、眞面目に一切の弊制改革を勵行せらるゝが如くんば、遂に其私心を逞ふするの餘地なきに至ればなり、是れ彼等が事每に我れに對して敬遠主義を執るに至りたる所以なり。

（三）韓帝の對日觀念

然らば韓皇帝陛下の我帝國に對させ給ふ御觀念は如何、九重雲深きの處、吾人の容易に窺知る所に非ずと雖、之を既往の事實に徵すれば、蓋し思ひ半ばに過ぐるものあらむ、然れども韓民一千萬人中眞正に國家の獨立を以て念と爲す者、恐くは陛下を措て又之を索むべからず、假令ひ或は之れありと雖、極めて其少數者たらんのみ、唯夫れ韓は由來一小弱國なり、而して强國の間に介在して國家の運命を維持せんとするもの、固より容易の業に非ず、故に齊に事へんか將た楚に事へんかは、韓帝の日夜軫念あらせらるゝ所、則ち其外交方針の往々にして朝變暮改の事あるか如きは、蓋し韓帝の御立場として誠に已むを得ざる所ならむ、吾人は深く陛下の御苦衷を察し奉らざるを得ず。

之を要するに、從來多數韓人の我れに對する觀念は概ね此の如し、吾人は此際深く韓帝陛下の宸襟を安んじ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

奉らんことを希ふと雖、一面には又多數韓人の意嚮如何を察せざるべからず、嗚呼徒らに領土の保全と主權の存在を認むるのみに於て、彼等豈に深く我徳を謳歌する者ならむや。

短文

●和洋料理に就て

▲朝と晝とは西洋料理を食て、晩には日本料理の膳にすはつて一杯を傾けたい。（飲食道樂生）

●僕は食物かけては大の慾張りて、日本料理ばかりでも滿足が出來ないし西洋料理ばかりても亦慊らぬ。僕の妻君志望者は必ず和洋兩料理の學校を卒業してから出願し給へ。（今業平生）

▲西洋料理を食に行くと、ナイフやフォークが皿にあたつてガチヤン／＼と音がするし、食ひ終らぬ中にボーイ先生傍に扣へて督促然たる顔をして居るので、田舎の淸水て鍛へた鐵面皮の僕も流石に汗が流れた。二度と行くべからざるは丹後の宮津ばかりてない。（東京初登り生）

●西洋料理は電車て、日本料理は河舟である。一は飽くまでも實用的て、一は主として娛樂的でなければならぬ。一は滋養か多くつて、手取り早くつて、食物本來の目的には叶ふが風流的韻致に於て缺くる所があり、一は食物本來の趣旨を脫却して寧ろ美術的、装飾的域に入つて居る。互に長所短所があるから二つともに其儘に進歩させたいものだ。白でもなく、黑でもなく、極めて曖昧な鼠色的の和洋折衷とかは平に御免を蒙る。（ＴＴ）

▲世の實務に當らんとする人は宜しく西洋料理を食ふべし。文學家、美術家たらんとする人は必ず日本料理を選ばざるべからず（小川淡々）

●嘗て尾崎行雄氏の説に曰く「肉食の人と菜食の人とはまるで頭腦も考も違つて居る。肉食ばかりして情慾が強く、精力が溢れて居る西洋の詩人や哲學者の思想感情が、多く菜食をして淡泊な、根氣のない日本の文學者などにどうしてわかろう筈がない、僕に極言せしめたならば、日本が肉食國とならざる上は斷じてカント、ヘーゲル、バイロンなんかはわかるものではない」と實に味ふべき言てある。釋迦は勿論、西行や、芭蕉の味が西洋人にわからぬのも大に食物に關係する。（生理的心理學研究生）

▲西洋料理を食はゞ築地や、帝國ホテルや、精養軒に行くべし。日本料理を食はゞ八百善に行くべし。蓋し物の眞趣を知らんとすれば必ず先づ其尤も勝れたるものによりて研究せざるべからざればなり。（大理屈家）

●僕はどつちでもよいから口ハで御馳走になりたい。（喰辛棒）

▲珍々鴨鍋てな、乙なのが、西洋にもありましようか。（色男）

●日、天麩羅、　西、フライ、
　吸物、　スープ、
　鰻の蒲燒、　蛙のスチウ、（統計學者）

▲ライスカレイは、薯汁飯の、料理法の異て、猶一段進歩した者だ。（發見家）

●豆腐料理の樣な、淡泊で、趣味のあるのが、彼方にもあるか知らむ、（老人）

▲カキのフライは、箸でやる方が喰ひ易く、奴豆腐は、ホークの方が、都合がよく御座る、（兩刀遣）、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●外見上、日本料理の方が、多少美術的である、（美術學校生徒）
▲痩せてる友人が、西洋料理を食て、肥て見せると、云ふてる、（同伴者）
●鯉の生造りは、頗る惨酷な者だ、（佛性）
▲西洋人へ、鯛のぬたを食はしたら、どんな者だらふ、（板面者）
●西洋料理とか云ふ甘いものを、一生の中にせめて一度でもよいから、食ふて死にたいものだ、（乞食）
▲日本料理刺身、大變辛いあります、私食ひません、（世界漫遊者）
●西洋料理じや飲めねえ、（江戸ッ兒）
▲あゝ御刺身と、蒲焼が食ひたい、それから丸山の芋の御汁。（モルガン夫人）
▲曾て「新小説」に出た島村抱月氏の洋行日記を見たら、シンガポールでゝあつたか、上陸して日本食を認めた。其の折りの胡瓜モミの味今に忘られずと言つてある。之れさもあるべきことだ。
▲榎本武揚さんは新内や清元が御上手で、毎晩刺身でチビリ／＼とやらかしながら、ウナルのださうだ。
▲僕は何時か西洋に行くことがあるであらうが、其の時日本の香の物を思ひ出して、ホーム、シツクを起さればよいがと思つて居る。
▲大廣間に腰掛、食卓て、白衣の給仕が獣つてサッ／＼と立働くのは幾何學から打算して居る。六疊の小座敷で女中を相手に地口、讀洒落を叩くのは浮世草紙の類だ。
▲故人紅葉山人の曾に曰はく「香の物は甘いのが好い」。
▲鷺見柳之助の如き人は西洋料理を愛し。葉山誠哉の如き人は日本料理を愛す。但し口取りを好む女は眞の女性なり。
▲湯豆腐に熱燗の俳味は發して日本の國民の繪畫、彫刻ともなり、文學、詩歌ともなり、音樂ともなり、更に武士道ともなる。
▲何時か、讀賣新聞に載つた、「松菊餘影」の中に、岩倉大使洋行の途中て、面白い話柄のあつたことを書いたのを見た。何がさて明治初年の洋行とて中には色々な英雄豪傑も居れば、當時のハイカラ先生もあつて、赤髯の手前、不器用な態をしてはならぬとの注意おさ／＼粗かでなかつた。之れには舊幕臣の男にチャルピンと一切彼方の作法を心得たものがあつて、万事其等の禮儀を傍習にして指示すことゝした。處が一行の中例の薩摩の村田などゝいふ豪傑など、故意とホークやナイフを噛み折り、ズウ／＼大きな音を立てゝ汁を吸ふ。口には一杯頬張るといふ有様、随分と面白いことがあつたと書いてある。
▲僕は西洋料理を食つて歸つた時は、必ず香の物の茶漬を食ふ癖だ。
▲妙なもので、國風氏ゝと申すものは爭はれないものだ。バイオリンやピヤノはフライやビフテキに酷似して居る。刺身、照焼、酢の物は即ち三味線の趣がある。
▲東京に居るものゝ中で、食物（和洋の別）の上の保守黨は舊江戸つ兒だ。
（以上十一件礫川茶人）
●西洋料理はビーフテーキ、日本料理はテリ焼で、一杯やるにはお刺身だ。
（陽氣生）
▲婚姻養老等の日本的祝典の席は日本料理に限る。或程度迄の冗慢及喧噪は其特色で、和氣此處に生じ、歡笑これに因する譯である。西洋料理は簡にして滋養に富むが賞味され、殊に多忙なる人々の會食に便宜である。
（和洋外史）
●蠻氣獸力を得んと欲せば且らく西洋料理を食ふべく。仙骨靈身の宿らんことを願はゞ宜しく日本料理を取るべし。殊に菜食甚だ可なり。
（仙氣靈力生）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲妾れ痛餘やキントンをどつさり頂くと胸が支へる樣に思ふけれども、西洋料理たとお腹へ一ぱい充めても胸やけなんかしないわ。（お食孃）

●刺身に生臭きを唧つ者は、日本料理を語るに資格なく。ビフテキの赤き汁に驚く者は、未だ西洋料理を味ふの餘裕なきものなり。（食辛防）

課題

▲兵士の老父母（四月十八日）

▲風呂（五月十八日）

新刊批評

▲逆境の恩寵

德永規矩氏遺稿　警醒社發行

之れは德永規矩といへる人の遺稿なり。故人の緒言に曰はく、

一、患難を嘗めし人の事蹟は、患難に居る人を慰め、困苦を受けし人の經歷は、困苦に陷れる人を慰むるは、蓋し一般の人情なるを信ず。今予が不文の筆を執りて、恥かしき我が生涯の狀態を寫すも、亦此人情に從ひ、我と境遇を同ふせる憫れなる同胞に向ひて、一片の慰藉を呈せんと欲する微衷に外ならず。

一、神は我等が諸般の患難の中に我等を慰め給ふ、是れ我等をして神の慰め給ふ安慰を以て、又諸般の患難に處る者を慰むる事を得せしめん爲め也（哥後一章四節）。故に予は我等に與へられたる神の恩寵を、已れ獨り敢て私すること無く、之を同胞兄弟に頒つは、即ち我に命ぜられたる職分なりと信ず。

一、病床仰臥のまゝ執筆自由ならず、時に或は左右に命じて予が述ぶる所を筆記せしめ、又或は病魔の襲擊を受けて、偶々述べんと欲し居る思想をも往々奪ひ去らるゝこと少からず。故に或は文意斷絕して、之を讀むに恰も荊棘を探るの思ひあらん。夫れ既に然り荊棘叢中豈固より無花果あらんや、されど荊棘も亦採りて以て夫の酷烈なる世路の風霜に惱まされ居る人の爲に、一點の微溫を呈するの薪と爲さるゝを得ば、實に著者の大幸なりとす。」と一讀すればまた得る所あるべし。

（定價四拾錢）

▲平民新聞

同社發行

「平民新聞」今日の言論態度を稱して或は非難するものあり、或は稱揚するものあり。然れども要するに何うでもよき事なり。到底惡いことをしたからとて「二六新聞」ほどの無茶も得爲まじ。唯其の正直は賞すべけれども、ホンノ愚痴、女の腐れた奴の泣文句に過ぎず。疑ふて見れば「僞善の行爲」とも見ゆ。露西亞社會黨の名士「ヘルツェン」の日はく、社會問題は畢竟消化の問題なりと。平民新聞を見れば滿紙人の寶を羨む下卑根性歷々たり。獨逸の或る一少女が一朝立ろに八十万圓の財主になつて、其に使はれる男子に錢が澤山無からうが何うだらうが入らぬ心配だ。

▲體育

同會發行

劈頭宮田修君の「戰爭に對する吾人の覺悟」と題する論文あり。最も中正穩健の趣意なり。

▲宗教小觀

高木壬太郎氏著　敎文館發行

著者序に曰く、「題して『宗教小觀』と云ふ。是れ著者が最近一二年間に於ける宗教上の論文を蒐輯せる者也。片々の文字初めより順序を追ふて作れるものに非ず。然れ共無順序の中又自ら順序なきに非ず。之を讀まば宗教の本義を知り、靈的修養に資するに於て少補なくんばあらず。書中平凡の思想はあらん、然れ共病的、不健全の思想は之れなきを期す否、勉めて病的、不健全の思想を排斥し、宗教に關する正當の見解を與へんとは著者の志願也。書中哲學若くは神學に關する議論なし。是れ著者が他日別に一册となして世に問はんと欲する所也、」と。

（定價拾八錢）

▲社會主義入門

平民社同人編

平民社同人諸氏が各項を分擔して、社會主義の何たるかを平易に解說したるものなり。曰はく

共同生產、階級戰爭、社會黨の運動、社會主義のイロハ、社會主義と中等社會、社會主義論。なり。

（定價拾錢）

▲朝星夕星

嚴谷小波山人編　博文館發行

世界お伽噺の第五十五編にして、今更申すまでもなき面白い本なり。

（定價八錢）

▲帝國文學 第拾巻第三

帝國文學會

例に依りて「野の人」「天聲」など老文豪の言論和平なり。

▲討露の歌

戸谷薫香著　大明堂發行

著者の自序に曰はく、「自然と言ひ人生と言ふ實に之れ汝の存在を認むるに於て始めて意義あり光彩あり波瀾あるものなり故に若し汝の存在を認めざらむか之と同時に是等一切は皆、盧に歸し無に返る一國の安危は實に牽いて此貴重なる汝が一生の安危に關はるに非らずや、此處に於て始めて戰は意義あるなり天與の武器たるなり、理は奈邊に存するとも人生進化の途上必ずしも此一階段を經過せざるべからざるを如何せん、血飛び骨碎くるの慘劇誰か好んて之を爲さむ唯止む無き所以のものは悠遠崇高なる天地の意義が此間に含まれつゝあれば也。

今や日露交破れ千載一遇の一大活劇は當さに眼前に開かれ砲煙彈雨天に轟き地に響き男子劍を拔いて遙かに滿州の天を睥睨する時、滿腔の意氣發して終に此一曲の悲歌となる措辭素より序を成さず三軍の士氣爲めに動くに足らずと雖も韓山野營の夜、黃海拔錨の朝、劍を撫し舷を敲き故國萬民と相共に壯吟快誦の料となすに足らば望み之に過ぎずと云爾。」と樂譜を付けたれば便利有益なり。

（定價金五錢）

▲婦人界 第三巻第三號

金港堂發行

上博士の「女性と宗教」有益なる談話なり。

▲新小說 第九年第三巻

春陽堂發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鏡花の「紅雪録」あり。久振りにて鏡花のに接す。島村抱月の「アーザンクのダンテ劇」最も精細鋭利の批評文なり。上田敏氏の「文學者と讀者」是れはた流石に雅健鋭利なる批評談なり。

▲外交時報第七十五號

早稲田大學内　外交時報社發行

有賀博士の「半月外交史」渡邊文學士の「日露戰爭の意義」、戸水博士の「列國の干渉力」中村博士の「日韓議定書と對韓政策」有賀博士の「韓國保護權の將來」など時事に剴切なる所論の材料富贍を極む。(定價拾五錢)

▲教師之妻

天野淡翠　河井酔茗　合著　敎進社發行

早稲田大學生作と聞いて一見したが、甚しき欠點あるでないけれども、當今の所謂傑作佳作と比較して見劣りせらるゝは是非もない。通讀一番所々何となく隙あるを感ずる。殊に對話は尚一段の習錬を要する。別して未來の模範小學校長の妻君が夫を勵ます詞に慊らない節あるが兎に角著者の才氣は侮るべからずである(定價五十五錢)

▲修身要訓

コメジス原著　淺田清造氏譯　警醒社發行

本書は少年書類の著作者として知られたるセーコップ、アッボット氏のジ、コード、オブ、モーラルス」をピー、ピー、コメジス氏の改刪を加えたるものを兒童の道徳の根本的觀念を明確にせしめむとて最近適切の例を引用して親切に譯せられたる家庭の好讀物なり(代價不詳)

▲日露交戰録

春陽堂發行

開戰以來此種の雜誌の續出したること既に貳拾幾種、編輯其他すべて春陽堂式に出來上りたるは本誌の特式とすべきか(代價七錢)

▲讀書と修養

登張竹風氏著　國光社發行

獨逸のシェンパッハ氏の「讀書と修養」に基き編述せられたるもの竹風氏序して曰はく

然れども、本書は決して飜譯に非ず。當今の大弊風たる趣味の墮落を救ふ所以の道は、一に文藝詩歌に親しむ外はあるべからずとなせるシェーンパッハ氏の意見は、多年著者の懷抱せる所と偶々相同じきを以て、氏の新著に滿腔の同情を表し、彼我を參照して類例を近きに求め成るべくその説をして現代本邦學生諸君の希望に適はしめむとせるが如き、專ら著者の意見に屬す。

と以て内容を知るべし(代價參拾錢)

▲戰爭と婦人

三浦秋水氏著　文明堂發兌

軍國婦人の覺悟、任務を理解し易く説きなされ附録として婦人報告美談を蒐録せられたるもの(代價貳拾五錢)

戰事彙報

第二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰事彙報

●奈古浦丸乘員の無事歸着

二月十一日陸奥艫作崎沖にて撃沈せられたる奈古浦丸船長以下三十七名、船客四名は遭難現場に於て露艦グロンボイ號に救助され二月十四日浦港に着し一時陸上に收容せられ獨逸汽船に便乘して仝廿二日長崎に安着せり尚ほ同船員二名は砲撃を受けたる際砲彈の爲めに即死したり

●日韓議定書

二月二十三日を以て兩國政府代表者の調印を了したる議定書は左の如し

議　定　書

大日本帝國皇帝陛下の特命全權公使林權助及大韓帝國皇帝陛下の外部大臣臨時署理陸軍參將李址鎔は各相當の委任を受け左の條款を協定す

第一條　日韓兩帝國間に恆久不易の親交を保持し東洋の平和を確立する爲め大韓帝國政府は大日本帝國政府を確信し施政の改善に關し其忠告を容るること

第二條　大日本帝國政府は大韓帝國の皇室を確實なる親誼を以て安全康寧ならしむること

第三條　大日本帝國政府は大韓帝國の獨立及領土保全を確實に保障すること

第四條　第三國の侵害により若しくは內亂の爲め大韓帝國の皇室の安寧或は領土の保全に危險ある場合は大日本帝國政府は速に臨機必要の措置を取る可し而して大韓帝國政府は右大日本帝國政府の行動を容易ならしむるため十分便宜を與ふること

大日本帝國政府は前項の目的を達するため軍略上必要の地點を臨機收用することを得ること

第五條　兩國政府は相互の承認を經ずして後來本協約の主意に違反すべき協約を第三國との間に訂立することを得ざること

第六條　本協約に關聯する未悉の細條は大日本帝國代表者と大韓帝國外部大臣との間に臨機協定すること

明治三十七年二月二十三日

特命全權公使　林權助　印

光武八年二月二十三日

外部大臣臨時署理陸軍參將　李址鎔　印

●旅順第四回攻擊港口閉塞の計畫

上村第二艦隊司令長官報告

二月二十六日午後八時五分發電

我艦隊は總て豫定の通り行動し二月二十三日夕旅順方面に近づき旅順港口閉塞の任務を有する特別運送船隊並に其乘員收容の任務を有する水雷艇隊を放つ翌廿四日午前十時豫定集合點にて各驅逐隊水雷艇隊に會す港口閉塞の狀況は報國丸は港口左側燈臺下に武州丸は其外方に至り各自から破壞沈沒天津丸武陽丸は老鐵山の東に至り自ら破壞沈沒仁川丸も亦同樣自ら沈沒す以上五隻の船員は總て收容し得て無事なり我驅逐隊水雷艇隊も總て無事にして港外にバヤーン、ノウヰック及び敵の驅逐艦四五隻あるの報告を得たるを以て同夜我驅逐隊水雷艇隊を分つて旅順口大連灣及び鳩灣の偵察襲擊を命ぜらる

艦隊は迂路を航し二十五日午前七時豫定集合點にて各驅逐隊水雷艇隊に會合せしも未だ其戰況を詳かにするを得ざりし其れより本隊は旅順口に向ひしに港外左方に當りバヤーン、アスコルド、ノウヰックの三隻徘徊し居れるも遠く出でず砲臺下を陸岸近く東四するを見午前十一時四十五分より敵艦及び陸上砲臺に向ひ遠距離砲擊を始む敵艦及陸上砲臺應戰せしも正午過五分ノウヰック先づ港內に逃れアスコルド、パヤーン續て港內に逃走せり此分にては港口閉塞は其效果少なかりしが如く甚だ遺憾に堪へず是に於て各艦巨砲を以て港內に向つて砲擊を行ひ盛に火焰の揚がるを見る砲擊十五分の後之を止め引上げたり此砲戰にて多少敵に損害を與へ且つ港內を威嚇し得たりと信ず

此間我巡洋艦隊は老鐵山附近にて四方より來れる敵の驅逐艦二隻を認め其一を逸せしも他の一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

隻は之を鳩灣に追窮し終に之を擊破せり我艦艇て一の損害死傷なし東鄕聯合艦隊司令長官は猶ほ前進地にあり以上は同長官より報告ある可きも本官より取敢へず報告す

●名譽ある旅順港口閉塞隊員　敵國軍港閉鎖の謀決し東鄕司令長官は各艦長に命して此大計畫大危險の遂行に要する兵員の募集をなさしむるや應する者無慮二千名而して更に撰拔されて其任務に服したるもの實に左の七十七士となす

海軍中佐　有馬　良橘　同大機關士山賀　代三
同　少佐　廣瀨　武夫　同　同　栗田富太郎
同　大尉　齋藤七五郎　同　同　南澤　安雄
同　同　正木　義太　同中機關士大石　親德
同　中尉　島崎　保三　同少機關士杉　政人

同上等兵曹上信乙藏同一等兵曹山田永次郎同同大沼跡次郎同同中川作太郎　同同米良正藏同一等信號兵曹內田角之助　同一等機關兵曹大野喜一郎同二等兵曹角町喜藏　同同林門平同二等機關兵曹增田兵馬同同大山鐵三郎同同塚本一助同同加木英義同同米田健一同三等兵曹赤松虎太郎同三等機關兵曹寺岡庫一　同同木下〆吉同同槇原龜次同同田尻藤八同一等水兵新神卯太郎同一等機關兵土屋勝次郎同同青木吾一同同貝原六郎同同久屋島佐吉同同三宮田由太郎同同竹澤彌七同同高井淸同同日高金右衛門同同藤本金太郎同同田中三九郎同同萬本次郎　松同同田中豐太郎同同飯田良吉同同坂口力松同同高橋運次同同上野岩次郎同同玉井虎之助同同松　木敬吉同同加木至德同同永井右吉同同增山銀藏同同城義三同同三利田鎌次郎同同樋口吉次郎同同高橋勝江同　同田尻利平同二等水兵安保助藏同二等機關兵(戰死)梅原健藏同同伊豆音松同同三宅健　六同同宇野虎藏同同三村千馬同同竹野啓二　同同佐藤七郎同同木戶高同同深山長作同同　飯牟呂梅一同同吉田巳之次郎同同中田慶一郎同同四宮大夫同同平濵六松同三等機關兵相原善七同同　石井銀次郎同同森田高義同同谷田嶋淸同同青木勝助同四　等機關兵橋本留次郎

●議會召集の詔勅　三月二日を以て議會召集の詔敕を發せられたり

朕軍國ノ急務ニ關シ議會ノ協贊ヲ望ムモノアリ玆ニ期ニ先チ三月十八日ヲ以テ臨時帝國議會ヲ東京ニ召集シ十日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス百僚臣庶其レ朕カ意ヲ體セヨ

御名御璽

明治三十七年三月二日

(各大臣副署)

●旅順口閉塞の結果　三月三日午後七時三十分着電東鄕聯合艦隊司令長官の報告左の如し

旅順口閉塞の結果に就き玆に其概要を報告したる處其後閉塞隊指揮官有馬良橘よりの報告に依れば武州丸は敵彈の爲め舵機を破壞せられ饅頭山下に擱岸し廣瀨武夫の指揮せる報國丸は殆ど港口に達したるとき其側に坐礁せるレトウヰザンより猛烈なる射擊を蒙むり同じく舵機を破壞せられ且船首に火災を起し遂に燈臺下に擱岸沈沒せり又齋藤七五郎の指揮せる仁川丸も港口に入らんとするとき燈臺より南東約二鏈半の位置にて沈船と思はるゝものに牴觸し進行する能はずして其位置に爆發沈沒したるなり右報國丸仁川丸の二隻は完全に港口を閉塞せざるも目的の一部は達し得たるものなり仁川丸の閉塞隊員中二等機關兵梅原健藏は沈置後端艇を卸さんとする際敵彈の爲め戰死せり其他報國丸の下士卒三名輕傷したる外閉塞隊員は皆無事に我水雷艇隊に收容されたり

勇敢なる閉塞隊員並に之れが收容に從事したる水雷艇隊等が天明に至る迄長時間敵の砲火を蒙りたるに拘らず斯の如く些少の死傷を以て生還したるは眞に奇異の現象にして一に大元帥陛下御威德の擁護に因るものと云ふの外なし右前報告に洩れたるを以て更に報告す

●韓國特派大使　三月七日大勳位侯爵伊藤博文を宮中に召され左の御沙汰ありたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

樞密院議長
大勳位侯爵　伊藤博文

今般韓國皇帝御慰問の思召を以て特派大使として被差遣

大使の一行は三月十三日を以て發京せられたり

●浦鹽砲撃　上村少將の率ゆる第二艦隊は三月六日を以て浦鹽斯德を攻撃したり其公報左の如し

上村第二艦隊司令官報告
三月十日午前二時卅分着

豫定の如く六日朝結氷せる海を航し浦鹽斯德東口に達せり敵艦軍港外に見えずバサルギン岬半嶋及びボスフオール海峽砲臺の射界を避けたる位置より北東陸岸砲臺下に接近し午後一時五十分より約四十分間間接射撃を以て港内に向ひ威赫砲撃せし後引上げたり此砲撃は相應の効果ありしと信ず陸上砲臺には陸兵を見しも更に應戰せず午後五時頃東口方向に當り黒煙の揚るを見る或は敵艦の出て來りしが如くなりしも煙は次第に消滅し判明ならず七日朝亞米利加灣スツレローク灣を偵察せしも異狀なし正午再び浦鹽斯德東口に迫りたるも敵艦見えず砲臺發砲せず其れより轉じてポシエツト灣を偵察せしも敵なし右報告す

●第五回旅順大連大攻撃　東鄉聯合艦隊司令長官の率ゆる艦隊は更に三月十日を以て旅順大連の二門を攻撃し大に獲るところあり其公報は

東鄉聯合艦隊司令長官報告
三月十二日午後八時十分東京着電

聯合艦隊は豫定の如く行動して更に十日旅順口の敵を攻撃せり

驅逐隊の二隊同日午前零時旅順口港外に達し港外を捜索して敵なきを認め天明迄港外に留まりて乙驅逐隊は各所に特種の機械水雷を沈置せしが敵の要塞は之に對し時々砲撃したるも我驅逐隊は無事其目的を達するを得たり

然るに午前四時三十分頃甲驅逐隊は老鐵山の南方に於て約六隻より成る敵の驅逐隊に會し近距離に於て約二十分間激戰し朝潮、霞、曉の三艦は敵の諸艦と殆ど舷々相摩せんとするが如く接戰し敵の三四艦に猛烈なる砲火を加へたるを以て敵は或は汽罐を破損し、或火災を起し或は悲鳴を揚げ多大の損害を負うて敗走せり我三艦も亦敵彈の爲め多少の損害を被り死傷十五名内戰死下士卒七名負傷霞の大機關士南澤安雄の外下士卒七名ありたり就中曉は汽罐の補助汽管を破壞せられ一時漏汽したるが故に機關兵四名熱傷に依り戰死せり但し各艦共に戰鬪航海に支障あらず又乙驅逐隊は午前七時港外を去らんとする際偶々洋中より旅順口に入らんとする敵の驅逐艦二隻を發見し直に其前路を遮りて之を攻撃し戰鬪約一時間多大の損害を加へたる後其一隻を逸したるも他の一隻ステレグーシチー號を擊破し敵の要塞砲火の下に於て漣は之を捕獲し曳航しつつありしも漏水甚だしく且つ波浪高く曳綱切斷せしを以て捕虜兵四名を收容して捕獲敵艦を放棄せり其後午前十時十五分に至り右ステレグーシチー號は全く沈沒せり

此戰鬪に於て乙驅逐隊の諸艦にも損害ありしも多大ならず漣、曙の二艦に戰死卒二名負傷曙の少尉島祐吉外下士卒三名ありたり

是れより先き敵艦ノーウヰク及びバヤーンは港外に出て來りて我乙驅逐隊に向ひ進航し來りしが我巡洋艦隊の港外に接近するを見て港内に退却せり

我主力艦隊及び巡洋艦隊は同日午前八時旅順口沖に達し巡洋艦隊は直に港口正面に進み我驅逐隊を掩護し次で主力艦隊も亦老鐵山附近に至り午前十時より午後一時四十分迄連續港口に對し間接射撃を行へり巡洋艦の一隊が港口正面より看的報告するところに依れば其彈着は概して良好にして其効果少なからざりしものゝ如し我砲撃中敵の要塞も時々應戰したるも我艦隊の諸艦は一の損傷なかりし又巡洋艦の他の二隊は大連灣外に至り港口三山嶋に於ける敵の建設物を砲

擊破壞せり又高砂、千早は特に旅順口牛嶋の西岸を索敵せしも敵を見ず前回の攻擊に於て我巡洋艦隊に擊破せられ鳩灣に擱岸したる敵の驅逐艦はウヌシーテリヌイにして今や檣及び煙突の上部を水面上に現はして沈沒し居れり我各部隊は午後二時戰鬪を止め一旦豫定地點に集合したる後引上げたり

（本報告は三月十一日認めたるものなり）

●國債應募の成蹟　國庫債劵の應募總額の確定したる金額は

價格以上申込	一三、四四五、三〇〇
價格申込	四一八、六六九、八〇〇
合計	四五二、一一五、一〇〇

●帝國議會開院式　軍國の緊急問題を解決すべく召集せられたる臨時帝國議會は三月廿日を以て開院式を擧行されたり當日　皇太子殿下は貴族院に行啓參列遊はされたり

勅語

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

帝國ト締盟各國トノ交際益ス親厚ヲ加フルハ朕深ク之ヲ欣フ

朕ハ東洋平和ヲ永遠ニ保持スルノ目的ヲ以テ朕カ政府ヲシテ露國ト交涉セシメタリ而モ露國ハ平和ヲ尊重スルノ誠意ヲ缺キ遂ニ干戈相見ルニ至レルハ朕カ憾トスル所ナリ然レトモ事既ニ此ニ至ル交戰ノ目的ヲ達セスムハ止ムヘカラス今ヤ朕カ軍人ハ艱苦ヲ排シテ其ノ忠勇ヲ致セリ朕ハ帝國臣民カ協同一致以テ國光ヲ宣揚セムコトヲ望ム

朕ハ國務大臣ニ命シテ特ニ時局ニ關シ緊急ナル豫算案及法律案ヲ提出セシム卿等克ク朕カ意ヲ體シ和衷協贊ノ任ヲ竭シ以テ朕カ望ム所ニ副ヘヨ

●帝國議會の第一日　衆議院は三月二十三日を以て會議は開かれたり桂首相、小村外相、曾根藏相は順次登壇演說せり、首相の演說は滿場、水を打ちたる如き靜肅と熱心とを以て迎えられたり

●桂首相の演說

諸君本大臣は此振古未曾有の時機に當り召集せられたる當議會にて諸君と共に聖謨を翼贊し奉るべき責任を有するを光榮とす

抑締盟列國との交誼を厚ふし列國正當なる利權を尊重し以て東洋の平和を永遠に保持し帝國の地位を鞏固ならしむることは帝國の國是とする所なり然るに露國の滿州及韓國に於ける施設行動は實に此の國是と相容れざるものあるを以て政府は聖旨を奉じて昨年七月以來露國政府と交涉を重ねたり而も露國は誠意を以て我交涉を迎へざるのみならず益々我國權を侵害するの行動に出てゝ憚る處なし是に於て帝國は自衛上交涉を斷絕して自由行動を取るの止むを得ざるに至れり我政府が此交涉を爲すに方り戰爭の社會に及ぼすべき結果の非常なることを思ひ切に平和の終局を見んと欲して守持したる正義と忍耐とは既に何れの國民にも十分了解せられたる所なるべきを信ず

諸君今日の場合擧國一致一に聖旨を奉戴して交戰の目的を遂し勝を全局に制して速に平和を克復するに勉むるは實に帝國臣民の皆其志を同ふする所なるを疑はず政府は此に軍國の必要に應ずる爲め財政の計畫を定め豫算及法律諸案は既に勅旨を奉じて當議會に提出せり尚ほ外交の經過及財政の計畫に付ては主務大臣より陳述せらるる所あるべし諸君が公平なる審議を盡し速に協贊を與へられんことを切望す

諸君開戰以來我忠勇なる軍人が萬艱を冒して若々大功を奏せるの報に接せるは諸君と共に之を稱贊せんとす諸君は既に此の議會に列し優渥な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る詔勅を奉ぜられたり 本大臣等は諸君と共に一に軍國の大事を翼賛し 聖旨の厚きに副ひ奉らんことを期す

全日提出せられたる諸法案並に豫算案は

一、臨時事件費支辨に關する法律案
一、陸海軍に屬する臨時事件費特別會計法案
一、非常特別税法案
一、醫藥工業用酒精戻税法中改正法律案
一、明治三十四年法律第十號中改正法律案
一、沖繩縣酒類出港税則中改正法律案
一、醬油税則中改正法律案
一、自家用醬油税法中改正法律案
一、關税定率法中改正法律案
一、輸入原料砂糖税法廢止法律案
一、間接國税犯則者處分法中改正法律案
一、地租徴收に關する法律案
一、沖繩縣滞納舊租延納法案
一、煙草專賣法案
一、臺灣事業公債法中改正法律案
一、渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律案
一、記名の國債を目的とする質權の設定に關する法律案
一、貯蓄勸業債券法案
一、臨時軍事費豫算案
一、明治三十七年度歳入歳出總豫算追加案
一、明治三十七年度特別會計歳入歳出豫算追加案
一、明治三十六年勅令第二百九十一號事後承諾を求むる件
一、防禦海面令 同上
一、明治三十七年勅令第十九號 同上
一、臨時事件費豫算外支出の件 同上

の諸件なりき

●日露外交日記 三月廿三日帝國議會に向つて報告したる日露交渉に關する往復書に由り左に其大要を抄録す（三月廿四日萬朝報所掲）

卅六年七月廿八日 外相より栗野公使へ、協商の商議を開くに付露國政府の意向を確むべきことを訓令す

七月卅一日 栗野より外相へ、露國外務大臣ラムスドルフは一已の意見として異議なきも露帝の允可を得て確答する旨回答せりと報告す（八月二日着）

八月三日 小村より栗野へ、日露協商の内容を示したり、其の内容は六ヶ條より成り韓國に於て日本優先權を得、韓國鐵道を滿州に延長するも露國をして異議なからしむる事等其の主點たり

八月五日 栗野より小村へ、ラムスドルフ日本と協商の件露帝の允可を得たることを回報し來る（六日着）

八月六日 小村より栗野へ、協商の内容を提議すべきことを訓令す

八月十二日 栗野より、大協商案をラムスドルフに手交したることを報ず（十四日着）

八月廿四日 栗野より、ラムスドルフが本件商議を東京に移すべしと發議せる旨報告す（廿五日着）

八月廿六日 小村より栗野へ、商議地移轉に反對すべきことを訓令す

八月廿七日 栗野より、ラムスドルフが前議を固執する旨回報す（廿八日着）

八月廿九日 小村より栗野へ、重ねて商議地變更に反對し且つ日本の提案を商議の基礎と爲さんことを訓令す

八月卅一日 栗野より、ラムスドルフが右に異議あることを報告す（九月二日着）

九月二日 小村より栗野へ、再應露都にて商議すべきことを注意す

九月五日 栗野より、ラムスドルフが東京にて商議し且つ日露兩國の提案を商議の基礎と爲さんことを主張する旨回報す（六日着）

九月七日 小村より栗野へ、右に同意し且つ速かに露國對案の提出を求むべき旨訓令す

九月九日 栗野より、ローゼン及び極東總督ア

レキシーフが既に必要の訓令を受けたるとを回報す(十日着)

九月廿四日　小村より栗野へ、ローゼンが廿二日旅順に向へるとを報ず

十月五日　(同上)ローゼン旅順より三日歸京し韓國に於て北緯卅九度以北を中立地帶と爲すべきと滿州は全然日本の利益範圍外なるとを日本に於て承認すべき事等八ヶ條の提議を爲したる旨報告す

十月八日　(同上)ローゼンと會商を開始したるとを報ず

十月十六日　(同上)露國の發案に對し提出したる修正案の內容を示す、內容の主なる點は、滿韓境上に兩側各五十キロメートルの中立地帶を設け、露國をして滿州に於ける淸國の主權及び領土保全を承認し日本の通商を妨害せざるとを約せしむるに在り

十月廿二日　(同上)ローゼンと會商のとを內示す、小村ローゼン互ひに主張相讓らず

十月廿九日　(同上)ローゼンが本國の承認を得、日本の韓國に派兵するの權利あると及び國境に中立地帶を設くるの案に同意したるとを內示す

十月三十日　(同上)小村は此の日ローゼンに對し確定修正案を提出したり其の內容十一ヶ條より成り、殆んど全く滿韓交換案なり

十一月一日　小村より栗野へ、ローゼンが右修正案に付本國政府に訓令を仰げるを以てラムスドルフに對し十分主張を說明すべき旨訓令す

十一月三日　栗野より、二日ラムスドルフ代理に會見したるとを報ず(同日着)

十一月十三日　(同上)二日ラムスドルフに會見しラムスドルフが滿州問題に於て容易に讓步するの色なきとを報ず(同日着)

十一月廿一日　小村より栗野へ、アレキシーフが修正案を露政府へ發したりとの電報十四日に達せる旨廿日ローゼンより談話あり露政府が速かにローゼンに發訓を求むべき旨訓令す

十一月廿二日　栗野より、ラムスドルフが目下露帝の皇后病氣の爲自然裁決の遲延する旨答へたると、且つ談話の語氣より察するにアレキシーフの修正案は日本の利益に非ざる旨回報す(廿三日着)

十一月廿八日　小村より栗野へ、再び露國へローゼンへ訓令のとを促さしむ

十一月廿七日　栗野より、ラムスドルフは廿五日露帝へ謁見の筈なりしも皇后不豫のため延引したる旨報ず(廿八日着)

十二月二日　小村より栗野へ、交渉の重大なるが故に露國が速かに之を解決せんとを促がさしむ

十二月二日　栗野より、露國が尙ほアレキシー・フと電報往復中なるとを報ず(三日着)

十二月四日　(同上)三日ラムスドルフと會見したるに、ラムスドルフは尙ほアレキシーフと商議中なると及び露帝が五日還幸するに付九日謁見する旨語れりと報ず(即日着)

十二月九日　(同上)九日ラムスドルフはアレキシーフの提案を基礎として談判を繼續すべきとを八日アレキシーフ及びローゼンに電命されたる旨語れりと報ず(十日着)

十二月十二日　小村より栗野へ、十一日ローゼンが日本の修正確定案に對し六ヶ條の別案を出したるとを報ず、此の內露が再び韓國に於て北緯卅九度以北を中立地帶とするの個條あり、アレキシーフの案にして日本を輕侮したるもの也

十二月廿二日　(同上)廿一日よりローゼンと會見し、中立地帶を全然削除し朝鮮海峽の自由航行を迫害し得べき兵要工事を韓國沿岸に設けざるとを相約する事に修正すべしと提議したり、之をラムスドルフに致して速に回答を求むべしと訓令す

十二月廿三日　栗野より、右の覺書をラムスド

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ルフに手交したることを報ず(廿四日着)

卅七年一月一日　(同上)ラムストルフが能く商議すべしと答へたる旨報ず(即日着)

一月七日　小村より栗野へ、六日ローゼンより露國の復答を致したり、主なる點は日本が韓國の一部たりとも軍略上の目的に使用せざること、北緯卅九度以北を中立地帶と爲すことを固執し、日本之に同意せば、而して滿州を以て日本の利益範圍外なることを承認せば、露國が日本と清國との現行條約により獲得したる權利及び特權(但し居留地設定を除く)を享有することを阻礙せざるべしといふに在り

一月十三日　(同上)十三日ローゼンに會見し露國の主張(兵要工事云々)を削除し、中立地帶說全部を削除し、且つ滿州に於ける清國の主權及び領土保全を露國に於て承認することを並に條約上の取得權を阻礙せざることを約することを主張し、且つ此の上遷延するの非なることを明言せしに由り、之を覺書としてラムスドルフに致すべきを訓令す

一月廿三日　(同上)右に付ラムスドルフの意見を確むべしと訓令す

一月廿五日　栗野より、廿四日ラムスドルフに會見せしに、廿六日露帝に謁見して不日回答すべきことを語れりと報す(即日着)

一月廿六日　小村より栗野へ更に露國政府の回答を促さしむ

一月廿七日　栗野より、ラムスドルフが廿八日海陸兩大臣及び關係官會議し其の決議を以て露帝の裁可を乞ふ筈ゆゑ不日回答し得べし、アレキシーフも來會の筈なりしが見合せ、電報にて意見を申したりと語り、且つ日本が多數の軍隊を韓國に送りたるは如何と質問せる旨報告す(廿七日着)

一月廿八日　小村より栗野へ、韓國へ軍隊派遣の無根なるを報じ、却て露兵が鴨綠江邊へ集中すること及び廿八日會議の性質等を質問すべしと訓令す

一月廿八日　栗野より、ラムスドルフが我が說明に滿足し、鴨綠江邊へ露兵集中の無根なることを辨明し、廿八日の會議は列席者各自に露帝へ意見を上奏するものなることを、アレキシーフ太公、陸海軍大臣等は二月一日、陸軍大臣外務大臣は同二日謁見の筈なることを、成るべく二月二日に回答すべき旨繰返し語れりと報ず(廿九日着)

一月卅日　小村より栗野へ、時局遷延は重大なる不利益なる事、露國政府が二月二日に回答すべしといふの不可能なるが如く見ゆる事をラムスドルフに明言し、更に回答を促がすべしと訓令す

二月一日　栗野より、一月卅一日ラムスドルフに會見したるに、彼がアレキシーフの意見を調和する必要あり、從て露帝の裁斷を待つため回答の期日を明言し能はざる旨語れりと報ず(即日着)

二月五日　小村より栗野へ、露國政府に交涉斷絕を聲言し、並びに公使館引拂ひを通牒すべしと訓令す(午後二時發)

二月五日　栗野より、四日ラムスドルフと會見したるに、唯今回答の要旨をアレキシーフに送致せることを告げ、一個の私見として略ぼ前來固執せる所と同一の說を爲したる旨報ず(午前五時五分發、午後五時十五分着)

二月六日　栗野より交涉斷絕及び公使館引拂を六日午後四時ラムスドルフに報したることを、並に自身は十日露都を引揚ることを報じ來る(午後五時五十七分發、七日午前五時四十五分着)

●旅順第六回攻擊公報

東鄕聯合艦隊司令長官報告

三月廿四日午後六時五十分東京着電

聯合艦隊は豫定の如く行動し兩驅逐隊は廿一日夜より廿二日未明迄旅順港口外に在て與へたる任務を遂行せり 此間多少敵の砲火を蒙りしも別に損傷なし 又本隊及巡洋艦隊は廿二日午前八時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

旅順口沖に達し其一部を鳩灣の方向に遣はし富士八島をして港内に對し間接射撃を行はしめたり

此砲撃中敵艦は漸次に港外に出て來り午後二時過ぎ間接射撃を止むるの頃其數戰艦五隻巡洋艦四隻驅逐艦十隻となれり敵は終始砲臺下に運動し我を誘致せんとするものと認めたり又敵艦より〻間接射撃をなしたるもの〻如く特に富士の附近に着彈多かりしが一も損傷なし

我各部隊は午後三時迄に港外を去り引上げたり

●旅順第七回攻撃港口閉塞

再度の計畫

東郷聯合艦隊司令長官報告
三月廿八日午後東京着電

聯合艦隊は去二十六日再び旅順口に向ひ同二十七日午前三時三十分敵港閉塞を決行せり四隻の閉塞隊は驅逐隊及水雷艇隊掩護の下に旅順口港外に達し敵の探海燈の照射を冒して港口に直進し約二海里に達する頃敵の發見する所となり兩岸の要塞及哨艇より猛烈なる砲火を受けしも之に屈せず四隻相次て港口水道に闖入し第一の千代丸は金黄山の四側に於て海岸より約半鏈の處に拔錨爆沈し第二の福井丸は千代丸の左側を過て少しく前方に進み投錨せんとするとき敵驅逐艦より魚形水雷一發命中し次て其の位地に爆發沈沒し第三彌彦丸も福井丸の左側に出て投錨爆沈せり第四の米山丸は稍々後れて港口に達し敵の一驅逐の艦尾を衝突しながら既に沈沒せる千代丸と福井丸との間を通過し水道の中央に投錨せし時敵の魚形水雷一發を受け爆裂し惰力の爲め左岸に近く船首を左にして横に沈沒せり敵の猛烈なる砲火の下に於て斯の如く勇敢沈着其任務を遂行したるは事業として間然する所なく誠に賞讚するに餘あり唯遺憾なるは彌生丸と米山丸との間に尚ほ空隙を存し完全に通路を閉塞するを得ざりし一事なりとす此壯烈なる閉塞の再擧は前回之れに從事せし勇士の願を容れ將校及機關士切主として前回の者をして之に任ぜしめ下士以下のみは新志願者を以て交代せしめたり閉塞隊員中戰死中佐廣瀬武夫、兵曹長杉野孫七、外下士卒二名重傷中尉、島田初藏、傷輕大尉正木義太、大機關士關栗田富太郎外下士卒六名にして其他は悉く無事我水雷艇驅逐隊に收容されたり戰死者中福井丸の廣瀬中佐及杉野兵曹長の最後は頗る壯烈にして同船の投錨せんとするや杉野兵曹長は爆發藥に點火する爲め船艙に下りし時敵の魚形水雷命中したるを以て遂に戰死せるもの〻如く廣瀬中佐は乘員を端舟に乘移らしめ杉野兵曹長の見當らざる爲め自ら三たび船内を捜索したるも船體漸次に沈沒海水上甲板に達せるを以て止むを得ず端舟に下り本船を離れ敵彈の下を退却せる際一巨彈中佐の頭部を撃ち中佐の體は一片の肉塊を艇内に殘して海中に墜落したるものなり中佐は平時に於ても常に軍人の龜鑑たるのみならず其最後に於ても萬世不滅の好鑑を殘せる者と謂つべし閉塞隊員の掩護收容に就ては直接其任に當りし水雷隊最も其力を盡し天明過ぐる迄敵の砲火に暴露して其任務を遂行せり就中蒼鷹、燕の二艇は閉塞船隊を護衞して港口り約一海里に達し敵驅逐艦一隻と會し多大の損害を加へ敵は汽罐を破裂されたるも隊の〻如く盛に蒸汽を吹しつ〻退却せり閉塞戰の端舟を港外に退却するとき目撃する所によれば敵艦と認むべきもの黄金山下に於て全く進退自由を失ひたるもの〻如くなりしと云ふ

我水雷艇隊驅逐隊は天明過ぐる迄熾なる敵の砲火を冒りしに拘らず寸毫も損傷なし閉塞隊員の收容は千代丸及彌彦丸の乘員は燕に米山丸乘員は端舟三隻に分乘して鷗、雁に收容され福井丸の乘員は霞に收容されたり

「備考」

閉塞隊を掩護したる驅逐隊及水雷艇隊は左の如し

驅逐隊
白雲、霞、朝潮、曉、雷、曙、朧、電、薄雲、漣、東雲

水雷艇隊
雁、蒼鷹、鴿、燕、鷗、眞鶴

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

投稿規定

每月十八日を以て編輯總締切日と致し候に就き何卒それまでに着する樣願上候猶投稿諸君は**住所記入**を御忘れ無き樣被成下度候宛名は東京市本郷區駒込西片町拾番地反省社

書籍の取次

愛讀者諸君の便宜を計りて今後本社にて書籍の取次を致し候東京市内にて發行の書籍は總て正確迅速に取次可仕候に就き申込の諸君は書名著者發行所等を認め代金及び遞送料を前金にて御送り被下度候

中央公論 定價表

	定價	郵稅共
一冊	金拾貳錢	金拾參錢
六冊	金六拾五錢	金七拾壹錢
十二冊	金壹圓貳拾錢	金壹圓卅貳錢

中央公論 廣告料

一行(五號文字二十四字詰)	一回	金貳拾錢
四分の一頁	一回	金貳圓五拾錢
半頁	一回	金四圓
一頁	一回	金八圓
表紙の二三四一頁	一回	金拾五圓

廣告一手取扱 博報堂

送金注意

一郵便爲替は受取人指定欄へ必ず弊社町名并に社名を拂渡局所を**東京駒込**局と指定せられたし弊社印鑑は駒込支局へ差出有之候に付決して途中にて盜取せらるゝ憂なし

一郵券代用の場合は必す壹割增のこと

一誌代、廣告料とも總て前金にあらされは御需めに應せす

一前金切の節は帶封に朱書いたすべくに付早速拂込まれたし然らされは其號限にて發送を止むべし

一雜誌の發送を以て領收の證といたすべくに付別に領收證を望まるゝ向は返信料を添えられたし

一御拂込み金額の端金の場合には左表に準し御勘定可致に付御注意相成たし

一金七拾壹錢以下	一部金拾參錢の割
一金壹圓參拾貳錢以下	一部金拾貳錢の割

都下大賣捌所
神田表神保町 東京堂
神田裏神保町 上田屋
本鄉四丁目 文明堂

明治三十七年三月三十一日印刷
明治三十七年四月一日發行

發行兼編輯人 武田福松
印刷人 清水金右衞門
發行所 東京市本郷區駒込西片町十番地 (電話下谷九一九) 反省社
印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 秀英舍第一工場

曉烏敏氏評序
楠龍造氏著述
新刊
他力宗教論
四六版二百三十頁
一册正價三十五錢
郵稅金六錢

戒律的宗教の窮まる所信心正困の宗教となる、正義的宗教は變じて愛の德音となる、他力信仰はこれ宗教の極致に非ずや。著者は信仰の精髓を以て『佛說大無量壽經』一部にありとなし、之を體讀せし人は親鸞聖人なりと信じ、同く其迹を追ふもの。此書內篇十七章は系を追ふて他力信仰の敎義を論じ、外篇は人物及び聖賢の書にあらはれたる他力信仰の實力を說けり、著者は之を公にするを以て自己の責任と感ずるものなり。

文學士　近角常觀氏著
信仰問題
新刊
▲寫眞版九枚入
▲價　五十錢
▲郵稅八錢

如何にして信仰を得べきかとは現時靑年の叫びにして、如何なる信仰を以て社會を經營すべきかとは二十世紀の問題也本書は即ちこれ等の問題に答へたるもの也

發行所　東京市本鄉四丁目　文明堂　上田屋。東京堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

英文研鑽の良師
時代青年の好伴侶

英和對譯
戰報 THE WAR NEWS
英和對譯

征露海陸の戰報
東亞空前の戰史

毎月三回五の日發行 初號三月五日
定價金五錢郵稅五厘
肖像繪畫挿入
發行所 東京市京橋區尾張町新地
則鳴社

發賣元●北隆館●大賣捌所●東京堂●東海堂●其他

海外苦學案內

著者が多年海外にありて苦學實驗の結果歐米遊學者の爲め特に精密懇切に說述せられたるものなり

寺家村少佐序文
在米 藤本西洲
日本 秋廣秋郊 共著
全一冊 定價卅錢 郵稅四錢

東京神田 千代田町
博報堂

貴族院副議長 黒田長成君題字
東京市長 尾崎行雄君序文
萬朝報教育記者 松山傳十郎君著

立憲國の少年

見本は郵券十錢

全壹冊
大和綴頗美本
定價金八錢
郵稅金二錢

目次
國體、憲法、權利、義務、政治、
議會、外交、自治

本書は唱歌體にして唱歌にあらず少年女子の爲に最も平易に日本の國體等以上目次の下に詳記せられたれば小學生徒賞與書としては無比の良書なり

新刊
露國征討軍歌
陸軍少將 福島安正君作歌
小山作之助先生作曲
全壹冊
定價金三錢
郵稅二錢

兩殿下鮮明御肖像入
東京教育社說編
九重の華
定價金九錢郵稅金二錢

谷口政德先生著
偉人と豪傑 少年時代
定價金十二錢郵稅金二錢

白井毅君吉田賴吉君合著
學生の憲法
定價十二錢郵稅金二錢

千代田學會編
家庭教の師
定價金八錢郵稅金二錢
出版

發兌元 東京市神田區千代田町（電話本局百四十四番）
博報堂 部

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見よ！日露戰爭紀念の一大畫報

冨山房發行 日露戰報

軍國画報

定期增刊 每月一回三日發行

●第壹號 四月三日 神武天皇祭の佳辰を以て生る

征露の役は東洋空前の大戰爭にして又世界屈指の大活劇也。其光景火の如く花の如きものある怪むに足らず、殊に我が忠勇なる將士が艦上に野營に萬死を冒して砲烟血雨の間に馳驅するの壯觀に至りては到底區々の文字を以て說明し難きものあり、我社今回新に軍國畫報を發刊し當代第一流の畫伯が苦心慘憺の餘りになれる麗妙なる繪畫有益適切なる寫眞寫生畫を收輯し戰報と配して軍國內外一切の出來事を報道せんとす即ち最も整備せる軍國一大パノラマにして坐ながら實戰の地に臨むの概あらしむ若しそれ材料につきては我社既に數名の畫工寫眞師を交戰地に特派しあり豐富無限縱横自在坊間決して比類なきを信ず就中一昨年式部官稻葉子爵が歐亞の露領を跋涉して自ら撮影せられたる珍奇の寫眞數百枚は盡く我社畫報のために寄與せられたるあり繪畫に活動の光景骨鳴り肉躍るを覺ゆ即ち軍記事に通信に彼我國民に取りて最も有益多趣味なる戰爭畫報なると共に一は紀念品として子孫後世に遺ふべき一大畫帖也

●額面用大判 縱一尺二寸 橫八寸五分 精巧美麗着色十二回刷 石版畫及三色版石版 木版 光澤寫眞等 計六十餘挿入

●定價 一冊金廿八錢●三冊前金八十二錢●六冊前金一圓五十八錢●十二冊前金三圓●別に郵稅一冊二錢宛●

發行所 東京市神田區裏神保町 合資會社 冨山房

明治三十年一月廿九日 第三種郵便物認可

發行所（電話下谷九一九） 東京市本郷區西片町十番地 反省社

No. 181.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA
MADE IN JAPAN